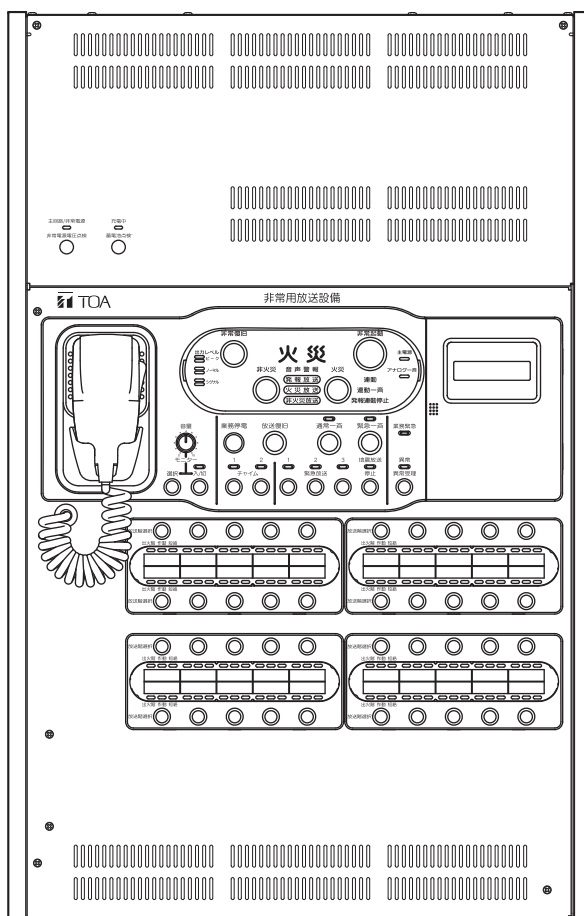


壁掛型非常用放送設備

型名 FS-1000 Ver. 4



保守契約のおすすめ

- 非常用放送設備の保守点検は消防法で義務づけられています。
- 保守点検には法律で定められた資格を有する必要があります。そのため、設置時に納入業者に保守点検契約をお申しつけください。すでに設置済みであるにもかかわらず契約されていないお客様はお急ぎください。
- 保守契約料金は設備とは別に計上してください。

このたびは、TOA 壁掛型非常用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しくご使用いただくために、必ずこの操作説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目次

安全上のご注意	4
ニカド電池のリサイクルについて	5
使用上のご注意	6
付属説明書の構成	6
各部の名称とはたらき	7
壁掛型非常用放送設備 FS-1000 システム	7
業務用電源ユニット FS-1000GU	13
卓上型リモートマイク RM-200F	14
卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F	15
壁掛型リモートマイク RM-200FW	16
壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW	17
放送の種類と概要	18
緊急地震放送	18
非常放送	18
業務放送	18
放送モード	19
業務停電放送	19
アナログ一斉放送	19
非常放送のしくみ	20
非常放送の起動方法	20
音声メッセージ	20
非常放送の動作モード	21
起動方法と動作モードの関係	22
火災放送移行タイマーと一斉移行タイマー	22
非常放送のしかた	23
非常放送の操作で使用するスイッチ	23
自火報感知器起動の場合	24
非常電話・発信機起動の場合	26
手動起動の場合	28
音声メッセージの一覧	31
業務放送のしかた	33
業務放送の種類	33
本体放送のしかた	34
放送階選択スイッチによる BGM 放送のしかた	36
緊急放送のしかた	37
業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた	38
その他端子入力を使用した放送のしかた	41

業務放送の機能	42
放送の優先度	42
本体・非常 RM・業務 RM 放送時の各音源の動作	49
グループ放送	50
作動表示灯の表示	51
業務用リモコンの放送状態の表示)	55
通常放送モードと業務緊急モード	58
放送モニター機能	58
業務停電放送	59
業務停電放送とは	59
業務停電放送のしかた	59
緊急地震放送	61
緊急地震放送の流れ	61
緊急地震放送時の非常放送の動作	62
日常点検	63
自動点検	63
手動点検	65
異常表示の一覧	67
ニカド電池の交換について	68
非常放送用語	70



安全上のご注意

- ご使用前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号	行為を強制する記号
 分解禁止	 強制
 禁止	



誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源ブレーカーを遮断して販売店にご連絡ください。

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



強制

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

火災・感電の原因となります。



禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容
および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

上面および前面の通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。



禁止

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



禁止

製品の上に乗らない

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



強制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

ニカド電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。

守らないと、電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱をしたり、火の中に入れてたりしない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 指定した電池を使用する。
- (+)と(-)に注意し、表示どおり正しく入れる。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。



強制

ニカド電池のリサイクルについて



Ni-Cd

ニカド電池のリサイクルにご協力ください

本機にはニカド電池を使用しています。

ニカド電池はリサイクルが可能な、貴重な資源です。

電池の交換および使用済み製品の廃棄に際しては、電池を取り出し、リサイクルへご協力ください。

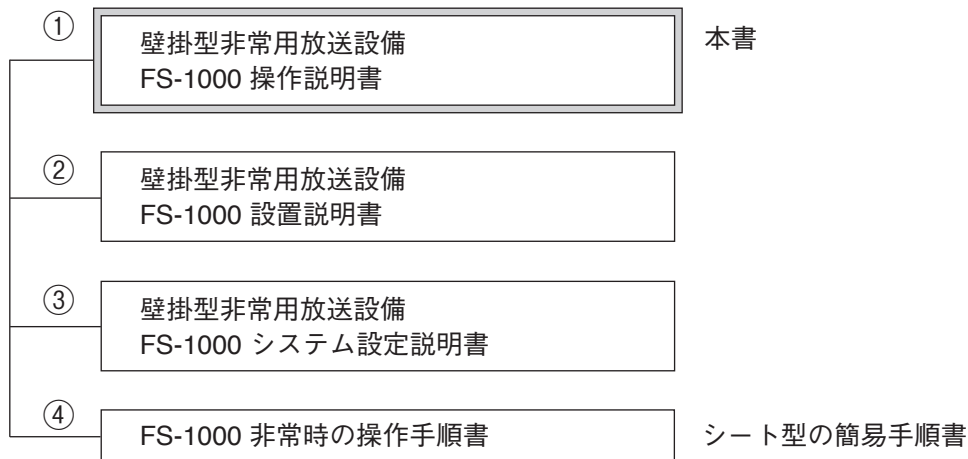
使用済みの電池は、捨てないで、お買い上げの販売店または当社営業所へ返却してください。

使用上のご注意

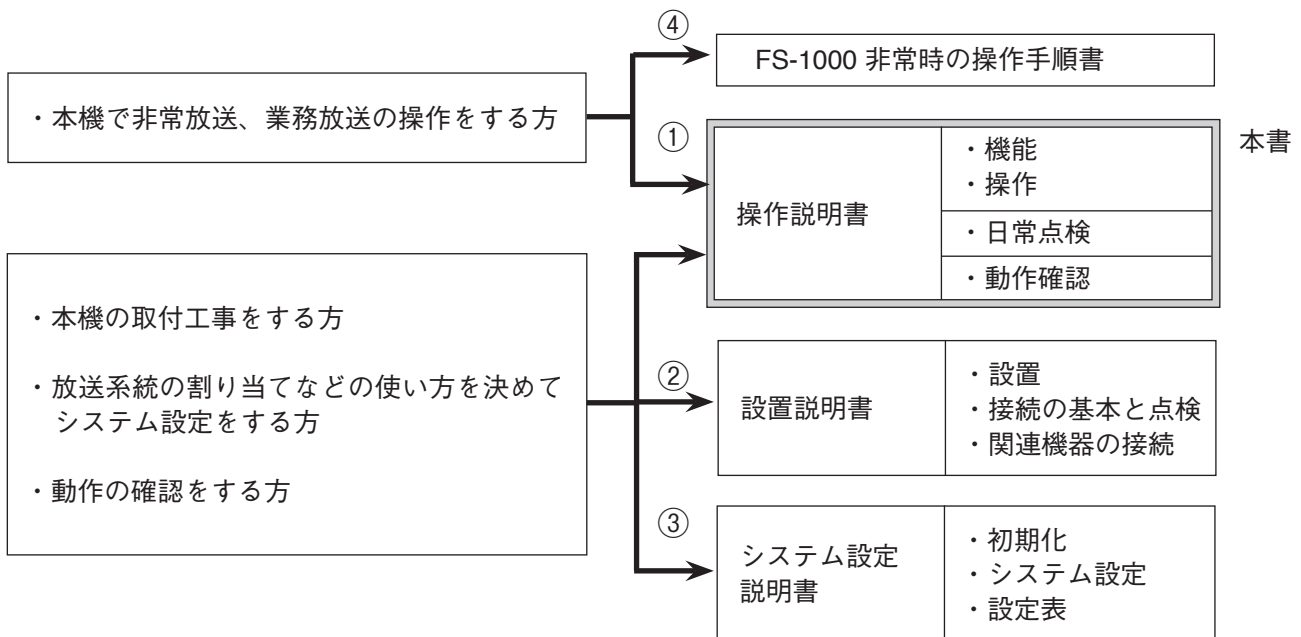
- 取付工事は販売店におまかせください。
本機の移動や別売ユニットの工事は販売店にお申しつけください。
- 汚れは柔らかい布で軽くふいてください。
ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。
変形や変色の原因になります。
- 「非常時の操作手順書」(シート型)は本機の近くに置いてください。
操作手順書(シート型)をよく見える所に置いてください。

付属説明書の構成

この機器には、次の説明書が付属しています。



お客様の目的により必要な説明書をお読みください。



各部の名称とはたらき

■ 壁掛型非常用放送設備 FS-1000 システム

壁掛型の非常用放送設備です。別売のラックマウント金具 MB-FS10NW を使用してラックに取り付けることもできます（19U サイズ*）。

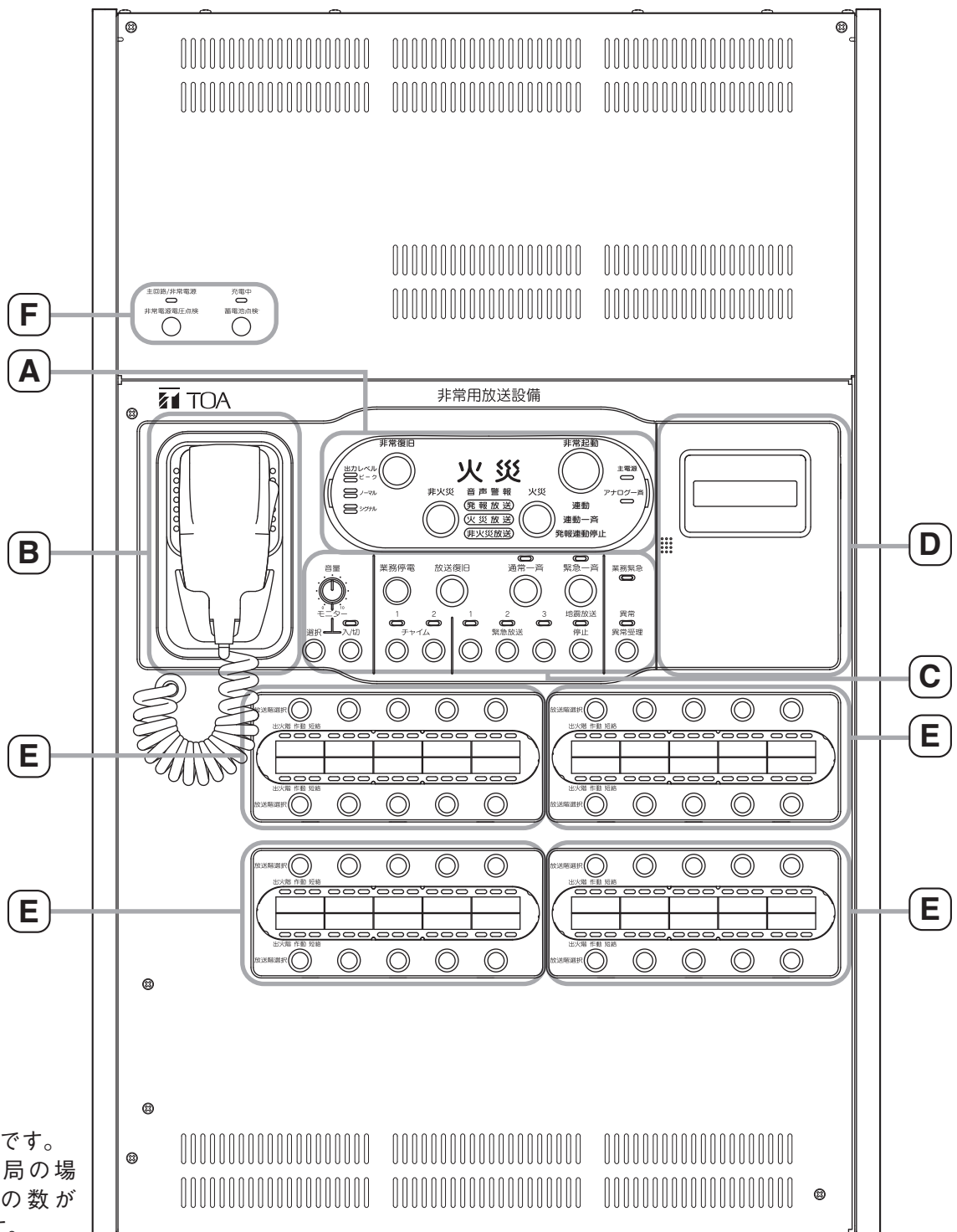
非常放送以外に緊急地震放送、緊急放送、業務放送が行えます。

放送階選択スイッチはグループ（複数のスピーカー回線）に割り当てすることもできます。

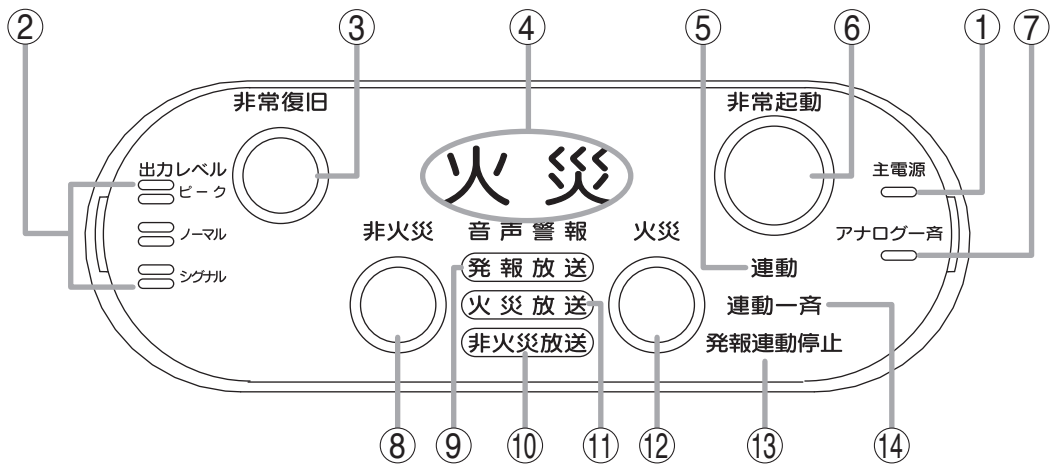
フロントマイクは音量調節が可能です。ただし、非常放送時には音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。

* 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

[前面]



※ 図は 30 局です。
10 局、20 局の
場合は E 部の数
異なります。



1. 主電源表示灯（緑）

本機に主電源が正常に供給されているときに点灯します。停電中および蓄電池動作時は消灯します。

2. 放送出力レベル表示灯

モニターをしている放送の出力レベルを表示します。ピーク表示灯が点灯しない範囲で使用してください。

表示灯	色	点灯レベル
ピーク	赤	+0.5 dB*
ノーマル	橙	-8 dB*
シグナル	緑	-22 dB*

* 0 dB = 1 V

(参照 P. 58 「放送モニター機能」)

3. 非常復旧スイッチ

非常放送を復旧するときに押します。非常状態が解除されたことを確認し、感知器・非常電話・発信機などをすべて復旧させてから押してください。

(参照 P. 23 「非常放送のしかた」)

4. 火災表示灯（赤）

自火報の感知器、非常電話、または発信機から起動がかかると自動的に点灯します。また、手動で非常起動スイッチ (6) を押したときに点灯します。

感知器発報放送中、火災放送中、非火災放送中は点灯したままです。

感知器、非常電話、発信機などをすべて復旧させたのち、非常復旧スイッチ (3) を押すと消灯します。

(参照 P. 23 「非常放送のしかた」)

5. 自火報連動モード表示灯（緑）

本機が自火報などとの連動モードに設定されているときに点灯します。

モードの設定はシステム設定時に行います。

(参照 P. 21 「非常放送の動作モード」、別冊のシステム設定説明書「非常動作設定」)

6. 非常起動スイッチ

手動で非常放送を起動するとき、または手動で感知器発報放送から火災放送へ移行するときに押します。

(参照 P. 23 「非常放送のしかた」)

7. アナログ一斉放送表示灯（橙）

アナログ一斉放送*状態のときに点灯する表示灯です。点灯中は、すべての回線に放送が流れます。

* FS-1000 システムが正常に動作せず、非常放送、緊急地震放送、および業務放送ができないときに、フロントマイクから行う放送です。すべてのスピーカー回線に最大音量で放送されます。

8. 非火災放送スイッチ

火災が発生していないことを確認したときに押して、非火災報放送をします。

(参照 P. 23 「非常放送のしかた」)

9. 発報放送表示灯（橙）

感知器発報放送の状態を表します。

点灯：発報放送中

点滅：発報放送の前後

10. 非火災放送表示灯（緑）

非火災報放送の状態を表します。

点灯：非火災報放送中

点滅：非火災報放送の後

11. 火災放送表示灯（赤）

火災放送の状態を表します。

点灯：火災放送中

点滅：火災放送の前後

12. 火災放送スイッチ

火災を確認したときに押して、火災放送をします。

(参照 P. 23 「非常放送のしかた」)

13. 発報連動停止表示灯（緑）

本機が発報連動停止モードに設定されているときに点灯します。

モードの設定はシステム設定時に行います。

(参照 P. 21 「非常放送の動作モード」、別冊のシステム設定説明書「非常動作設定」)

ご注意

発報連動停止モードに設定するときには、所轄の消防署の承認が必要です。

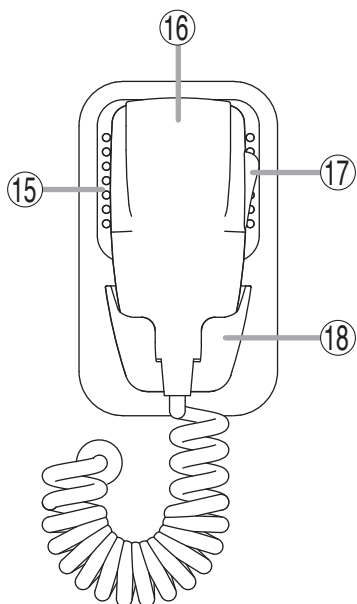
14. 自火報連動一斉モード表示灯（緑）

本機が自火報などとの連動一斉モードに設定されているときに点灯します。

モードの設定はシステム設定時に行います。

(参照 P. 21 「非常放送の動作モード」、別冊のシステム設定説明書「非常動作設定」)

● B 部



15. モニタースピーカー

放送のモニター、非常放送時の音声ガイドメッセージ、および異常時の警告音が流れます。ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。

16. フロントマイク

非常放送および業務放送時に使用するマイクです。放送階を選択した状態で、トークスイッチ（17）を押しながらいク放送をします。業務放送時のマイク放送の音量は、設定操作部のフロントマイク音量調節器（44）を回して調節することができます。

ご注意

非常放送時はフロントマイク音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。
（ P. 23 「非常放送のしかた」、P. 34 「本体放送のしかた」）

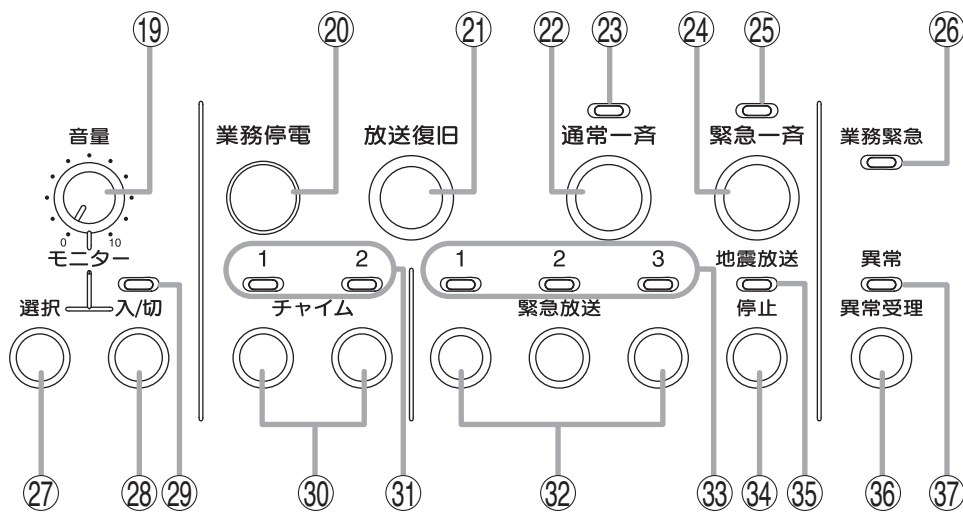
17. トークスイッチ

マイク放送時に使用します。放送階を選択した状態で、このスイッチを押しながらいク放送をします。
（ P. 34 「本体放送のしかた」）

18. マイクホルダー

マイクを保持するホルダーです。

● C 部



19. モニター音量調節器

モニタースピーカー（15）の音量を調節します。音量調節器を右へ回すほど音量が大きくなります。ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。

ご注意

非常放送時、緊急地震放送時は、音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。
（ P. 58 「放送モニター機能」）

20. 業務停電放送起動スイッチ

業務停電放送を起動します。停電時に押し、システムが停電待機状態から立ち上がります。

ご注意

業務停電放送をするには、業務用電源ユニットの設置および事前の設定が必要です。

（ P. 59 「業務停電放送のしかた」、別冊の設置説明書「業務停電放送を行うときの接続と設定」、別冊のシステム設定説明書「機器構成設定」）

21. 放送復旧スイッチ

放送終了時に押します。選択されていた放送階がすべて解除されます。

ご注意

非常放送の場合、放送復旧スイッチを押すといったん放送を終了しますが、非常放送状態は引き続き継続されます。ただし、一斉移行タイマーのタイムアップ後は、操作が無効になります。
（ P. 34 「本体放送のしかた」）


22. 通常一斉放送スイッチ

システム設定時に本機に設定した一斉区域に放送をするときに押します。

通常一斉放送は、アッテネーターによる音量の調節が可能です。

ご注意

非常放送時はアッテネーターの設定に関係なく最大音量になります。

( P. 23 「非常放送のしかた」、P. 34 「本体放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」)

23. 通常一斉放送表示灯 (緑)

通常一斉放送スイッチ (22) で放送階を選択して放送をしているときに点灯します。


また、通常一斉放送スイッチと同じグループ回線に設定された放送階選択スイッチ (48) から通常放送モードで放送する場合にも点灯します。

非常放送時は消灯します。

24. 緊急一斉放送スイッチ

システム設定時に本機に設定した一斉区域に放送をするときに押します。

緊急一斉放送は、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。

( P. 23 「非常放送のしかた」、P. 34 「本体放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」)

25. 緊急一斉放送表示灯 (緑)

緊急一斉放送スイッチ (24) で放送階を選択して放送をしているときに点灯します。

また、緊急一斉放送スイッチと同じグループ回線に設定された放送階選択スイッチ (48) から業務緊急モードで放送する場合にも点灯します。


非常放送時は、一斉移行タイマーのタイムアップ後に点灯します。

26. 業務緊急表示灯 (緑)

業務放送が業務緊急モードで放送されているときに点灯します。

業務緊急モードでは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。

緊急地震放送中も点灯します。

( P. 58 「通常放送モードと業務緊急モード」)

27. モニター選択スイッチ

使用しません。

28. モニター入/切スイッチ

放送モニター機能をオン/オフします。

ご注意

非常放送時および緊急地震放送時は、放送モニター機能をオフにしても、自動的に音声流れます。

( P. 58 「放送モニター機能」)

29. モニター表示灯 (緑)

放送モニター機能がオンのときに点灯します。


フロントマイクのトークスイッチ (17) がオンのときは消灯します。

30. チャイムスイッチ [1、2]

業務放送で、チャイムを鳴らすスイッチです。工場出荷時は下記のとおり設定されています。

チャイム1：上り4音

チャイム2：下り4音

( P. 34 「本体放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」)


31. チャイム表示灯 [1、2] (緑)

チャイムが鳴っている間、点灯します。

32. 緊急放送スイッチ [1、2、3]

業務放送で、メッセージをワンタッチで放送するスイッチです。

メッセージはシステム設定時に登録します。

( P. 37 「緊急放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」)

33. 緊急放送表示灯 [1、2、3] (緑)

緊急放送スイッチ (32) を押して緊急放送をしている間、点灯します。

34. 地震放送停止スイッチ


緊急地震放送を停止するときに押します。

緊急地震放送よりも非常放送を優先して行いたいときに押します。

このスイッチは「緊急放送スイッチ4」として使用することもできます。

ご注意

緊急放送スイッチ4として使用するには、あらかじめ設定が必要です。また、付属の「緊急4ラベル」を所定の箇所に貼り付けてください。

( P. 61 「緊急地震放送」、別冊の設置説明書「緊急地震放送を行うときの接続」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」、「緊急放送スイッチ4用ラベルの取り付け」)

35. 地震放送表示灯 (緑)


緊急地震放送時に点滅します。

地震放送停止スイッチ (34) を「緊急放送スイッチ4」として使用するときは、緊急放送表示灯1～3 (33) と同じはたらきとなります。

36. 異常受理スイッチ

システムに異常が発生したときに操作します。

異常警告音を停止するときや、液晶画面 (38) の異常表示画面を操作するときに使用します。

( P. 63 「日常点検」)

37. 異常表示灯 (橙)

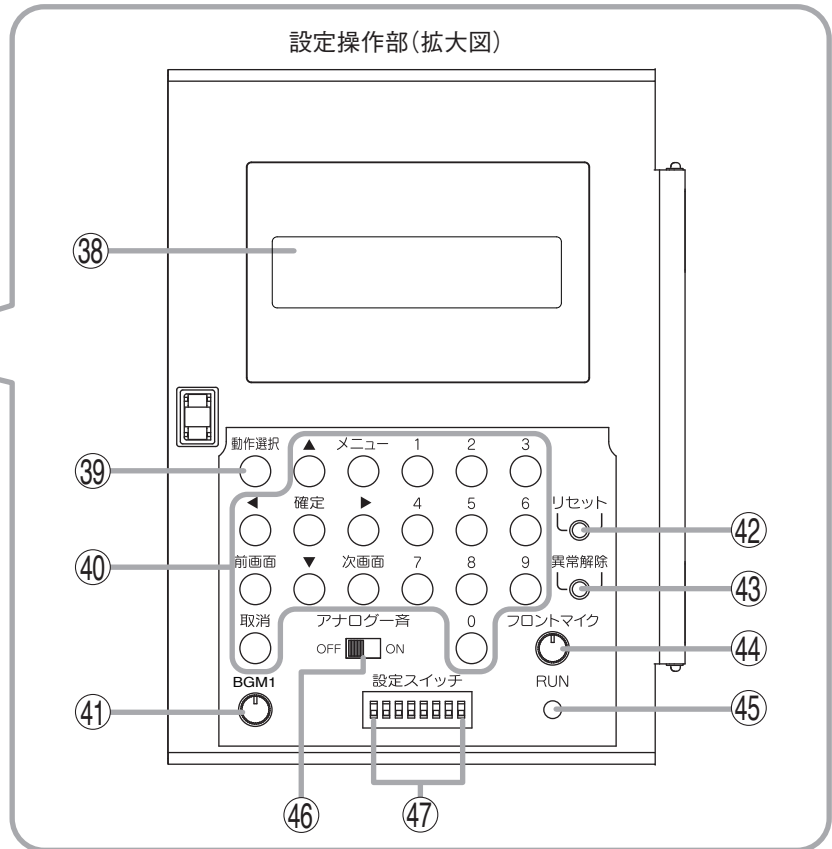
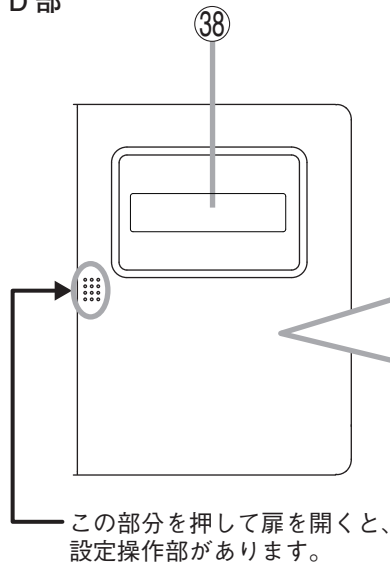
システムに異常が発生したときに点滅します。

異常受理スイッチ (36) を押すと点灯に変わります。

原因を取り除いた後、異常解除キー (43) を押すと消灯します。

※ 異常が発生したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

● D 部



38. 液晶画面

非常放送時に必要な操作ガイドの表示や、業務放送時の放送状態の表示、および各種の異常状態の表示を行います。

39. 動作選択キー

動作モードを切り換えます。システム設定や、点検などのメンテナンス、システムの状態を確認するときに使用します。

40. システム設定キー

システム設定のときに使用します。

41. BGM1 音量調節器

BGM 音声入力端子の 1 に入力された音声の音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

42. リセットキー

1 秒以上押し続けると、システムが再起動します。動作履歴が保存されます。

ご注意

再起動すると、現在行われている放送は停止します。

43. 異常解除キー

機器に異常が発生したときに、異常状態を解除します。異常の原因を取り除いた後に押ししてください。押すと、液晶画面の異常表示が消えます。
(参照 P. 63 「日常点検」)

44. フロントマイク音量調節器

フロントマイクの音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

ご注意

非常放送時はフロントマイク音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。
(参照 P. 34 「本体放送のしかた」)

45. RUN 表示灯 (緑)

本機が正常に動作している場合は、約 1 秒周期で点滅します。

※ 異常が発生したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

46. アナログ斉放送切換スイッチ

アナログ斉放送*のオン/オフを切り換えます。ON 側にすると、フロントマイクによる放送が全回線に流れます。異常発生時に放送したいときに使用してください。(工場出荷時の設定: OFF)

* FS-1000 システムが正常に動作せず、非常放送、緊急地震放送、および業務放送ができないときに、フロントマイクから行う放送です。すべてのスピーカー回線に最大音量で放送されます。

ご注意

アンプの故障やスピーカー回線の短絡など、異常によっては放送がされないエリアがあります。また、マイク異常のときは、マイク放送はできません。非常時には他の伝達手段による情報伝達が必要となります。

47. 設定スイッチ



(工場出荷時の設定: すべて OFF)

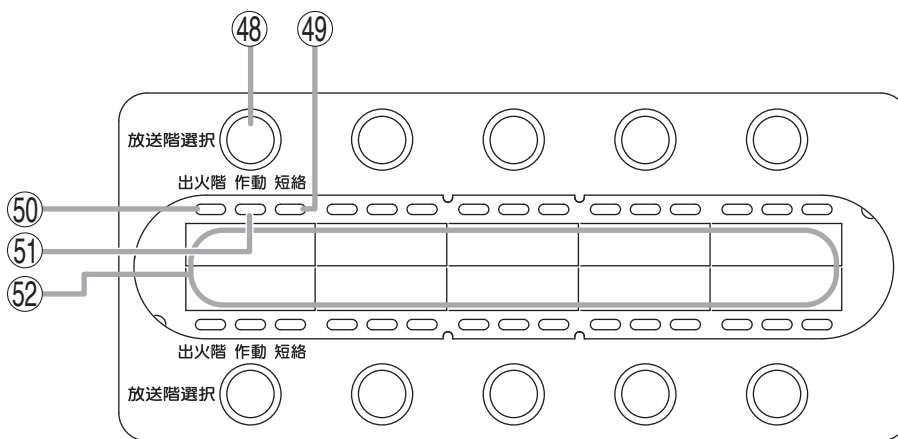
● DIP スイッチ 1

履歴データの保存を行います。
(参照 別冊のシステム設定説明書「履歴データ保存」)
ON : 履歴データを CF カードに保存します。
OFF : 通常は OFF で使用します。

● DIP スイッチ 2~8

使用しません。設定を変更しないでください。

● E 部

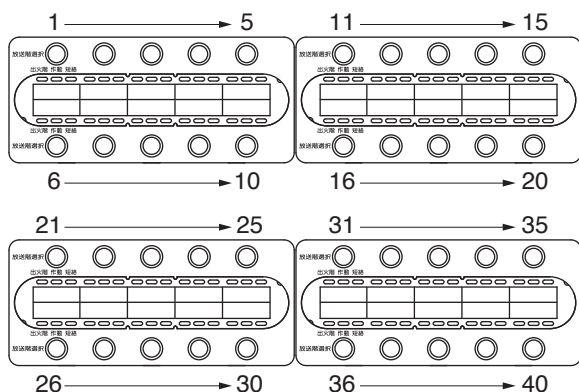


48. 放送階選択スイッチ

非常放送または業務放送をするときに、放送をする回線を選択します。

放送をする回線は、システム設定時に各スイッチに個別（1回線）またはグループ（複数回線）を登録して使用します。

本機には放送階選択スイッチを機種により 20、30 または 40 個備えています。スイッチ番号は以下のとおりです。



（☞ P. 23 「非常放送のしかた」、P. 34 「本体放送のしかた」、P. 36 「放送階選択スイッチによる BGM 放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

49. 短絡表示灯（橙）

放送階選択スイッチ（48）に登録されている回線の一部またはすべての回線が短絡しているときに点灯します。

50. 出火階表示灯（赤）

非常時に出火階を表します。自火報から階別信号が入力されると、該当する非常システムの放送階選択スイッチ（48）の出火階表示灯が点灯します。

（☞ P. 23 「非常放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

51. 作動表示灯（緑）

放送階選択スイッチ（48）に登録されている回線の放送状態を表します。

- 消灯 : 回線未使用
- 1 回点滅 : 1 回線以上に本体放送以外が放送中
- 2 回点滅 : 1 回線以上が優先度により待機中
- 点灯 : 全回線に放送中

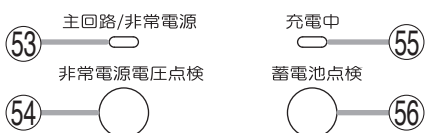
（☞ P. 51 「作動表示灯の表示」）

52. 記名カード挿入部

記名カードを挿入するスペースです。記名カードは出荷時に挿入された状態になっています。また、別冊のシステム設定説明書に記名カードのコピー台紙が付いています。

（☞ 別冊のシステム設定説明書「記名カードの取り付け」）

● F 部



53. 主回路／非常電源表示灯（緑）

主回路の電源の状態を表します。

- 点灯 : 正常
- 点滅 : 電圧が低下（正常動作は可能）
- 消灯 : 異常

常用電源動作中（蓄電池点検中を除く）は主電源の状態を表し、それ以外は非常電源の状態を表します。

（☞ P. 65 「電源の点検のしかた」）

54. 非常電源電圧点検スイッチ

非常電源の出力電圧を確認するためのスイッチです。点検時に使用します。

（☞ P. 65 「電源の点検のしかた」）

55. 充電中表示灯（緑）

蓄電池が充電中のときに点灯します。

（☞ P. 65 「電源の点検のしかた」）

56. 蓄電池点検スイッチ

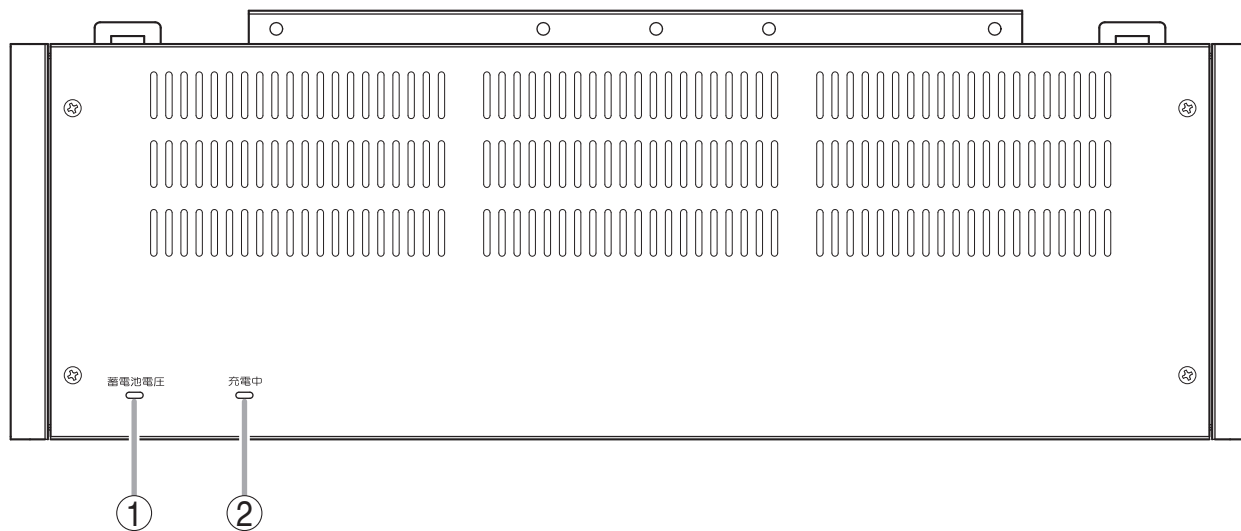
蓄電池を点検するときに使用します。

（☞ P. 65 「電源の点検のしかた」）

■ 業務用電源ユニット FS-1000GU

FS-1000 システムにおいて、業務停電補償を行うための機器です。
本機と業務用蓄電池を搭載することで、停電時にも業務放送を行うことができます。

[前面]



1. 蓄電池電圧表示灯（緑）

蓄電池電圧の状態を表します。

点灯：正常


点滅：電圧が低下（正常動作は可能）

消灯：異常

（ P. 65 「電源の点検のしかた」）

2. 充電中表示灯（緑）

蓄電池が充電中のときに点灯します。

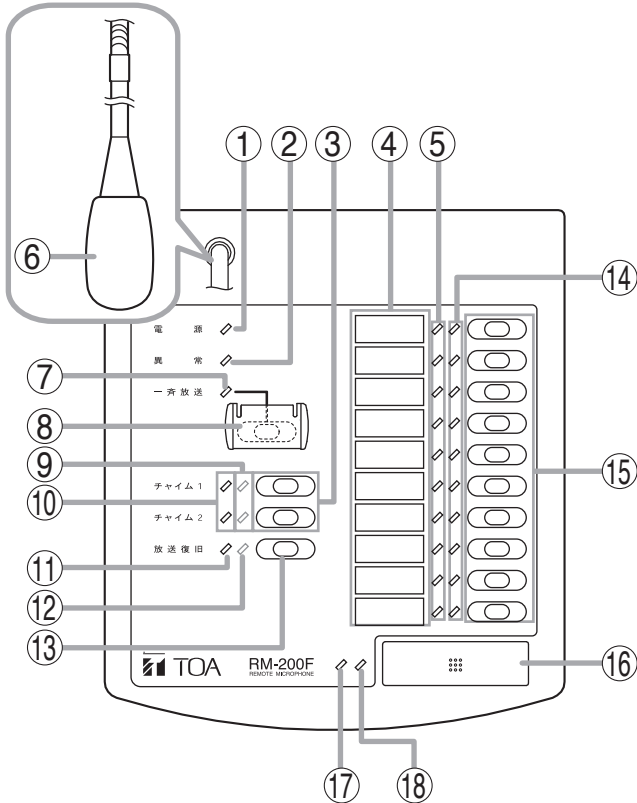
（ P. 65 「電源の点検のしかた」）

■ 卓上型リモートマイク RM-200F

業務放送に使用する卓上型のリモートマイクです。

個別選択やグループ選択などに設定できる回線選択キーが10個、チャイムキーが2個、放送復旧キーが1個、また一斉放送用のカバー付きスイッチが1個あり、それぞれ表示灯と連動しています。別売の拡張ユニットRM-210Fを接続することにより、回線選択キーと表示機能を10個単位で拡張できます。

[上面]



1. 電源表示灯（緑）

本機に電源を入れると点灯します。

2. 異常表示灯（橙）

システム内で異常が発生したとき、本体との通信異常時、および本機の再起動中に点灯します。

※ 本機の再起動は FS-1000 本体から行います。

3. チャイムキー（1、2）

業務放送で、チャイムを鳴らすキーです。

工場出荷時は下記のとおり設定されています。

チャイム1：上り4音

チャイム2：下り4音

（☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

4. 表示ラベル挿入部

表示ラベルを挿入するスペースです。

別冊のシステム設定説明書に表示ラベルのコピー台紙が付いています。

（☞ 別冊のシステム設定説明書「表示ラベルの取り付け」）

5. 放送状態表示灯（橙／緑）

回線選択キー（15）に登録されている回線の放送状態を表します。

（☞ P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」）

6. マイク

業務放送時に使用するマイクです。

マイクの音量は、マイク音量調節器で調節できます。

（☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊の設置説明書「入力感度の調節」）

7. 一斉放送表示灯（緑）

一斉放送キーで回線を選択すると点灯します。

8. 一斉放送キー（カバー付き）

一斉区域に放送をするときに押します。

システム設定時に通常一斉放送か、緊急一斉放送かを選択します。

通常一斉放送（システム設定時に業務緊急「なし」に設定）に設定したときは、アッテネーターによる音量の調節が可能です。

緊急一斉放送（システム設定時に業務緊急「あり」に設定）に設定したときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。

（☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

9. 表示灯

使用しません。

10. チャイム表示灯（緑）

チャイムが鳴っている間、点滅します。

11. 放送復旧表示灯（緑）

放送復旧キー（13）を押している間、点灯します。

12. 表示灯

使用しません。

13. 放送復旧キー

業務 RM 放送を終了するキーです。押すと、選択されていた放送階はすべて解除されます。

14. 回線選択表示灯（緑）

回線選択キーに登録されている回線が選択されているときに点灯します。

（☞ P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」）

15. 回線選択キー

業務放送をするときに、放送をする回線を選択するキーです。放送をする回線は、システム設定時に各キーに個別（1回線）またはグループ（複数回線）に登録して使用します。

本機には回線選択キーを10個備えています。

（☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

16. トークキー

マイク放送時に使用します。
システム設定時に PTT 式と LOCK 式のどちらかを設定します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。LOCK 式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
(☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」)

17. 放送状態表示灯 (橙/緑)

本機で選択した回線の放送状態を表します。
(☞ P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」)

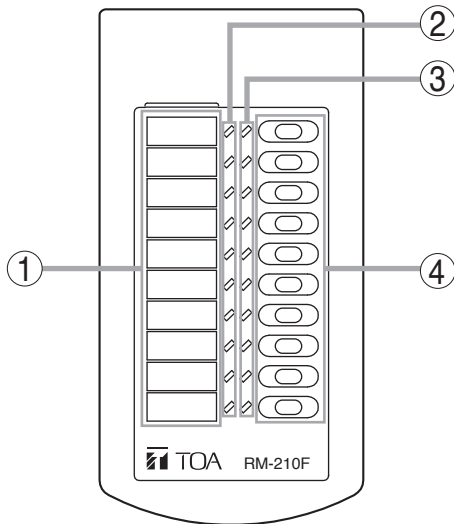
18. マイク表示灯 (緑)

マイク放送中に点灯します。

■ 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F

RM-200F 専用の卓上型リモートマイク拡張ユニットです。卓上型リモートマイク RM-200F の回線選択キーと表示機能を本機 1 台につき 10 個単位で拡張できます。最大 3 台を増設できます。

[上面]



1. 表示ラベル挿入部

表示ラベルを挿入するスペースです。
別冊のシステム設定説明書に表示ラベルのコピー台紙が付いています。
(☞ 別冊のシステム設定説明書「表示ラベルの取り付け」)

2. 放送状態表示灯 (橙/緑)

回線選択キー (4) に登録されている回線の放送状態を表します。
(☞ P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」)

3. 回線選択表示灯 (緑)

回線選択キーに登録されている回線が選択されているときに点灯します。
(☞ P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」)

4. 回線選択キー

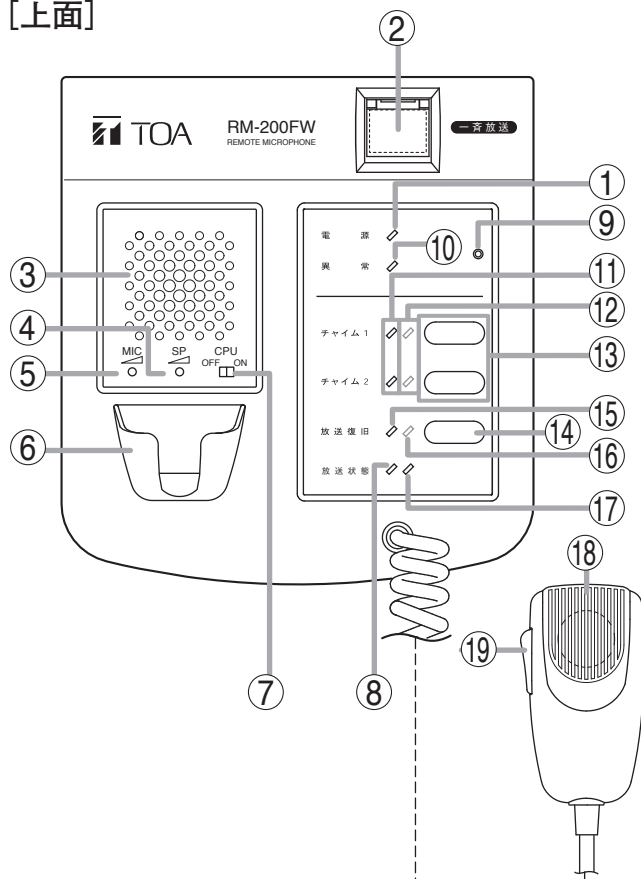
業務放送をするときに、放送をする回線を選択するキーです。放送をする回線は、システム設定時に各キーに個別 (1 回線) またはグループ (複数回線) を登録して使用します。
本機には回線選択キーを 10 個備えています。
(☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」)

■ 壁掛型リモートマイク RM-200FW

業務放送に使用する壁掛型のリモートマイクです。

チャイムキーが2個、放送復旧キーが1個、また一斉放送用のカバー付きスイッチが1個あり、それぞれ表示灯と連動しています。別売の拡張ユニット RM-220FW を接続することにより、個別選択やグループ選択などに設定できる回線選択キーと表示機能を20個単位で拡張できます。

[上面]



1. 電源表示灯（緑）

本機に電源を入れると点灯します。

2. 一斉放送キー（カバー付き）

一斉区域に放送をするときに押します。
システム設定時に通常一斉放送か、緊急一斉放送かを選択します。

通常一斉放送（システム設定時に業務緊急「なし」に設定）に設定したときは、アッテネーターによる音量の調節が可能です。

緊急一斉放送（システム設定時に業務緊急「あり」に設定）に設定したときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。

キーは照光式となっており、このキーを押して回線を選択すると、点灯します。

（参照 P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

3. スピーカー

業務放送時にチャイムキー（13）を押すと、チャイムが鳴ります。

4. スピーカー音量調節器

スピーカーからの音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計方向に回すと音量が小さくなります。

5. マイク音量調節器

マイクの音量を調節します。
（参照 別冊の設置説明書「入力感度の調節」）

6. マイクホルダー

マイクを保持するホルダーです。

7. CPU スイッチ

使用しません。

8. 放送状態表示灯（橙／緑）

壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW の回線選択キー（4）に登録されている回線の放送状態を表します。

（参照 P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」）

9. リセットキー

使用しません。

10. 異常表示灯（橙）

システム内で異常が発生したとき、本体との通信異常時、および本機の再起動中に点灯します。

※ 本機の再起動は FS-1000 本体から行います。

11. チャイム表示灯（緑）

チャイムが鳴っている間、点滅します。

12. 表示灯

使用しません。

13. チャイムキー（1、2）

業務放送で、チャイムを鳴らすキーです。
工場出荷時は下記のとおり設定されています。

チャイム1：上り4音

チャイム2：下り4音

（参照 P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

14. 放送復旧キー

業務 RM 放送を終了するキーです。押すと、選択されていた放送階はすべて解除されます。

15. 放送復旧表示灯（緑）

放送復旧キー（14）を押している間、点灯します。

16. 表示灯

使用しません。

17. マイク表示灯（緑）

マイク放送中に点灯します。

18. マイク

業務放送時に使用するマイクです。
マイクの音量は、マイク音量調節器 (5) で調節できます。
(☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊の設置説明書「入力感度の調節」)

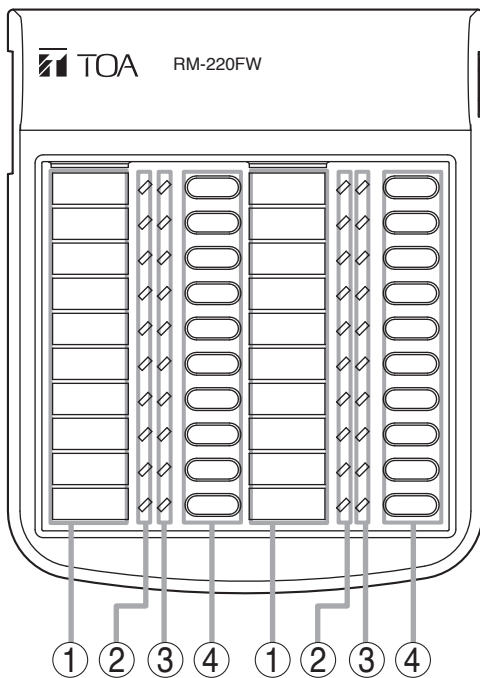
19. トークスイッチ

マイク放送時に使用します。
トークスイッチは PTT 式となっており、スイッチを押している間だけ放送することができます。
(☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」)

■ 壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW

RM-200FW 専用の壁掛型リモートマイク拡張ユニットです。壁掛型リモートマイク RM-200FW の回線選択キーと表示機能を本機 1 台につき 20 個単位で拡張できます。最大 2 台を増設できます。

[上面]



1. 表示ラベル挿入部

表示ラベルを挿入するスペースです。
別冊のシステム設定説明書に表示ラベルのコピー台紙が付いています。
(☞ 別冊のシステム設定説明書「表示ラベルの取り付け」)

2. 放送状態表示灯 (橙/緑)

回線選択キー (4) に登録されている回線の放送状態を表します。
(☞ P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」)

3. 回線選択表示灯 (緑)

回線選択キーに登録されている回線が選択されているときに点灯します。
(☞ P. 55 「業務用リモコンの放送状態の表示」)

4. 回線選択キー

業務放送をするときに、放送をする回線を選択するキーです。放送をする回線は、システム設定時に各キーに個別 (1 回線) またはグループ (複数回線) を登録して使用します。
(☞ P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」)
本機には回線選択キーを 20 個備えています。

放送の種類と概要

FS-1000 システムには次のような放送の種類があります。

緊急地震放送	
非常放送	感知器発報放送、火災放送、非火災報放送
業務放送 (業務停電放送)	[音源による分類] 緊急放送、タイマー放送、本体放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送、接点式 RM 放送、電話ページング放送、外部マイク放送、BGM 放送
	[音量調節の可否による分類] 通常放送モード、業務緊急モード
アナログ斉放送	

■ 緊急地震放送

緊急地震速報受信端末に連動して地震の発生を知らせる放送です。FS-1000 本体に内蔵の音源を使用して、非常放送に優先して放送されます。停電時も非常電源を使用して放送が行えます。

■ 非常放送

火災発生時に避難誘導を目的に行われる放送です。自火報感知器や発信機などに連動して放送されます。FS-1000 本体や非常用リモコンを操作して手動で放送することもできます。停電時も非常電源を使用して放送が行えます。

放送内容は以下の3つがあります。

● 感知器発報放送

火災感知器が作動し火災の確認中であることを知らせる放送です。

● 火災放送

火災の発生が確認され、避難を促す放送です。

● 非火災報放送

現場確認の結果、火災の発生が誤報であったことを知らせる放送です。

■ 業務放送

店舗などでの BGM や案内放送、リモコンによる呼び出し放送や、チャイム、定時放送など日常的に使用する放送です。

BGM 放送を除く放送は、設定により優先順位を変更できます。

また、設定により BGM 音源をミキシングして出力することもできます。(ただし、緊急放送の場合を除く。)

● 緊急放送

FS-1000 本体または非常用リモコンの緊急放送スイッチや、緊急放送用途の制御入力により、緊急メッセージをワンタッチで放送することができます。

● タイマー放送

タイマーで起動される演奏機器を接続して、定刻に放送が行えます。演奏機器の演奏中の信号と音声信号をタイマー入力に接続します。

● 本体放送

FS-1000 本体の一斉放送スイッチや放送階選択スイッチで放送先を選択して、本体のフロントマイクや本体放送入力に接続された音源を使用しての放送ができます。フロントマイクのトークスイッチとの連動や、チャイムスイッチを操作してチャイムを鳴らすこともできます。

● 非常 RM 放送

非常用リモコンの一斉放送スイッチや放送階選択スイッチで放送先を選択して、非常用リモコンのフロントマイクや非常 RM 放送入力に接続された音源を使用しての放送ができます。フロントマイクのトークスイッチとの連動や、チャイムスイッチを操作してチャイムを鳴らすこともできます。

● 業務 RM 放送

業務用リモコンの一斉放送キーまたは回線選択キーで放送先を選択して、マイク放送が行えます。マイクのトークスイッチとの連動や、チャイムキーを操作してチャイムを鳴らすこともできます。また、業務用リモコンの AUX 入力の設定により、AUX 入力に接続された音源を使用した放送も可能です。

● 接点式 RM 放送

接点式リモコンの放送階選択スイッチで放送先を選択してマイク放送が行えます。回線選択の開始や復旧に連動させたり、チャイムスイッチを操作してチャイムを鳴らすこともできます。

● 電話ページング放送

電話交換機からの制御信号と音声信号を電話ページング入力に接続することにより、電話機から特番を使用して呼び出し放送などが行えます。ページングトランクにチャイム機能がない場合でも、交換機からの制御信号の放送開始や終了に連動して内蔵チャイムを鳴らすことができます。

● 外部マイク放送

外部マイクからの制御信号と音声信号を外部マイク入力に接続することにより、外部マイクを使用しての放送が行えます。放送開始や終了に連動してチャイムを鳴らすこともできます。

● BGM 放送

本体の BGM 入力に接続された音源を使用して BGM 放送を流すことができます。この放送は、他の放送が入ってきたときに、その放送の邪魔をしないように自動的に音量を下げたりカットすることができます。FS-1000 本体や非常用リモコンの BGM 放送用途の放送階選択スイッチを押すか、または BGM 放送用途の制御入力をメイクすることで放送が行えます。

■ 放送モード

● 通常放送モード

業務放送で使用される放送モードで、放送先の壁に取り付けられたアッテネーターにより放送の音量調節が可能です。

● 業務緊急モード

通常放送モードと異なり、アッテネーターでの音量調節は行えず、最大音量での放送となります。

■ 業務停電放送

業務停電放送用に業務用電源ユニットが設置されていれば、停電時も業務放送が行えます。

■ アナログ一斉放送

FS-1000 システムは CPU により制御されて動作しています。放送の操作を行っても正しく動作しないときは、アナログ一斉放送切換スイッチを ON にすれば、FS-1000 本体と非常用リモコンのフロントマイクから、業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。

非常放送のしくみ

(はじめて非常用放送設備を操作される方に)

操作手順については、「非常放送のしかた」(P. 23) をお読みください。

■ 非常放送の起動方法

非常放送を起動させるには、次の3つの方法があります。

A. 自火報感知器起動	自火報の感知器が作動すると、その階の出火階表示灯が点灯し、自動的に非常放送が起動します。 連動モードのときは、出火階(感知器が作動した階)とその直上階などのスピーカーに放送されます。
B. 非常電話・発信機起動	非常電話の受話器を取り上げるか発信機を起動すると、その階の出火階表示灯が点灯し、自動的に非常放送が起動します。 連動モードのときは、出火階(非常電話、発信機を起動した階)とその直上階などのスピーカーに放送されます。
C. 手動起動	操作者の判断で「非常起動スイッチ」を押し、非常放送を起動させます。 「放送階選択スイッチ」で選んだ階のスピーカーに放送されます。

■ 音声メッセージ

マイクで放送しなくても、警報音と音声メッセージによる次の3段階の自動放送が行われます。(P. 31)

① 感知器発報放送	感知器などが作動し、火災の発生を確認中であることを知らせます。
② 火災放送	火災の発生を知らせます。
③ 非火災報放送	確認の結果、火災の発生がなかったことを知らせます。

■ 非常放送の動作モード

動作モードは、機器の設置のときに設定済みです。次の①、②、③の各項目について、設定されたモードの説明をお読みください。

① 連動・連動一斉モード

外部から非常放送の起動がかかったとき（自火報または非常電話・発信機*が起動したとき）の放送階（放送エリア）がモードによって異なります。モードは設定済みですので、さわらないでください。

※ 手動起動の場合は、連動・連動一斉モードの設定に関係なく、選択した階のみに非常放送がされます。

連動モード (工場出荷時の設定)	出火階（起動のあった階）とその直上階に非常放送がされます。 (出火階が1階または地下の階のときは、1階と地下すべての階が追加されます。 それらを含めて直上階などを連動階ともいいます。)
連動一斉モード	すべての階に非常放送がされます。

② 発報・火災モード

手動起動と非常電話・発信機*起動のとき、すぐに火災放送がされるかどうかモードによって異なります。

※ 自火報感知器が起動したときのモードとは異なります。

※ 自火報感知器起動の場合は、発報・火災モードの設定に関係なく、発報連動・発報連動停止モードの設定により動作が決定されます。

火災モード (工場出荷時の設定)	起動がかかると、感知器発報放送なしに、すぐ火災放送になります。
発報モード	起動がかかると、まず感知器発報放送がされ、その後に火災放送になります。

③ 発報連動・発報連動停止モード

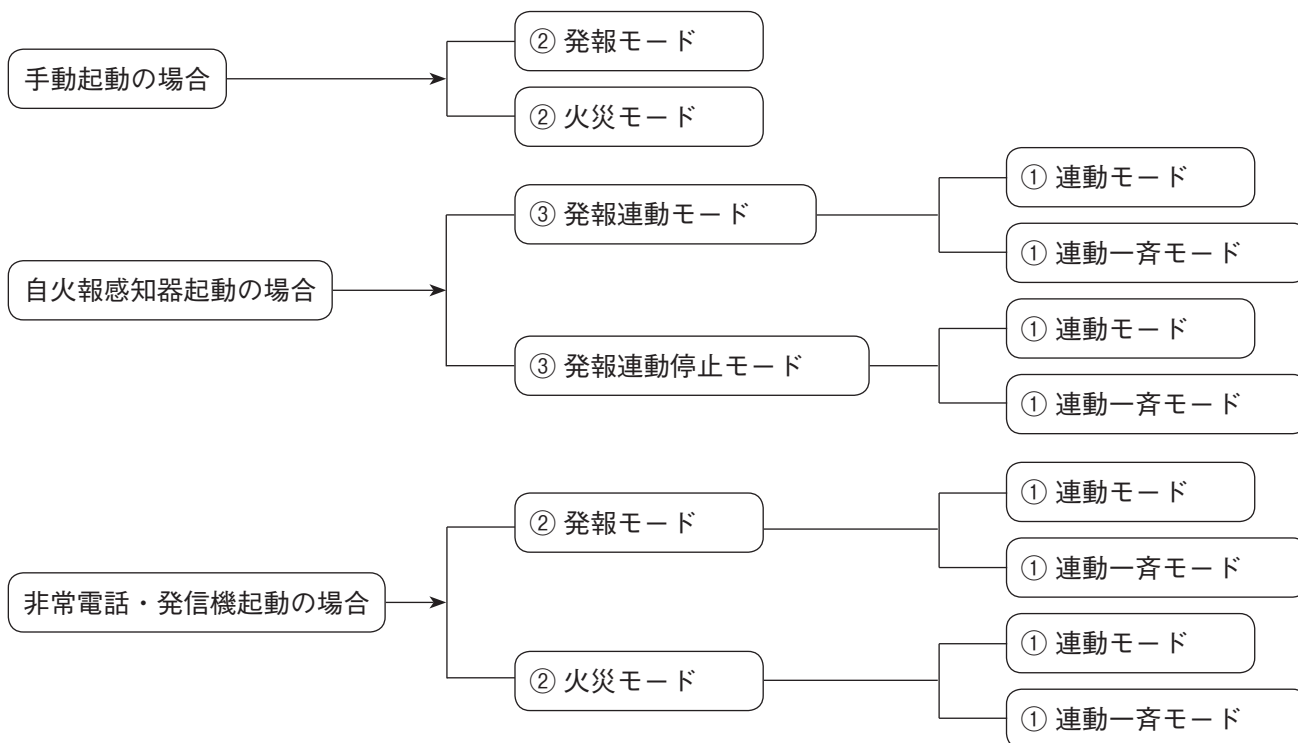
自火報感知器が起動したとき、感知器発報放送（発報連動）の有無がモードによって異なります。

※ 非常電話・発信機起動の場合は、発報連動・発報連動停止モードの設定に関係なく、発報・火災モードの設定により動作が決定されます。

発報連動モード (工場出荷時の設定)	起動がかかると、まず感知器発報放送がされ、次の段階で火災放送になります。
発報連動停止モード	起動がかかっても感知器発報放送はされません。次の段階で火災放送になります。 操作する人に対して前面操作部のモニタースピーカーから「火災音信号」と現場の確認と操作を指示する「音声メッセージ」が出ます。 (このモードで使用するには、所轄の消防署の承認が必要です。)

* 発信機：ボタンを押すことにより、自火報を起動させる装置。表示灯も付いています。

■ 起動方法と動作モードの関係



■ 火災放送移行タイマーと一斉移行タイマー

本機には避難時の安全性を確保するため、段階的な非常放送ができるよう、内部に火災放送移行タイマーと一斉移行タイマーを内蔵しています。

それぞれのタイマーは、建物の規模や構造に合わせて機器の設置時に設定されています。動作の内容については、「非常放送のしかた」(次ページ) をお読みください。

重 要
● 法律上の火災放送移行タイマーの設定は、2～5分です。
● 法律上の一斉移行タイマーの設定は、切、0分、または2～5分です。
● タイマーの設定、変更は所轄消防署の指導に従ってください。

● 火災放送移行タイマー

このタイマーは

- 自火報感知器起動時
- 手動起動時（発報・火災が発報モードのとき）

において発報放送開始時または火災音信号鳴動開始時にスタートし、設定された時間が経過すると自動的に火災放送を開始させるためのものです。

ただし、火災放送移行タイマー作動中に非火災報放送をしたときは、タイマーは停止して火災放送には移行しません。

● 一斉移行タイマー

このタイマーは、火災放送開始時または火災放送移行タイマーのタイムアップ時にスタートし、設定された時間が経過すると自動的に一斉火災放送を開始させるためのものです。

タイマー機能を「切」にすることもできます。

タイマー時間設定を「0分」にしたときは、すぐに一斉火災放送を開始します。

ただし、一斉移行タイマー作動中に非火災報放送をした場合は、タイマーは停止して一斉火災放送には移行しません。

※ 一斉移行タイマーがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。

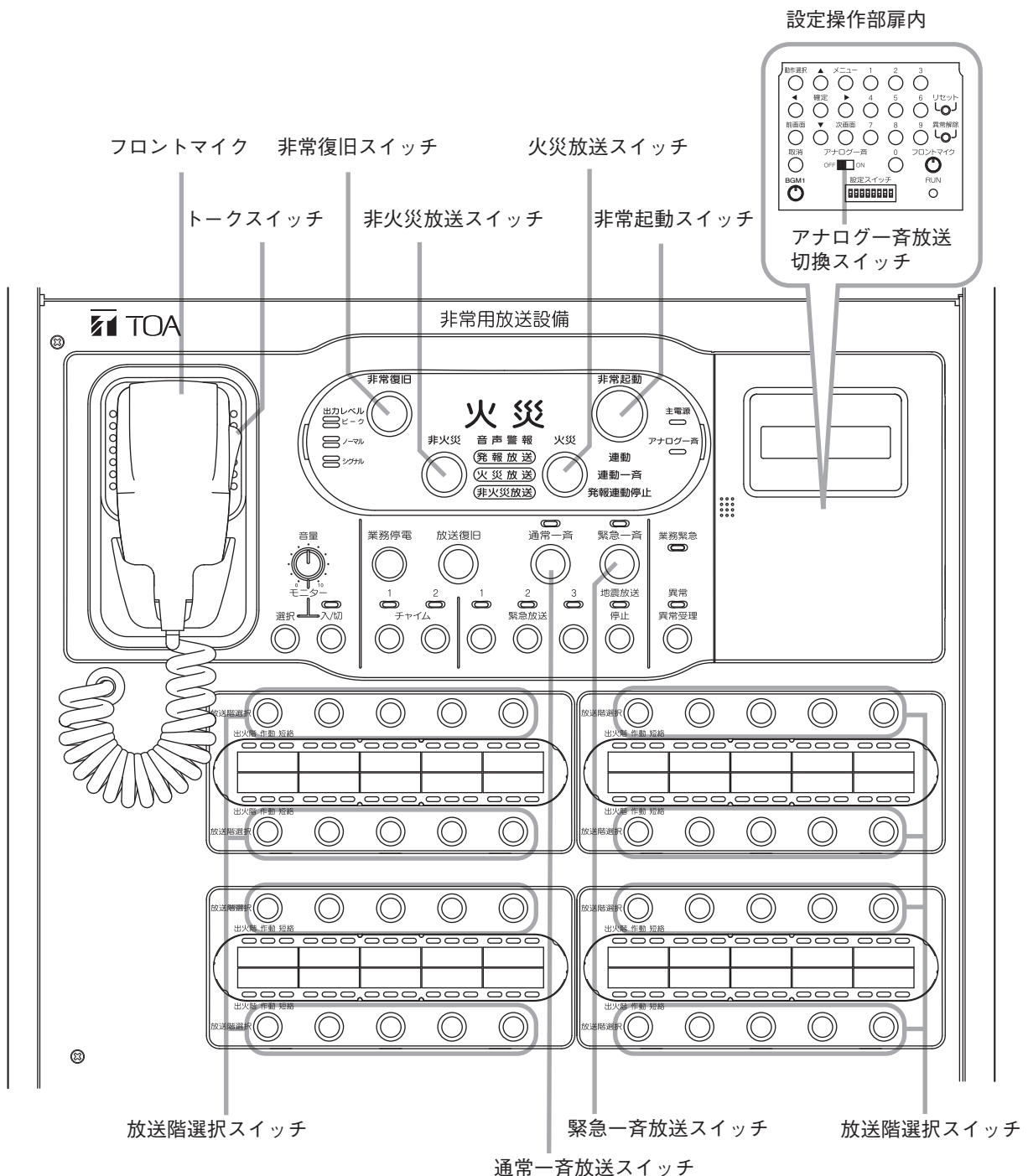
非常放送のしかた

非常放送を起動する方法、および機器設置の際に設定した動作モードによって放送のしかたが異なります。

決められたモードの手順をお読みください。

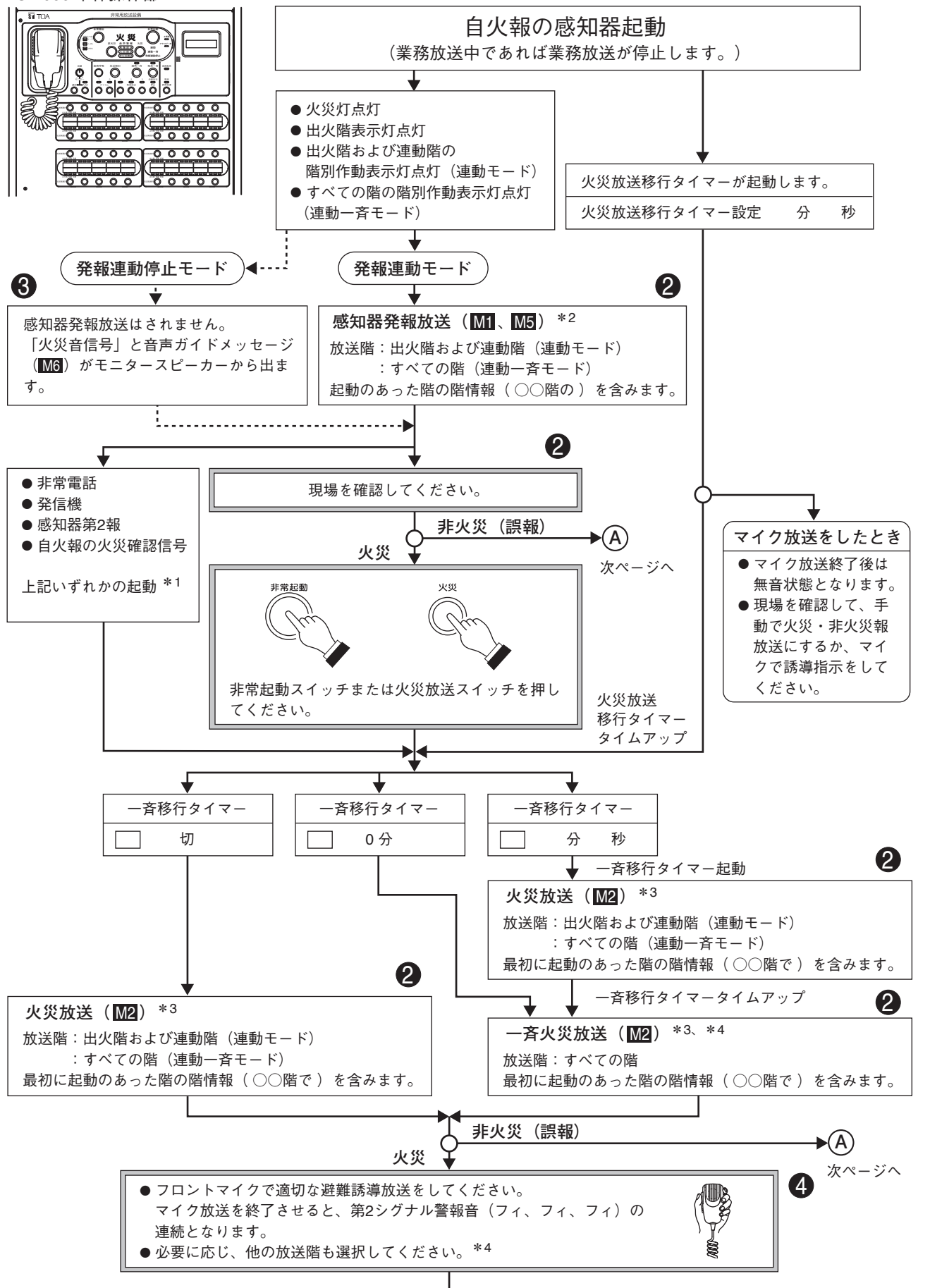
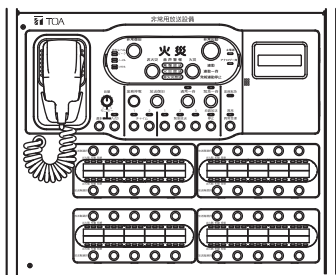
1. 自火報感知器起動の場合 Ⅱ☞ 次ページ
2. 非常電話・発信機起動の場合 Ⅱ☞ P. 26
3. 手動起動の場合 Ⅱ☞ P. 28

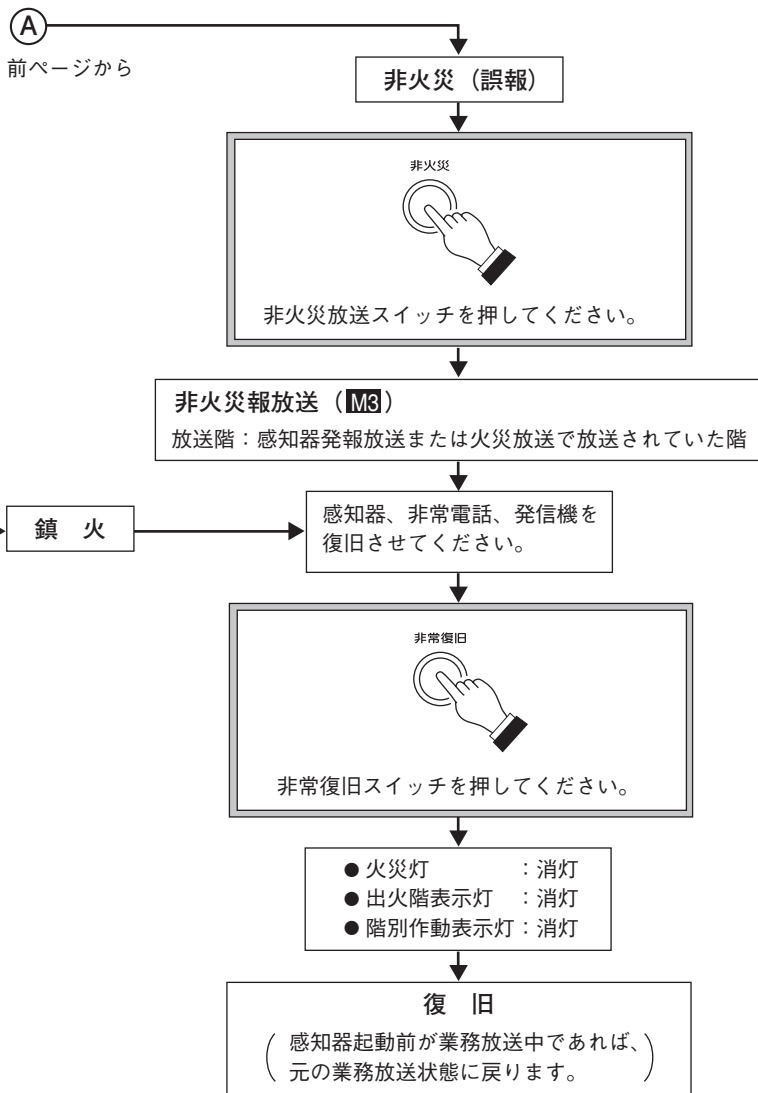
非常放送の操作で使用するスイッチ



■ 自火報感知器起動の場合

FS-1000 本体操作部





※ M1、M2などは、音声メッセージの番号を示します。(P.31)
 ※ 丸数字は、その時点における操作パネル上の液晶表示(下記)を表します。

- ② カサイ → カサイホウソウ
ヒカサイ → ヒカサイホウソウ
- ③ カサイ → カサイホウソウ
ヒカサイ → ヒジョウフッキュウ
- ④ マイク ホウソウチュウ

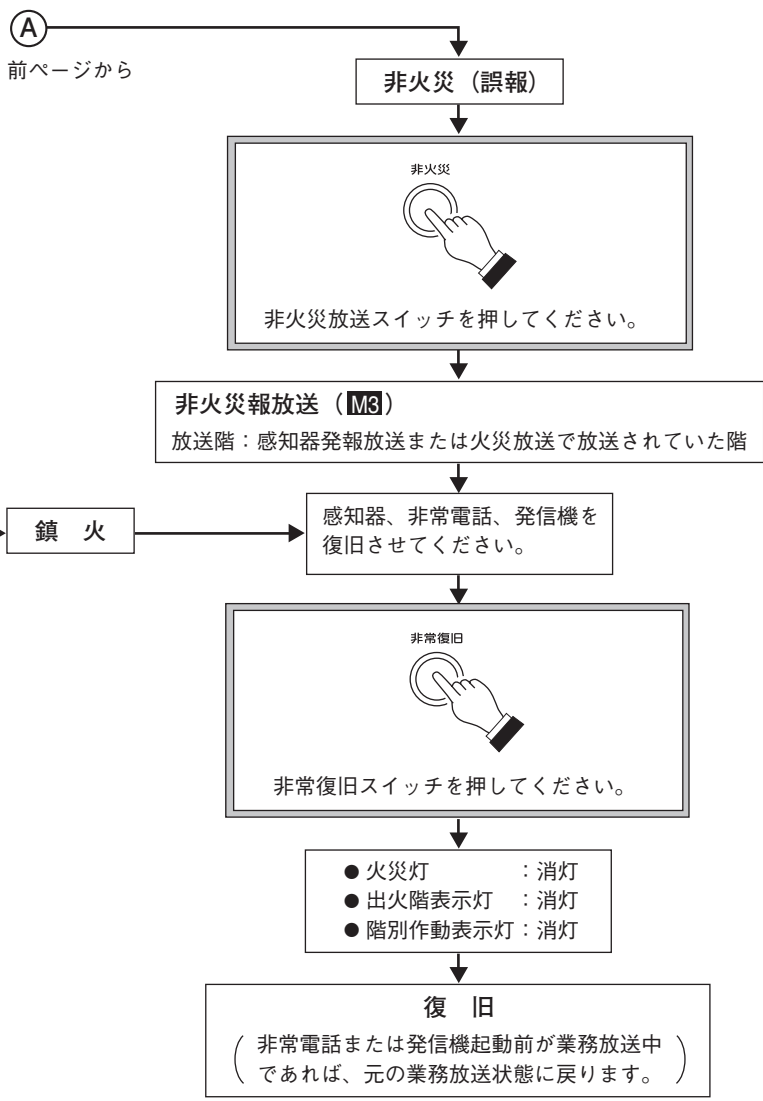
感知器、非常電話、発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、必ず感知器、非常電話、発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。*5

[操作中に動作が不安定なときは・・・]
 設定操作部扉内のアナログ一斉放送切換スイッチをON側にしてください。アナログ一斉放送切換スイッチ
 フロントマイクから業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。

- *1 異なる階の感知器が同時に起動したとき、または発報放送中に別の階の感知器が起動したときは、発報放送のメッセージ終了後、すぐに火災放送になります。
- *2 異なる階の感知器が同時に起動したときは、階メッセージ番号が最も小さい階の階情報(〇〇階の)を含んだ感知器発報放送を行います。
- *3 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報(〇〇階で)を含んだ音声メッセージだけが放送されます。
- *4 一斉移行タイマーがタイムアップした後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。
- *5 ただし、緊急地震放送は非常放送よりも優先されます。緊急地震放送中に非常放送をしたいときは、緊急地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了する必要があります。(P.62 「緊急地震放送時の非常放送の動作」)



※ M1、M2などは、音声メッセージの番号を示します。(P.31)
※ 丸数字は、その時点における操作パネル上の液晶表示(下記)を表します。

- ② カサイ → カサイホウソウ
ヒカサイ → ヒカサイホウソウ
- ④ マイク ホウソウチュウ

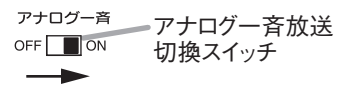
②

感知器、非常電話、発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、必ず感知器、非常電話、発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

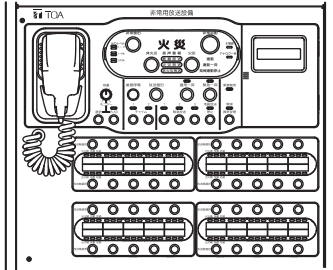
マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。*4

[操作中に動作が不安定なときは・・・]
設定操作部扉内のアナログ一斉放送切換スイッチをON側にしてください。
フロントマイクから業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。



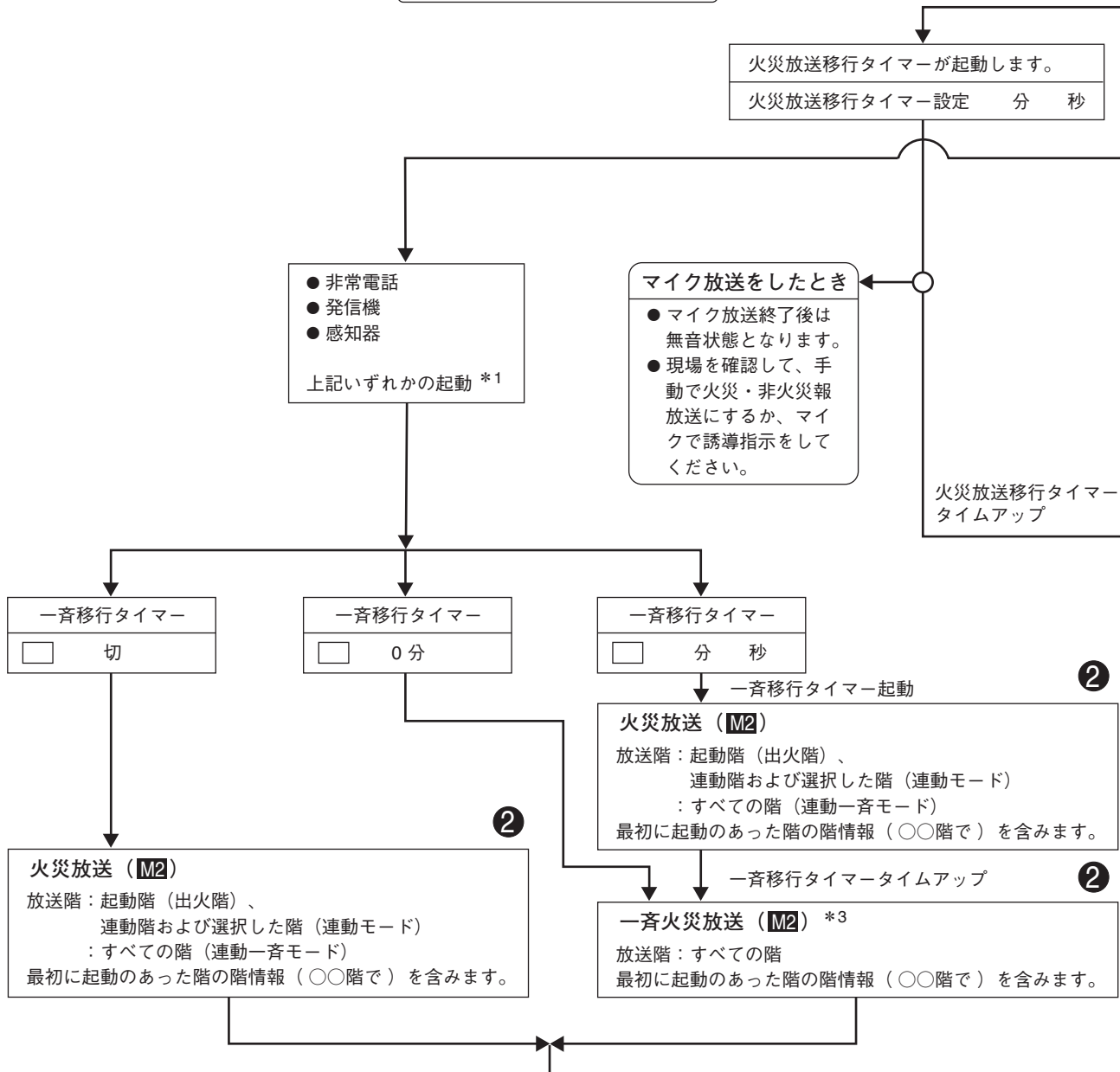
■ 手動起動の場合

FS-1000 本体操作部




- ※ **M1**、**M2**などは、音声メッセージの番号を示します。(P.31)
- ※ 丸数字は、その時点における操作パネル上の液晶表示(下記)を表します。

- ① ホウソウカイ
センタクスイッチ ヲ オセ
- ② カサイ → カサイホウソウ
ヒカサイ → ヒカサイホウソウ
- ④ マイク ホウソウチュウ






手動起動：火災の情報を入手したとき



1 (M4)

非常起動スイッチを押してください。
(業務放送中であれば業務放送が停止します。)

必要と思われる放送階選択スイッチ、通常一斉放送スイッチ、緊急一斉放送スイッチのいずれかを押してください。

発報モード

火災モード

2

感知器発報放送 (M1、M5)

放送階：選択した階 *2

階情報 (〇〇階の) は含みません。

2

現場を確認してください。

非火災 (誤報) → (B) 次ページへ

火災




非常起動スイッチまたは火災放送スイッチを押してください。

一斉移行タイマー

切

一斉移行タイマー

0分

一斉移行タイマー

分 秒

2

火災放送 (M2)

放送階：選択した階

階情報 (〇〇階で) は含みません。

一斉移行タイマー起動

2

火災放送 (M2)

放送階：選択した階

階情報 (〇〇階で) は含みません。

一斉移行タイマータイムアップ

2

一斉火災放送 (M2) *3

放送階：すべての階


階情報 (〇〇階で) は含みません。

非火災 (誤報) → (B) 次ページへ

火災

4

- フロントマイクで適切な避難誘導放送をしてください。マイク放送を終了させると、第2シグナル警報音 (フィ、フィ、フィ) の連続となります。
- 必要に応じ、他の放送階も選択してください。*3



次ページへ (A)

前ページから

①

非火災 (誤報)



非火災報放送 (M3)

放送階：感知器発報放送または火災放送で放送されていた階

②

前ページから

③

鎮火

感知器、非常電話、発信機を復旧させてください。



- 火災灯 : 消灯
- 出火階表示灯 : 消灯
- 階別作動表示灯 : 消灯

復旧

(手動起動前が業務放送中であれば、元の業務放送状態に戻ります。)

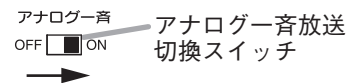
感知器、非常電話、発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、必ず感知器、非常電話、発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。*4

[操作中に動作が不安定なときは・・・]

設定操作部扉内のアナログ一斉放送切換スイッチをON側にしてください。フロントマイクから業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。



- *1 発報放送中に起動したときは、メッセージ終了後に火災放送になります。
- *2 放送階を手動で選択したときは、選択した階のみに放送されます。
- *3 一斉移行タイマーがタイムアップした後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。
- *4 ただし、緊急地震放送は非常放送よりも優先されます。緊急地震放送中に非常放送をしたいときは、緊急地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了する必要があります。
(P. 62 「緊急地震放送時の非常放送の動作」)

■ 音声メッセージの一覧

● 音声警報メッセージ

以下のメッセージは放送階のスピーカーから放送されます。

音声警報メッセージ			誘導音装置鳴動停止信号出力端子 (EB 端子) の状態
M1	感知器発報放送	第1シグナル (パポパポパポ) + 「ただいま (〇〇階の) 火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。(女声)」	メイク
M2	火災放送	第1シグナル (パポパポパポ) + 「火事です、火事です、(〇〇階で)火災が発生しました。落ち着いて避難してください。(男声)」 + 第1シグナル (パポパポパポ) + 「火事です、火事です…… (男声)」 + 第2シグナル (フィ、フィ、フィ3回) 以上の内容を継続してくり返します。マイク放送終了後は第2シグナルだけのくり返しとなります。	メイク ↓ 第2シグナル時に ブレイク
M3	非火災報放送	第1シグナル (パポパポパポ) + 「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。(女声)」 以上の内容を2回くり返します。	メイク

※ 感知器発報放送および火災放送の階情報

1. 手動起動による非常放送の場合は「階情報」(〇〇階の、〇〇階で) が含まれません。
2. 異なる階の感知器が同時に起動したときは、階メッセージ番号が最も小さい階の階情報 (〇〇階の) を含んだ感知器発報放送を行います。
(階メッセージ番号については、別冊のシステム設定説明書を参照してください。)
3. 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報 (〇〇階で) を含んだ音声メッセージだけが放送されます。

※ 音声警報メッセージが二ヶ国語、三ヶ国語、または四ヶ国語 (日本語のほかに英語、中国語、韓国語が選択可) に設定されている場合は、日本語に続いて、設定されている言語のメッセージが放送されます。

感知器発報放送	英語	Attention please. The fire alarm system (on 〇〇 floor) is indicating a fire. We're now investigating the cause. Please wait for a further information.
	中国語	现在 〇楼的 火灾探测器已经启动。因正在确认, 请注意下一个广播。
	韓国語	지금 〇층의 화재감지기가 작동했습니다. 확인하는중이니, 다음 방송에 주의하여 주십시오.
火災放送	英語	There is a fire (on 〇〇 floor). Please evacuate as quickly as possible.
	中国語	火灾! 火灾! 在〇楼 发生火灾。请镇定地前往避难场所避难。
	韓国語	화재입니다. 화재입니다. 〇층에서화재가 발생했습니다. 침착하게 대피하여 주십시오.
非火災報放送	英語	Attention please. A few minutes ago, we announced there may be a fire. However, there is no fire. Once again, there is no fire.
	中国語	先前火灾感知器之动作, 确认结果并无异常状况。请放心。
	韓国語	방금전의 화재감지기의 작동은 확인 결과 이상 없음이 확인되었습니다. 안심하여 주십시오.

● 音声ガイドメッセージ

以下のメッセージは、前面操作部のモニタースピーカーから出力されます。放送階のスピーカーからは出力されません。

M4	放送階選択スイッチを押せ。
M5	発報放送を起動した。現場を確認せよ。火災のときは音声警報火災スイッチを押せ。 誤報のときは、音声警報非火災スイッチを押せ。
M6	火災信号を受信した。現場を確認せよ。火災のときは音声警報火災スイッチを押せ。 誤報のときは、自火報を停止させた後、非常復旧スイッチを押せ。

業務放送のしかた

■ 業務放送の種類




FS-1000 システムでは以下の業務放送を行うことができます。

● FS-1000 本体からできる放送

FS-1000 本体を操作して以下の放送ができます。

- マイク放送*¹
- チャイムの鳴動*¹
- 本体放送音声入力端子に接続された音源の放送*¹
- BGM 端子に接続された音源の放送 (BGM 放送)*²
- 緊急放送 (メッセージ再生放送)*³

※ 放送のしかた

- *¹  P. 34 「本体放送のしかた」
- *²  P. 36 「放送階選択スイッチによる BGM 放送のしかた」
- *³  P. 37 「緊急放送のしかた」

● 非常用リモコンからできる放送

非常用リモコンを操作して以下の放送ができます。

- マイク放送
- チャイムの鳴動
- ライン、マイク／ライン端子に接続された音源の放送
- 本体の BGM 端子に接続された音源の放送 (BGM 放送)
- 緊急放送 (メッセージ再生放送)

※ 放送のしかたは別冊の非常用リモコンの取扱説明書をお読みください。

● 業務用リモコンからできる放送

業務用リモコンには卓上型リモートマイク RM-200F と壁掛型リモートマイク RM-200FW があります。業務用リモコンを操作して以下の放送ができます。

- マイク放送
- チャイムの鳴動
- 本体の BGM 端子に接続された音源の放送 (BGM 放送)
- AUX 入力に接続された音源の放送 (RM-200F で AUX 入力を使用する場合)

※ 放送のしかた  P. 38 「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」

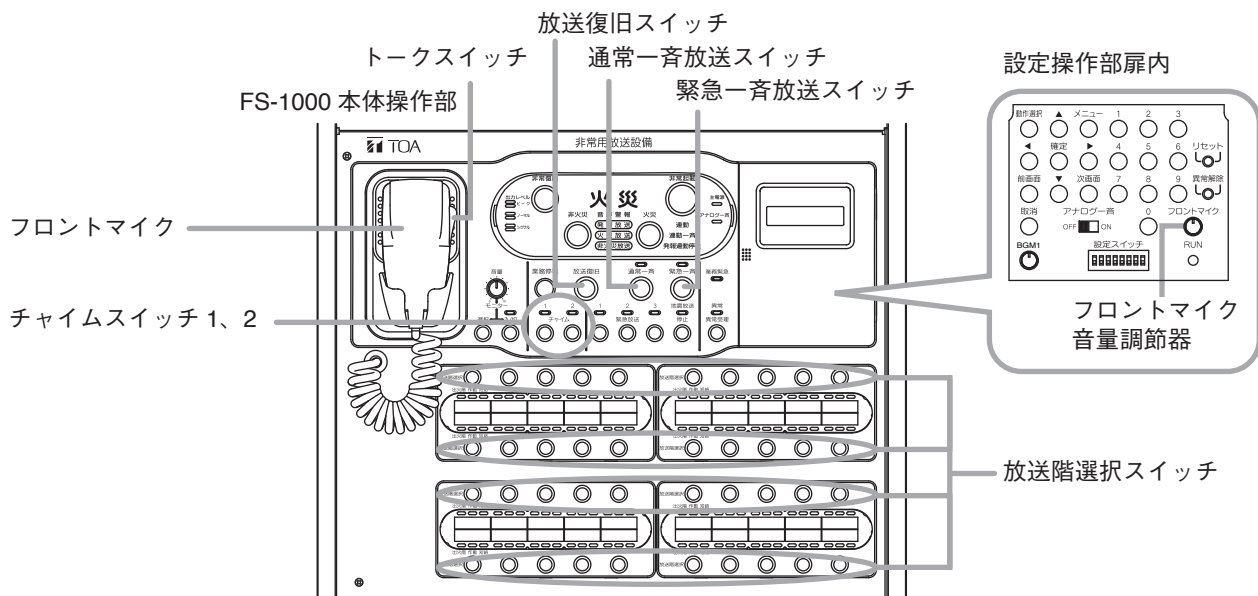
● その他端子入力を使用した放送

上記以外にも、外部機器を本体に接続して以下の放送ができます。

- 接点式 RM 放送
- 電話ページング放送
- タイマー放送
- 外部マイク放送
- 本体の BGM 端子に接続された音源の放送 (BGM 放送)
- 緊急放送 (メッセージ再生放送)

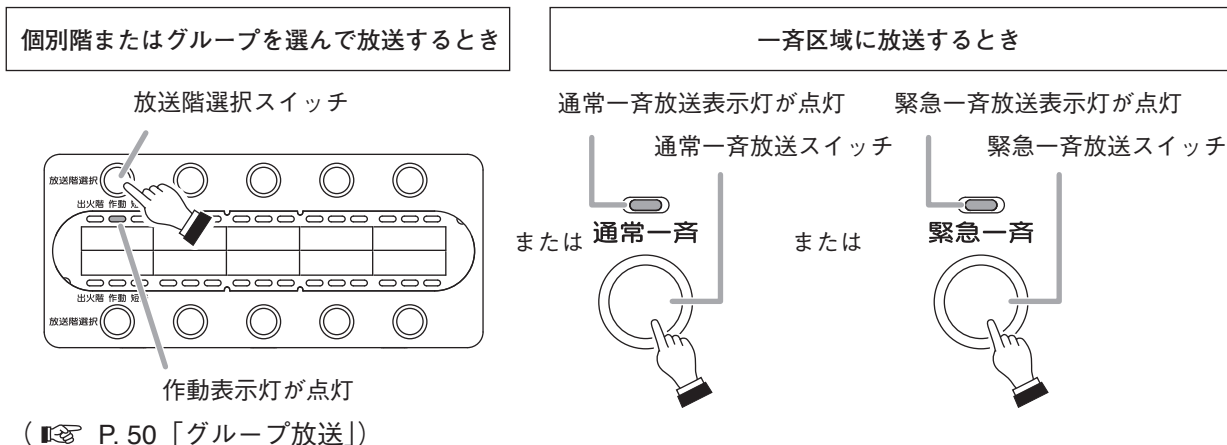
※ 放送のしかた  P. 41 「その他端子入力を使用した放送のしかた」

■ 本体放送のしかた



1 放送階を選択する。

放送階選択スイッチ、または通常一斉スイッチか緊急一斉スイッチを押して放送階を選択します。



- 本体放送音声入力端子または BGM 端子に音源が入力されているときは、この操作で音源からの放送が開始されます。ただし、BGM 端子の音源の放送は、本体放送の BGM 制御設定に従います。
(参照 P. 49 「本体・非常 RM・業務 RM 放送時の各音源の動作」)
- スイッチを押したら、液晶画面に放送状態が表示されます。

ご注意

通常一斉放送スイッチでの放送はアッテネーターにより放送の音量調節ができます。
緊急一斉放送スイッチでの放送はアッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が行われます。

メモ

- 本体放送の優先度によっては、放送できない場合があります。(参照 P. 42 「放送の優先度」)
- 放送階選択スイッチに登録されている回線の放送状態は作動表示灯で確認できます。(参照 P. 51 「作動表示灯の表示」)
- BGM 放送中に本体放送を開始したときは、BGM 制御設定に従って BGM が流れます。
(参照 P. 43 「BGM 制御設定」)

2 必要に応じて、チャイム1スイッチまたはチャイム2スイッチを押す。

放送開始時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムスイッチを押します。

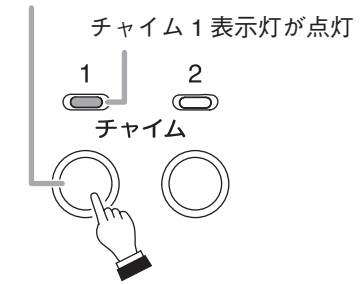
ご注意

本体放送の開始チャイムを設定している場合、マイクのトークスイッチを押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。(別冊のシステム設定説明書「業務放送動作の設定」)

メモ

- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
[工場出荷時の設定]
チャイム1：上り4音
チャイム2：下り4音
- 途中でチャイムを停止したいときは、再度チャイムスイッチを押してください。
- マイク放送中はチャイムを鳴らすことはできません。

(チャイム1スイッチを押した例)
チャイム1スイッチ



3 マイク放送をする。

3-1 フロントマイクのトークスイッチを押す。(マイク放送の開始)

開始チャイムを設定しているときは、トークスイッチを押すと同時に設定されたチャイムが鳴ります。

チャイムが鳴っている間、チャイム1表示灯が点灯します。表示灯が消灯したら、マイク放送が可能になります。

トークスイッチを押している間スピーカーから放送が流れます。

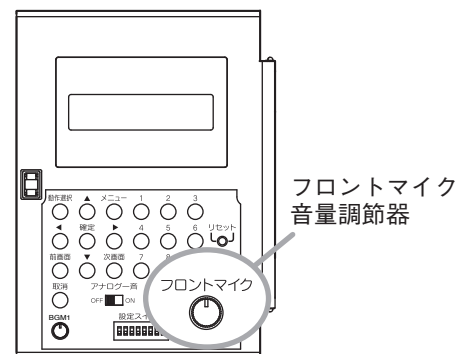
※ ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。



メモ

- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
[工場出荷時の設定]
開始チャイム：未使用
終了チャイム：未使用
- マイクの音量を調節したいときは、設定操作部扉内のフロントマイク音量調節器を回して調節します。

設定操作部扉内



3-2 トークスイッチから指を離す。(マイク放送の終了)

放送が終了します。

終了チャイムを設定しているときは、トークスイッチから指を離すと同時にチャイムが鳴ります。

チャイムが鳴っている間、チャイム2表示灯が点灯します。

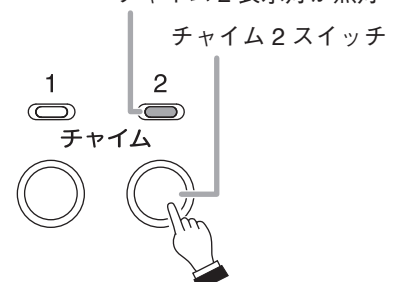
4 必要に応じて、チャイム1スイッチまたはチャイム2スイッチを押す。

放送終了時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムスイッチを押します。

ご注意

本体放送の終了チャイムを設定している場合、マイクのトークスイッチから指を離すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。(別冊のシステム設定説明書「業務放送動作の設定」)

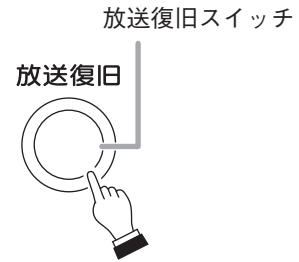
(チャイム2スイッチを押した例)
チャイム2表示灯が点灯



5 放送階の選択を解除する。

放送復旧スイッチを押すと、放送階の選択が解除されます。

本体放送音声入力端子に音源が接続されているときは、この操作で音源からの放送を終了します。



■ 放送階選択スイッチによる BGM 放送のしかた

放送階選択スイッチの操作によって、本体に接続された演奏機器からの放送を開始または終了することができます。接点端子メイクによる BGM 放送の起動は、P. 41 「その他端子入力を使用した放送のしかた」をお読みください。

※ あらかじめ放送階選択スイッチを BGM 用途に設定しておく必要があります。(別冊のシステム設定説明書「放送階選択スイッチの用途の設定」)

1 BGM 用途に設定されている放送階選択スイッチを押す。(BGM 放送の開始)

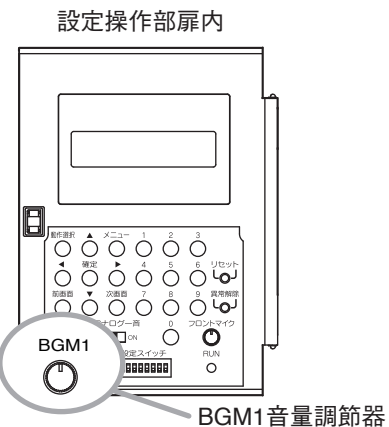
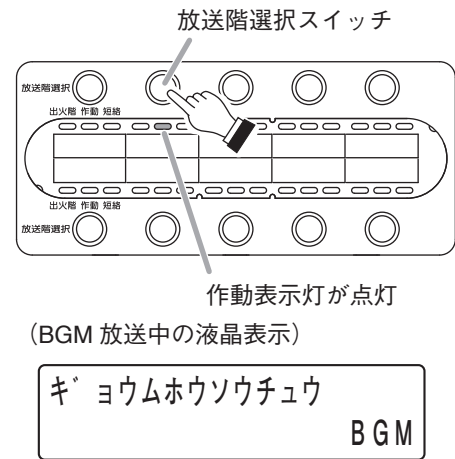
作動表示灯が点灯し、BGM 音源機器からの放送が流れます。

BGM は、システム設定時に登録した階に放送されます。

メモ

- BGM 放送中に他の放送を行った場合、BGM 放送の音量制御は、BGM 制御設定に従います。
- BGM 音声入力端子 1～3 に入力された音源はミックスされて出力されます。

- BGM 音声入力端子 1 の音量は放送中に調節することができます。設定操作部扉内の BGM1 音量調節器を回して調節してください。

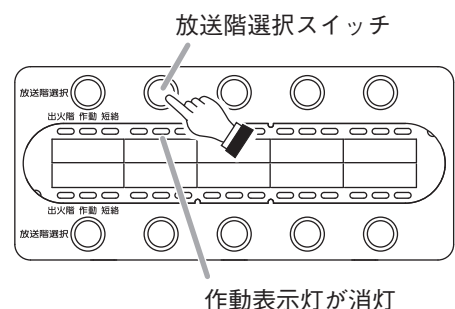


2 再度、放送階選択スイッチを押す。(BGM 放送の終了)

作動表示灯が消灯し、BGM 放送が終了します。

メモ

放送復旧スイッチを押しても BGM 放送は終了できません。



■ 緊急放送のしかた

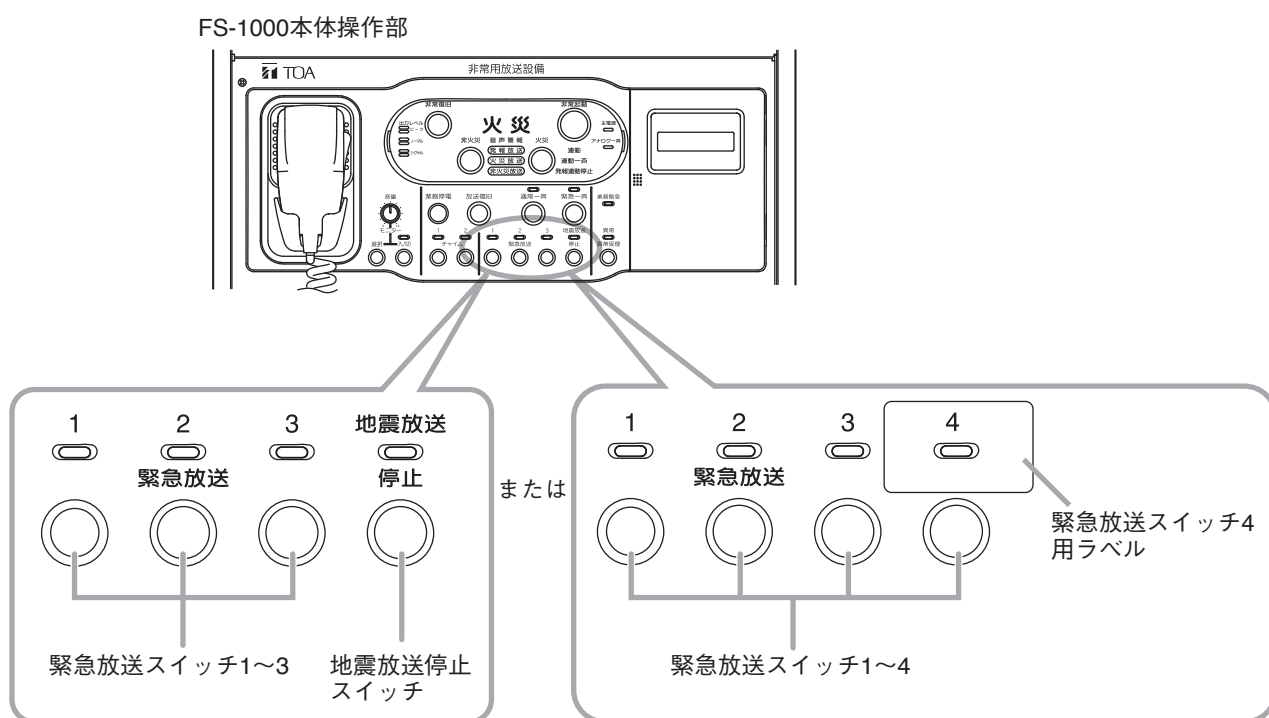
緊急放送スイッチ*を使って、あらかじめ登録したメッセージをワンタッチで放送することができます。また、制御入力の機能を「緊急放送」に設定することにより、外部から緊急放送スイッチに登録された放送を起動することもできます。(別冊のシステム設定説明書「制御入力の設定」)

* 緊急地震放送を行う場合は1～3まで、緊急地震放送を行わない場合は1～4まで。

※ メッセージ、放送階、スピーカー回線へ放送を出力するモード（通常放送／緊急放送）を登録しておく必要があります。

※ 登録できるメッセージは全10種類です。(別冊のシステム設定説明書「緊急放送スイッチの音源の設定」)

※ 地震放送停止スイッチの用途が「キンキュウハウソウ」(緊急放送)に設定されているときは、緊急放送スイッチ1～3と同様に緊急放送が行えます。この場合は、「緊急放送スイッチ4用ラベル」を所定の箇所貼り付けてください。(別冊のシステム設定説明書「緊急放送スイッチの機能の設定」「緊急スイッチ4用ラベルの取り付け」)



緊急放送スイッチを押す。(緊急メッセージの再生)

緊急放送表示灯が点灯し、登録されているメッセージが放送されます。放送は、システム設定時に登録した階に行われます。

メモ

- 途中でメッセージの再生を停止したいときは、再度緊急放送スイッチを押します。また、緊急放送停止用途の制御入力で停止することもできます。
- 緊急メッセージの優先度によっては、スイッチを押しても無効となる場合があります。(P. 42 「放送の優先度」)
- 優先度により緊急放送をできなかった場合、緊急放送は放送待機中にはならず、キャンセルされます。優先度の高い放送が終了した後、改めて緊急放送スイッチを押してください。
- 放送復旧スイッチでのメッセージの停止はできません。

■ 業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた

業務用リモコン RM-200F、RM-200FW を操作して放送を行う手順は以下のとおりです。

1 放送階を選択する。

回線選択キーまたは一斉放送キーを押して、放送階を選択します。

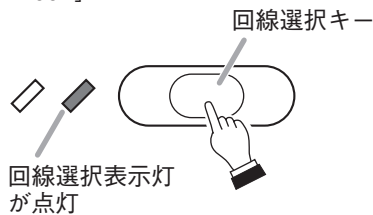
本体の液晶画面に放送状態が表示されます。

本体の BGM 端子に音源が入力されているときは、BGM 制御設定に従って BGM が流れます。

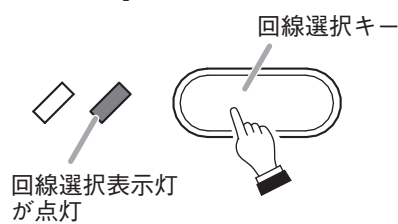
業務用リモコン RM-200F が AUX 入力を使用する設定にされているときは、RM-200F 後面の EXTERNAL MIC IN 端子の音声が発送されます。(別冊の設置説明書「AUX 入力を使用するとき」)

個別階またはグループを選んで放送するとき

[RM-200F]



[RM-200FW]

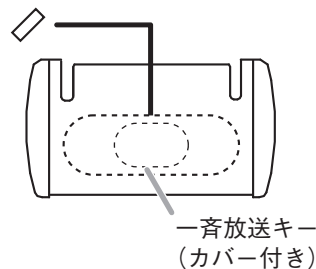


※ 回線選択キーは RM-220FW にあります。

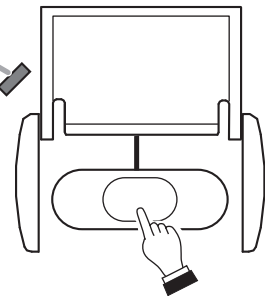
一斉区域に放送するとき

[RM-200F]

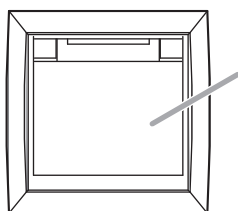
一斉放送



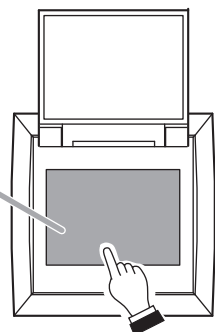
一斉放送表示灯が点灯
一斉放送



[RM-200FW]



一斉放送キーが点灯



ご注意

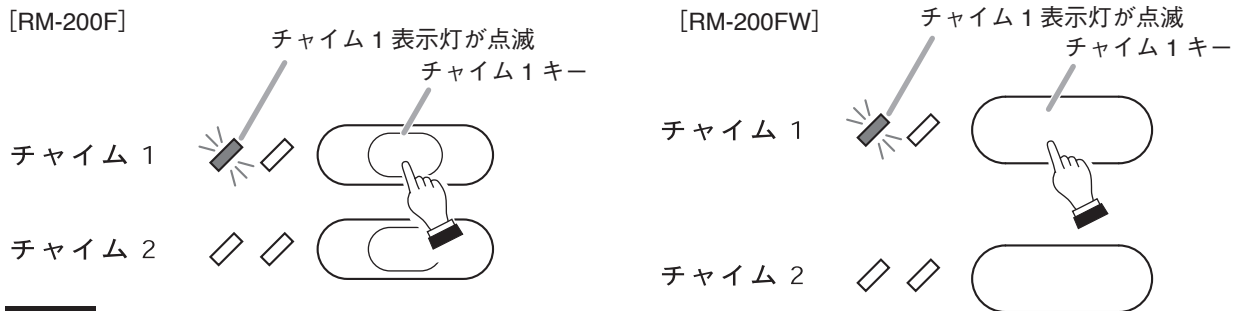
- 一斉放送キーが「通常一斉放送」に設定されているときは、アッテネーターにより放送の音量調節ができます。
- 一斉放送キーが「緊急一斉放送」に設定されているときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が行われます。

メモ

- 業務 RM 放送の優先度によっては放送できない場合があります。(別冊 P. 42 「放送の優先度」)
- 業務用リモコンを複数台使用するときは、一度に放送できるリモコンは最も優先度が高い 1 台のみです。(別冊 P. 43 「非常用リモコン同士、業務用リモコン同士の放送の優先」)
- BGM 放送中に業務 RM 放送を開始したときは、BGM 制御設定に従って BGM が流れます。(別冊 P. 43 「BGM 制御設定」)

2 必要に応じて、チャイム1キーまたはチャイム2キーを押す。 放送開始時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。

(チャイム1キーを押した例)



ご注意

業務RM放送の開始チャイムを設定している場合、トークキー／トークスイッチを押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。(別冊のシステム設定説明書「業務放送動作の設定」)

メモ

- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
[工場出荷時の設定]
チャイム1：上り4音
チャイム2：下り4音
- チャイムが鳴っている間に再度チャイムキーを押すと、操作と同時にチャイムがもう一度最初から再生されます。
- マイク放送中にもチャイム放送を鳴らすことができます。

3 マイク放送を開始する。

トークキー／トークスイッチを押します。(マイク放送の開始)

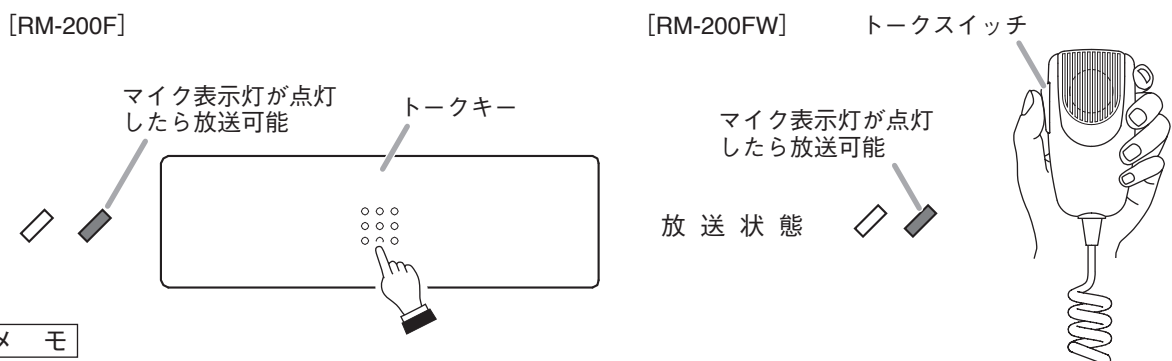
開始チャイムを設定しているときは、トークキー／トークスイッチを押すと同時に設定されたチャイム音が鳴ります。

チャイムが鳴っている間、マイク表示灯が点滅します。マイク表示灯が点灯に変わったら、マイク放送が可能になります。

RM-200Fの場合、トークキーがPTT式に設定されているときは、キーを押しながら放送します。

トークキーがLOCK式に設定されているときは、キーを一度押し、キーから指を離して放送します。

RM-200FWの場合、トークスイッチを押しながら放送します。



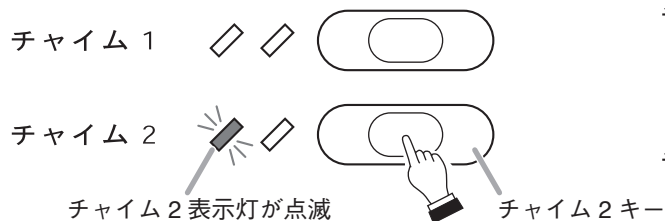
メモ

- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
[工場出荷時の設定]
開始チャイム：未使用
終了チャイム：未使用
- RM-200Fのトークキーはシステム設定時にPTT式とLOCK式のどちらかに設定されています。(工場出荷時の設定：LOCK式)(別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」)
PTT式：キーを押している間だけ放送できます。キーから指を離すと放送が終了します。
LOCK式：一度キーを押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
- RM-200FWのトークスイッチはPTT式で固定です。
- 業務用リモコンRM-200FがAUX入力を使用する設定にされているときは、RM-200F後面のEXTERNAL MIC IN端子の音声とマイクからの音声のみキシングされて放送されます。

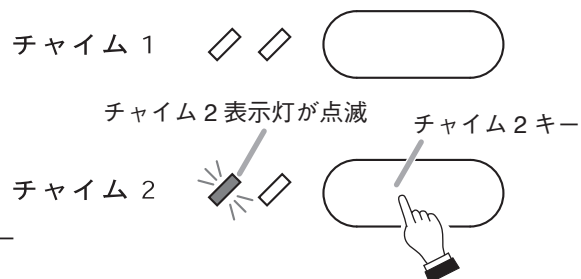
4 必要に応じて、チャイム1キーまたはチャイム2キーを押す。 放送終了時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。

(チャイム2キーを押した例)

[RM-200F]



[RM-200FW]



ご注意

業務RM放送の終了チャイムを設定している場合、トークキー／トークスイッチ（PTT式）から指を離すか、再度トークキー（LOCK式）を押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。（別冊のシステム設定説明書「業務放送動作の設定」）

5 マイク放送を終了する。


PTT式の場合はトークキー／トークスイッチから指を離します。LOCK式の場合はもう一度トークキーを押します。（マイク放送の終了）
放送が終了します。

終了チャイムを設定しているときは、放送終了時にチャイムが流れます。
マイク放送が終了すると、放送階の選択が解除されます。

■ その他端子入力を使用した放送のしかた

本体放送、放送階選択スイッチによる BGM 放送、緊急放送、非常用リモコンからの放送、業務用リモコンからの放送以外にも、外部機器を本体に接続して、以下の業務放送ができます。

- 接点式 RM 放送
- 電話ページング放送
- タイマー放送
- 外部マイク放送
- BGM 放送

( 別冊の設置説明書「その他演奏機器などの接続」)

● 放送の開始

外部機器が接点端子をメイクすることで放送が開始されます。

放送は、システム設定時に登録した階に行われます。

開始チャイムが設定されているときは、接点メイク時に設定されたチャイムが鳴ります。

本体の BGM 端子に音源が入力されているときは、BGM 制御設定に従って BGM が流れます。

● 放送の終了

接点端子がブレイクされると放送が終了します。



ただし、終了チャイムが設定されているときは、接点がブレイクした後に設定されたチャイムが鳴り、その後放送が終了します。

● 複数の接点端子で同じ音源機器を使用するとき

1つの音源に対して複数の接点端子を設定している場合、それら複数の端子がメイクすると、それぞれに設定された放送階すべてに放送が流れます。

開始または終了チャイムを設定しているときは、いずれか1つの端子がメイクしたとき、またはすべての端子がブレイクしたときだけチャイムが鳴ります。

メモ

- 放送の優先度によっては、接点端子をメイクしても放送できないことがあります。( 次ページ「放送の優先度」)
- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
[工場出荷時の設定]
開始チャイム：未使用
終了チャイム：未使用
- BGM 放送中に放送を開始したときは、BGM 制御設定に従って BGM が流れます。( P. 43「BGM 制御設定」)

業務放送の機能

■ 放送の優先度

複数の音源から同時に放送を行った場合、あらかじめ設定した優先度に従って、アンプから放送される音源が決定されます。

優先度設定についての詳細は、別冊のシステム設定説明書「優先度設定」をお読みください。

放送の優先は、優先度と同一優先度動作の設定内容により決まります。

● 優先度と同一優先度動作

システム設定時に、あらかじめ①各音源の優先度、および②同一優先度動作が設定されています。

① 優先度設定

- 各音源に対して、優先度の高さが1～20の範囲で設定されています。数字が小さいほど優先度が高くなります。

[初期設定]

音源	優先度	音源	優先度	音源	優先度
本体放送	2	業務 RM2	8	外部マイク	13
非常 RM1	3	業務 RM3	9	緊急放送 1	1
非常 RM2	4	業務 RM4	10	緊急放送 2	1
非常 RM3	5	接点式 RM	11	緊急放送 3	1
非常 RM4	6	タイマー	1	緊急放送 4	1
業務 RM1	7	電話ページング	12		

- 優先度は同じに設定することもできます。
- BGM 放送には優先度はなく、別途 BGM 制御設定がされています。
BGM 制御設定についての詳細は、別冊のシステム設定説明書「業務放送動作の設定」をお読みください。

② 同一優先度動作設定

優先度が同じ音源について、それらの間の動作を以下のどちらかに設定します。

先取り：先に起動した方の放送が優先されます。先に始めた放送が終了するまで、他の同一優先度の音源は放送できません。

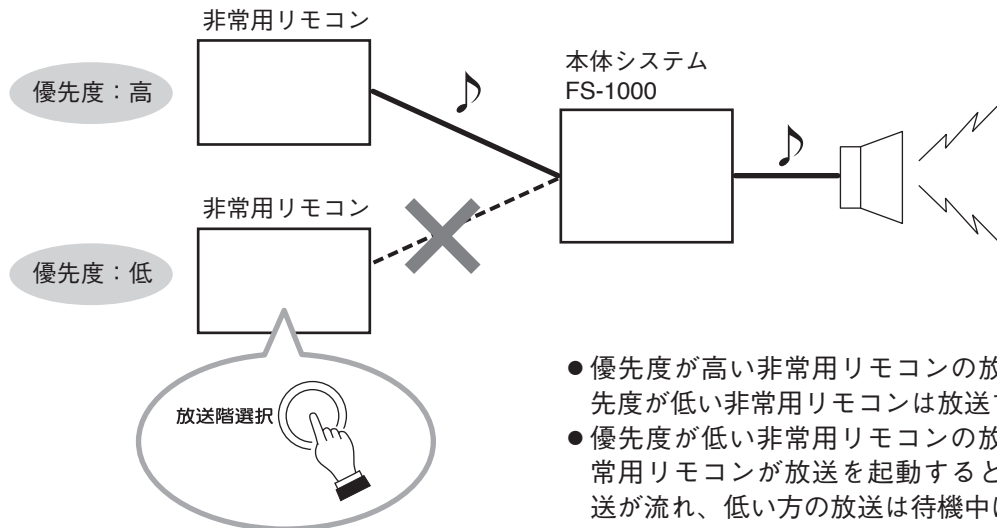
後取り：後に起動した方の放送が優先されます。(初期設定)

( 別冊のシステム設定説明書「同一優先度制御設定」)

● 非常用リモコン同士、業務用リモコン同士の放送の優先

非常用リモコンを複数台使用するときは、一度に放送できるリモコンは1台のみです。放送できるリモコンはあらかじめ設定された優先度に従います。(前ページ「優先度と同一優先度動作」) 1番目に優先度の高い非常用リモコンが放送を行っている間は、2番目以下の非常用リモコンから放送することはできません。業務用リモコンについても同様です。

(例)



- 優先度が高い非常用リモコンの放送中は、それよりも優先度が低い非常用リモコンは放送できません。
- 優先度が低い非常用リモコンの放送中に優先度が高い非常用リモコンが放送を起動すると、優先度が高い方の放送が流れ、低い方の放送は待機中になります。

ご注意

RM-1100 同士の優先度については、別冊の設置説明書「RM-1100 の接続／複数台接続時の優先順位の設定」をお読みください。

● BGM 制御設定

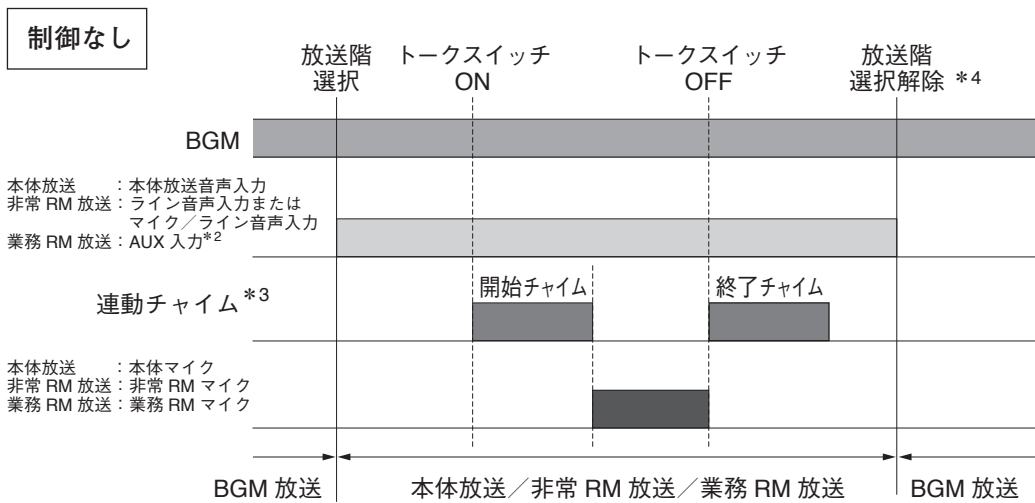
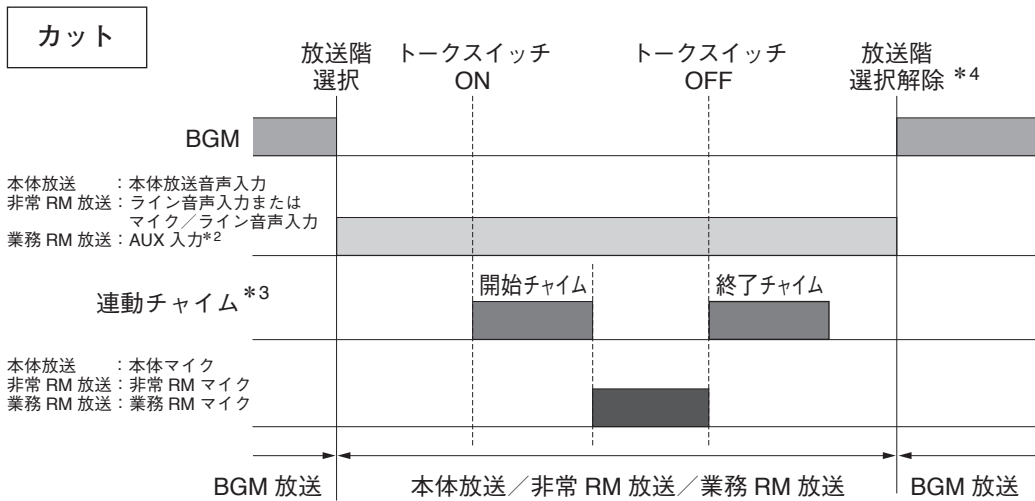
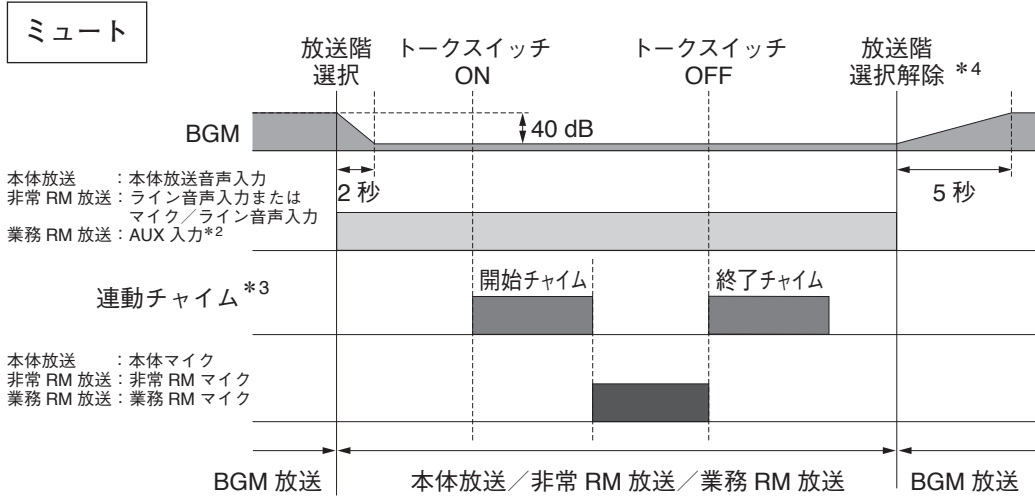
BGM 放送には優先度の設定がありません。各音源に対して設定できる BGM 制御の種類は、下表のとおりです。

音源	BGM 制御の種類					参照ページ
	ミュート	カット	制御なし	アナキーパ	ボイススイッチ	
本体放送	○	○	○	○	○	次ページ
非常 RM 放送	○	○	○	○	○	
業務 RM 放送	○	○	○	○	—	
外部マイク放送	○	○	○	—	○	P. 46
接点式 RM 放送	○	○	○	—	—	P. 47
タイマー放送	○	○	○	—	—	
電話ページング放送	○	○	○	—	—	
緊急放送	—	○	—	—	—	P. 48

(1) 本体放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送の場合

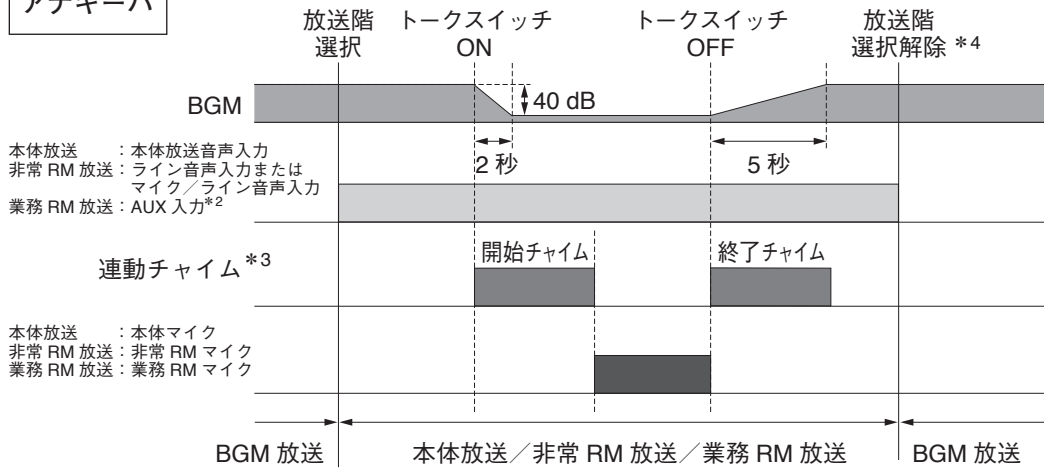
制御の種類は以下のとおりです。ただし、業務 RM 放送には「ボイススイッチ」はありません。

- ・ミュート*1
- ・カット
- ・制御なし
- ・アナキーパ*1
- ・ボイススイッチ

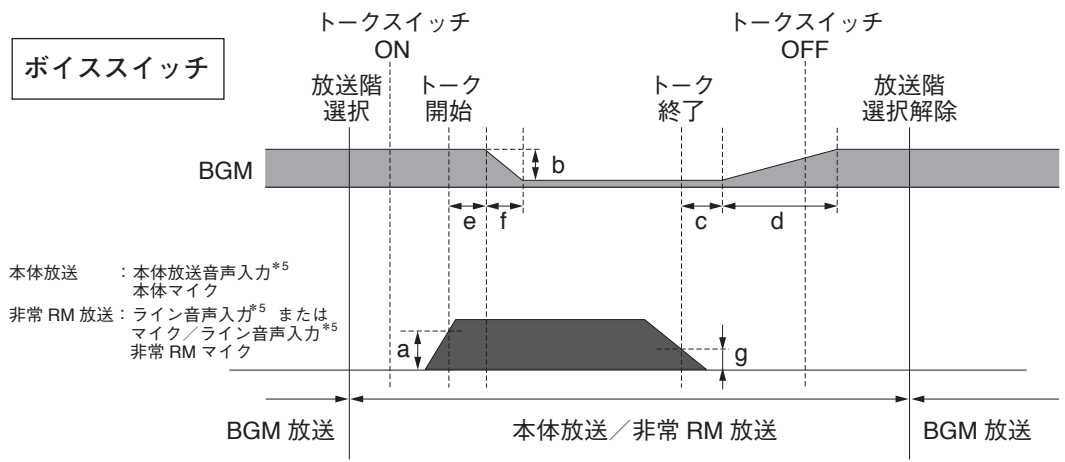


※ 脚注 (*1 ~ *4) については P. 48 を参照してください。

アナキーパ



ボイススイッチ

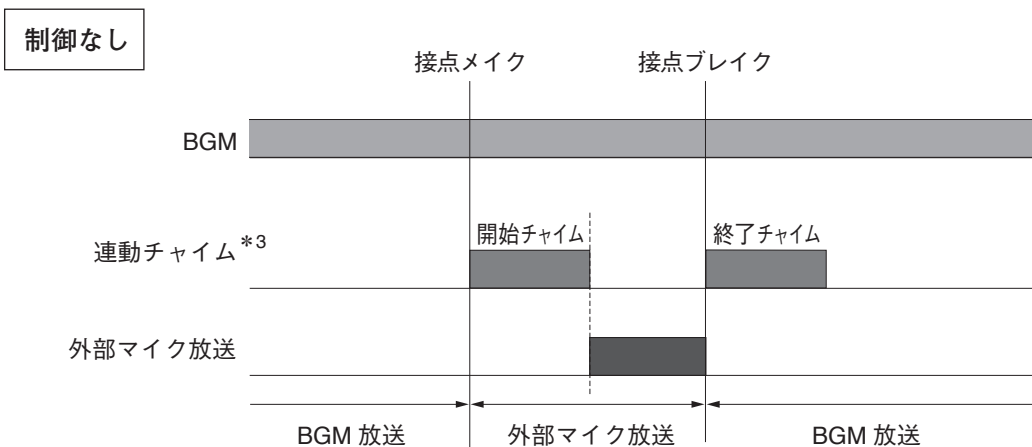
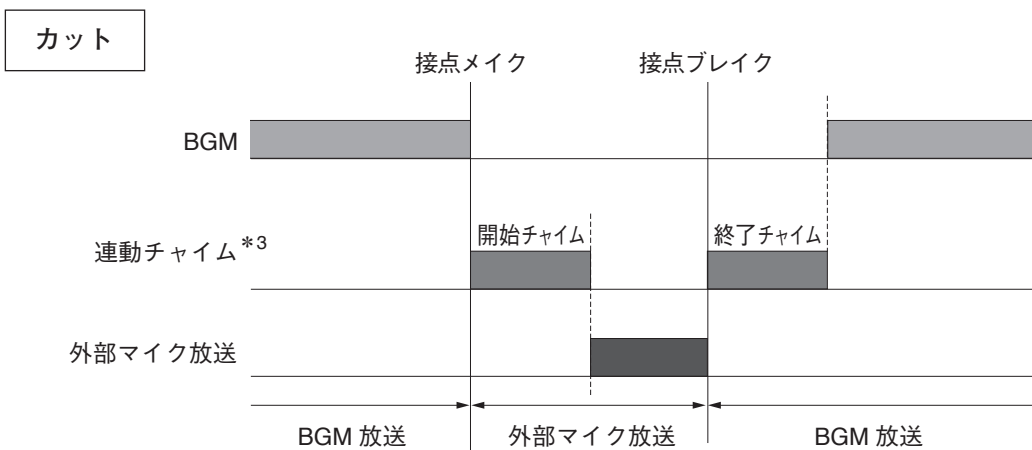
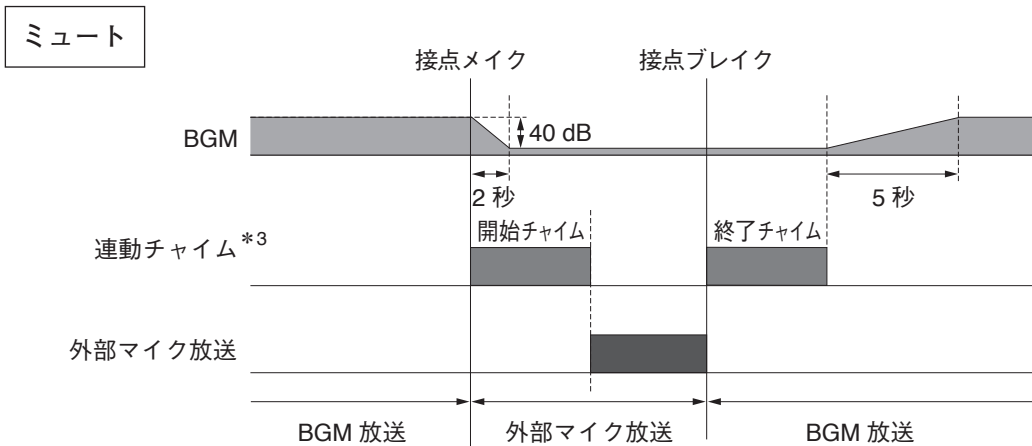


	パラメーター	設定範囲	初期値
a	感度	-40 ~ -1 dB	-30 dB
b	BGM 減衰量	-∞、-50 ~ -10 dB	-40 dB
c	ホールド時間	1 ~ 10 秒	2 秒
d	BGM 復帰時間	0 ~ 10 秒	1 秒
e	減衰開始時間	0 ~ 10 秒	0 秒
f	減衰時間	0 ~ 10 秒	0 秒
g	復帰開始感度	-50 ~ 0 dB	-40 dB

※ ボイススイッチには連動チャイムはありません。
 連動チャイムを使用する場合は、アナキーパを利用してください。

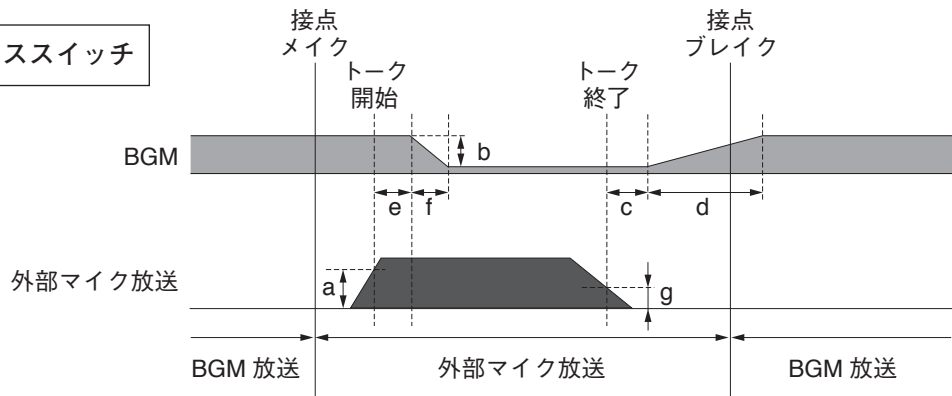
※ 脚注 (*3 ~ *5) については P. 48 を参照してください。

- (2) 外部マイク放送の場合
 制御の種類は以下のとおりです。
- ・ミュート*1
 - ・カット
 - ・制御なし
 - ・ボイススイッチ



※ 脚注 (*1、*3) については P. 48 を参照してください。

ボイススイッチ



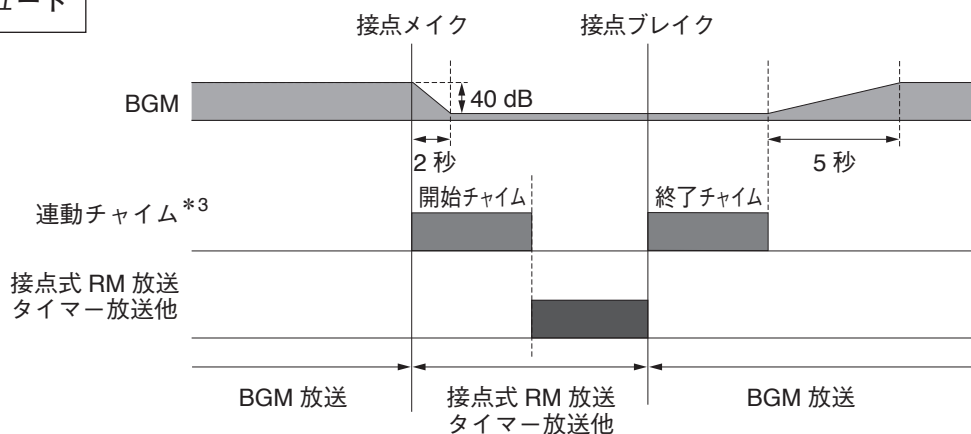
	パラメーター	設定範囲	初期値
a	感度	-40 ~ -1 dB	-30 dB
b	BGM 減衰量	-∞、-50 ~ -10 dB	-40 dB
c	ホールド時間	1 ~ 10 秒	2 秒
d	BGM 復帰時間	0 ~ 10 秒	1 秒
e	減衰開始時間	0 ~ 10 秒	0 秒
f	減衰時間	0 ~ 10 秒	0 秒
g	復帰開始感度	-50 ~ 0 dB	-40 dB

※ ボイススイッチには連動チャイムはありません。
連動チャイムを使用する場合は、アナキーパを利用してください。

(3) 接点式 RM 放送、タイマー放送、電話ページング放送の場合
制御の種類は以下のとおりです。

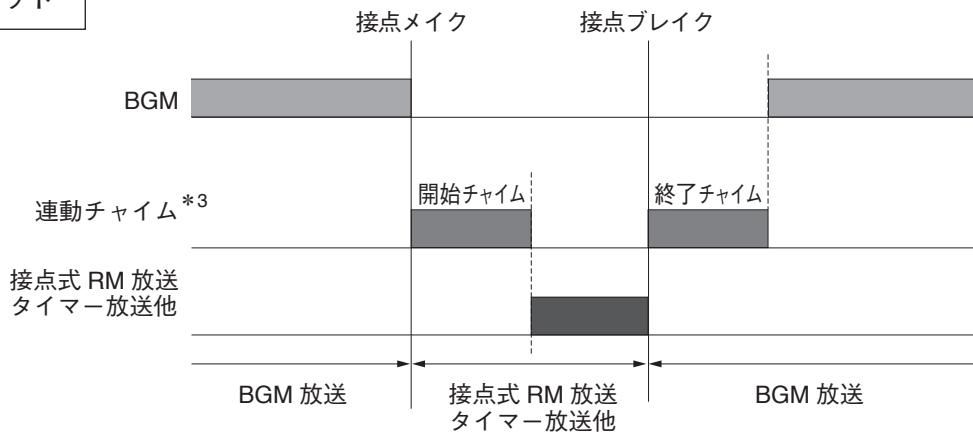
- ・ミュート*1
- ・カット
- ・制御なし

ミュート

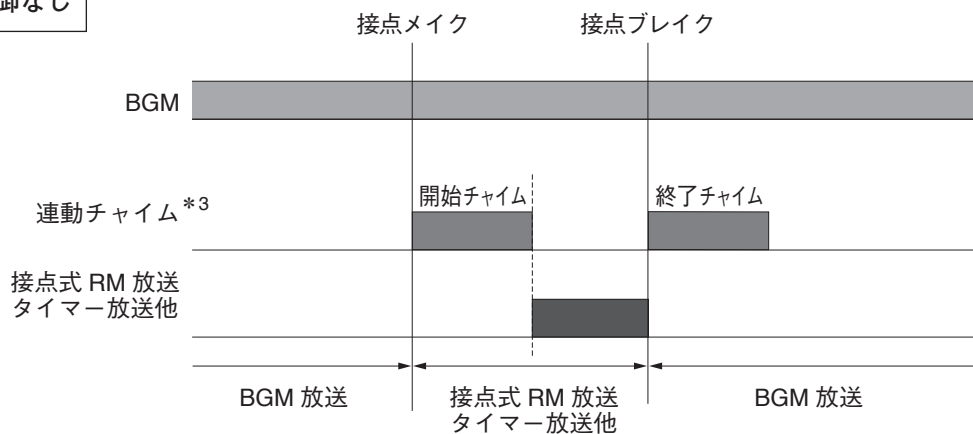


※ 脚注 (*1、*3) については次ページを参照してください。

カット



制御なし

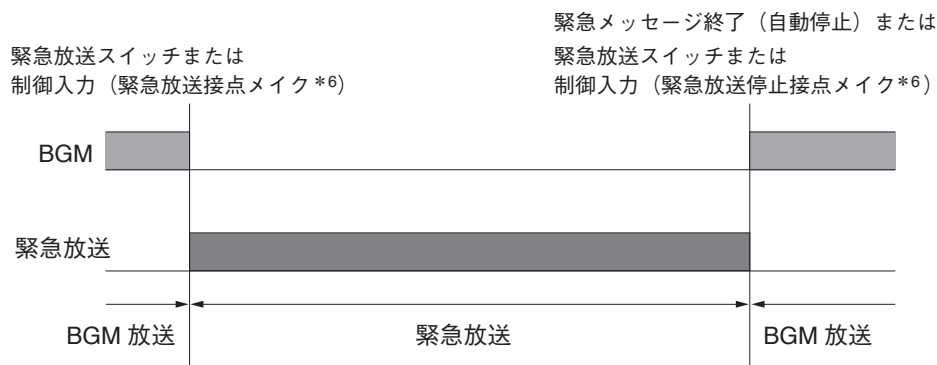


(3) 緊急放送の場合

「カット」で固定となります。

緊急放送には連動チャイムはありません。

カット



*1 減衰 (2 秒)・復旧時間 (5 秒)・減衰量 (-40 dB) は固定です。

*2 RM-200F で AUX 入力を使用する場合。

*3 開始/終了チャイムを「未使用」に設定しているときは、トークスイッチ ON/OFF 時または接点メイク/ブレイク時にチャイム音を鳴らしません。

*4 業務用リモコンのトークスイッチの設定が PTT 式の場合は、トークスイッチを OFF にすると、自動的に放送階選択が解除されます。

*5 あらかじめ音声が入力されている場合は、放送階選択が行われた時点でボイススイッチ機能が働きます。

*6 接点ブレイク時は変化ありません。

■ 本体・非常 RM・業務 RM 放送時の各音源の動作

FS-1000 本体、非常用リモコン、または業務用リモコンからマイク放送をするときの BGM 音源・本体放送音声入力端子への入力・連動チャイム・マイク放送の各音源の動作は以下のようになります。

● BGM 音源

BGM 制御設定に従って減衰します。

BGM 制御設定についての詳細は、別冊のシステム設定説明書「業務放送動作の設定」をお読みください。


● 本体放送音声入力端子

放送階を選択すると、本体放送音声入力端子*への入力音源が放送されます。本体放送音声入力端子への入力音源はチャイム、マイク放送時も中断せずに放送します。放送階選択を解除すると、放送が終了します。

* 非常用リモコンではライン音声入力端子またはマイク／ライン音声入力端子に該当します。両方の端子に音源を入力したときは、両方の音をミックスして放送されます。業務用リモコンでは、AUX 入力を使用する場合に該当します。

● 連動チャイム

- 開始チャイムの音源を設定している場合、マイクのトークスイッチを押すとチャイムが鳴ります。
初期設定：未使用（本体・非常 RM）、上り 4 音（業務 RM）
- 本体・非常 RM 放送では、チャイムが鳴っている間、マイクに向かって話しても、その音声は放送されません。
- 開始チャイムが「未使用」に設定されているときは、トークスイッチを押すと起動チャイムを鳴らさずにすぐにマイク放送が開始します。
- 終了チャイムの音源を設定している場合、マイクのトークスイッチを離すとチャイムが鳴ります。
初期設定：未使用（本体・非常 RM）、下り 4 音（業務 RM）
開始・終了チャイムの設定についての詳細は、別冊のシステム設定説明書「業務放送動作の設定」をお読みください。


※ 業務用リモコンはトークスイッチの設定が PTT 式か LOCK 式によって動作が異なります。（ P. 39）

● マイク放送

放送階が選択された状態でマイクのトークスイッチを押すと放送が開始されます。

トークスイッチを押している間放送ができます。

トークスイッチを離すとマイク放送が終了します。

※ 業務用リモコンはトークスイッチの設定が PTT 式か LOCK 式によって動作が異なります。（ P. 39）

※ 本体放送の用途と使用可能な放送音源の関係は、下表のとおりです。

[用途と使用可能な放送音源]

用途 \ 音源	BGM 音源	本体放送音声入力端子	連動チャイム	マイク
非常	—	—	—	○
業務	○*	○	○	○
兼用	○*	○	○	○
BGM	○	—	—	—

* 放送階選択スイッチ設定が「業務」か「兼用」、かつ業務放送の BGM 制御設定が「カット」以外のときに、スイッチ選択によって BGM 音源が流れます。

■ グループ放送

各放送階選択スイッチは、システム設定時に個別のスピーカー回線またはスピーカー回線のグループのどちらかを登録できます。

放送階選択スイッチにスピーカー回線のグループを登録すると、異なるスピーカー回線をひとまとめにして放送することができます。これをグループ放送と呼びます。

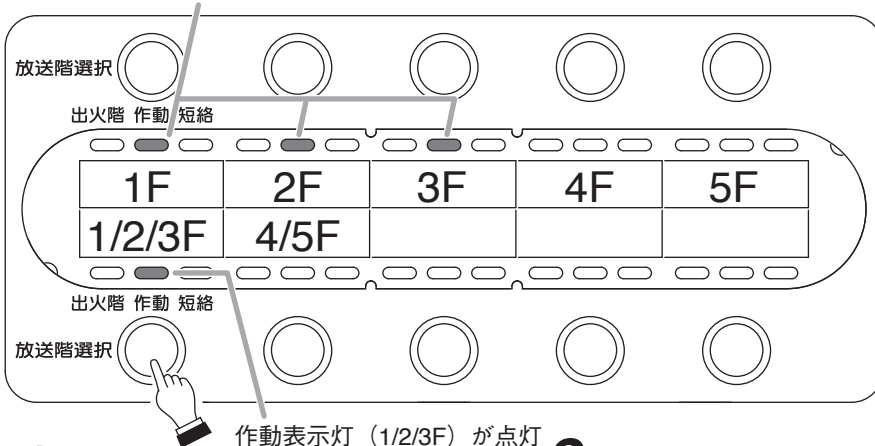
たとえば、売場・従業員エリアなど系統別にそれぞれ放送階選択スイッチに登録しておけば、後はワンタッチで必要な場所へ放送できます。

グループを登録した放送階選択スイッチを押すと、そのスイッチの作動表示灯およびグループ指定したすべての階別の作動表示灯が連動して点灯します。

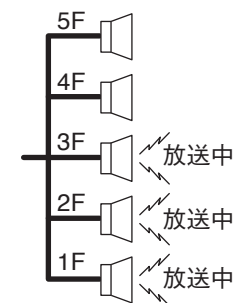
(例)

1 放送階選択スイッチ (1/2/3F) を押す。(1つのグループを選択)

作動表示灯 (1F) (2F) (3F) が連動して点灯



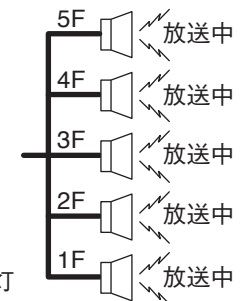
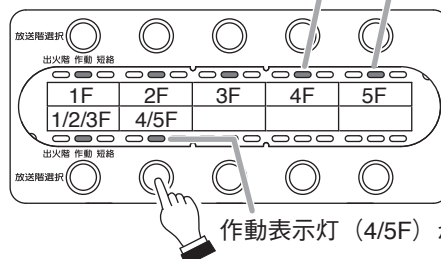
各スピーカーの放送状態



作動表示灯 (1/2/3F) が点灯

2-1 放送階選択スイッチ (4/5F) を押す。
作動表示灯 (4F) (5F) が連動して点灯

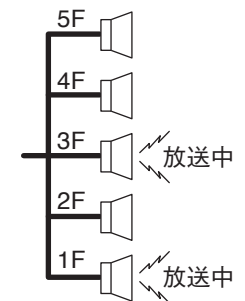
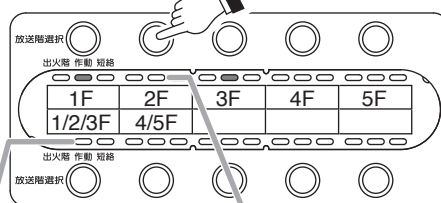
複数のグループを選択するとき



作動表示灯 (4/5F) が点灯

2-2 放送階選択スイッチ (2F) を押す。

グループ指定した中に放送したくない場所があるとき

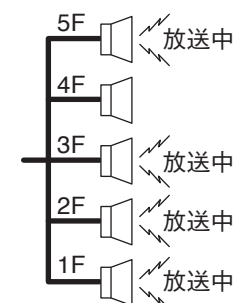
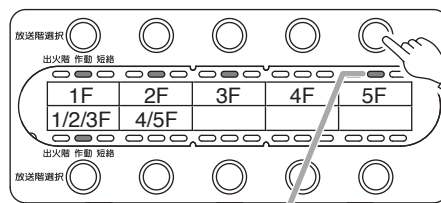


作動表示灯 (1/2/3F) が消灯

作動表示灯 (2F) が消灯

2-3 放送階選択スイッチ (5F) を押す。

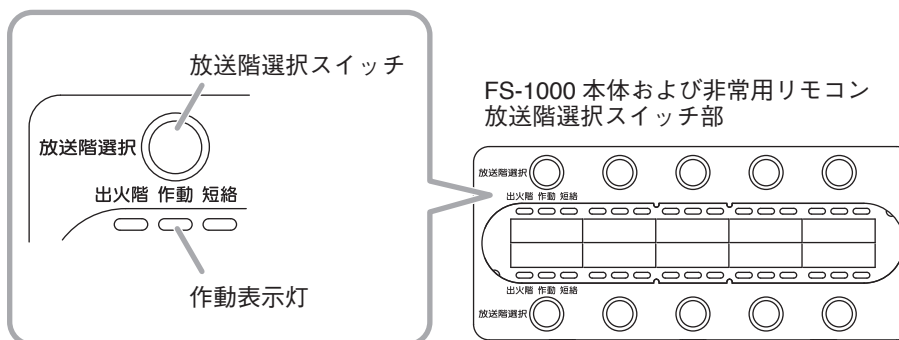
グループ放送に個別階を追加したいとき



作動表示灯 (5F) が点灯

■ 作動表示灯の表示

FS-1000 本体および非常用リモコンの放送階選択スイッチの作動表示灯の状態、登録されている回線の放送状態が分かります。



作動表示灯設定により、作動表示灯の点灯状態は以下の4種類または2種類になります。

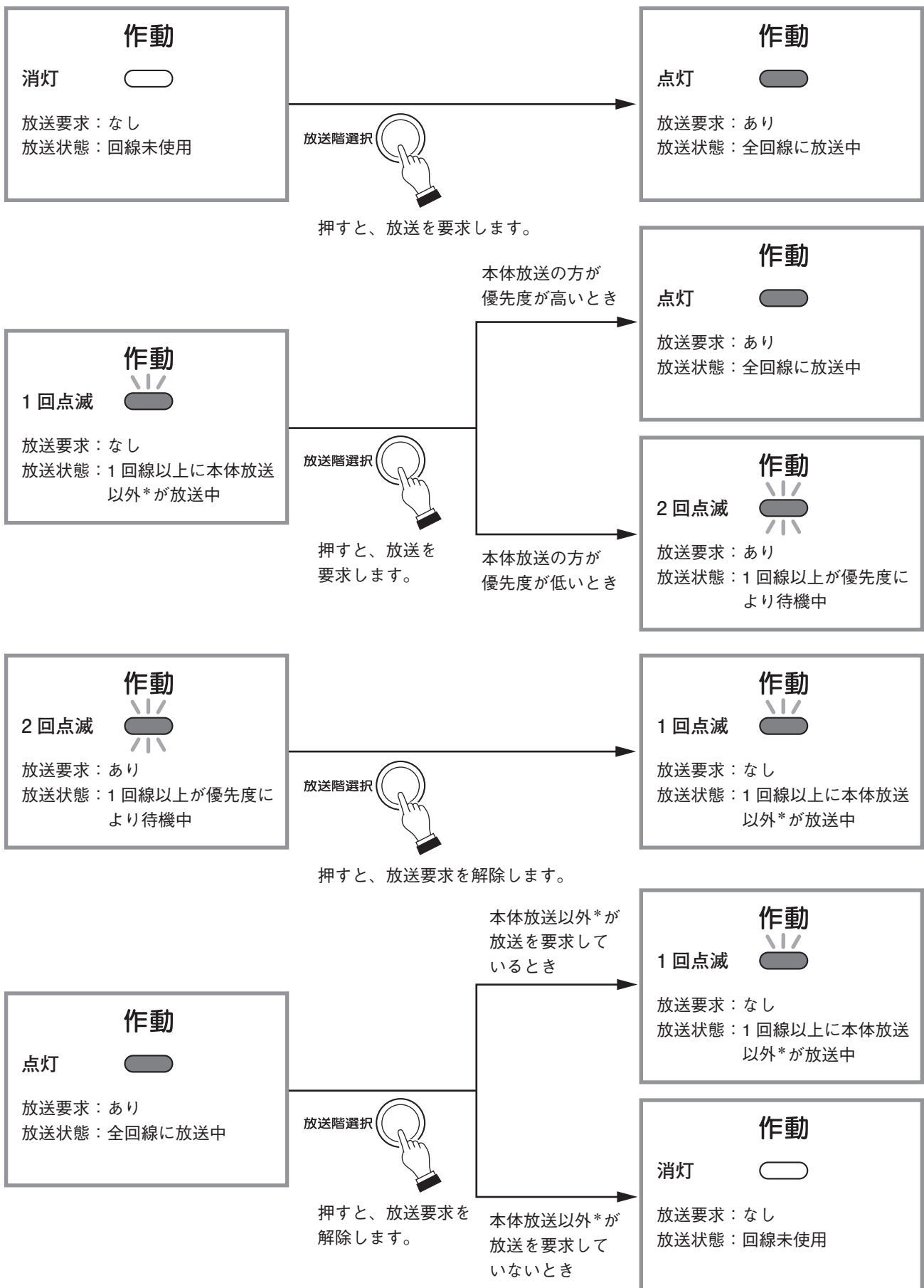
作動表示灯設定	機器の動作と表示灯の状態	表示灯の点灯状態	参照先
通常	本体以外の機器や制御入力などによる放送中も作動表示灯が点灯または点滅します。	点灯、1回点滅、2回点滅、消灯	P. 52
自機放送中のみ	自機放送中の作動表示灯のみ点灯します。	点灯、消灯	P. 53
回線動作中	本体以外の機器や制御入力などによる放送中も作動表示灯が点灯します。その場合に点灯するのは、放送階選択スイッチの出力回線設定が「個別」で、回線番号に放送中のスピーカー回線が登録されているスイッチの作動表示灯です。	点灯、消灯	P. 54

次ページ以降の図において、作動表示灯の点灯状態は以下のように表しています。



● 作動表示灯設定が「通常」（工場出荷時の設定）の場合

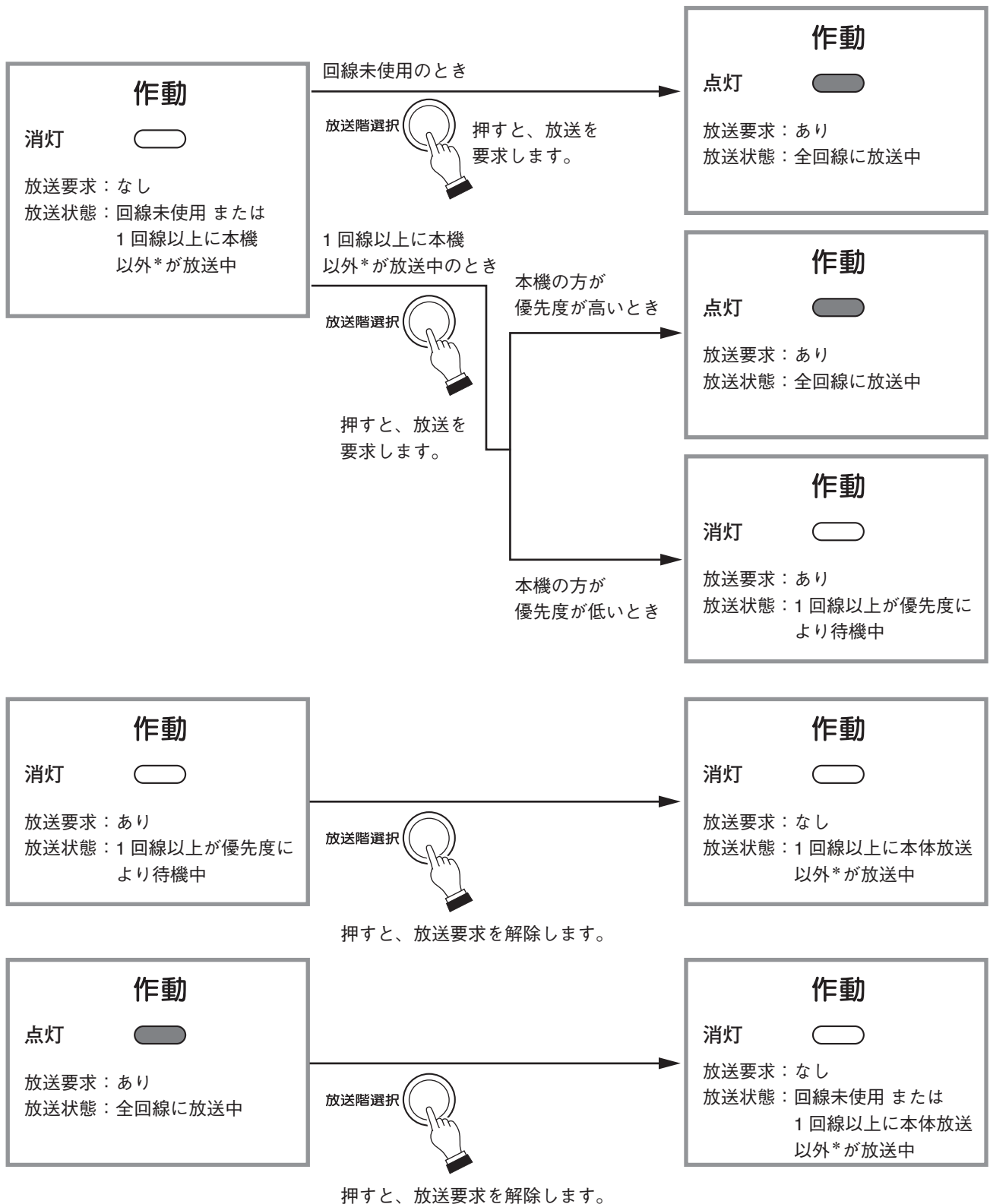
作動表示灯の各状態において放送階選択スイッチを押したときの動作は、次のようになります。



* 緊急放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送、接点式 RM 放送、電話ページング放送、タイマー放送、外部マイク放送 (BGM 放送は含まれません。)

● 作動表示灯設定が「自機放送中のみ」の場合

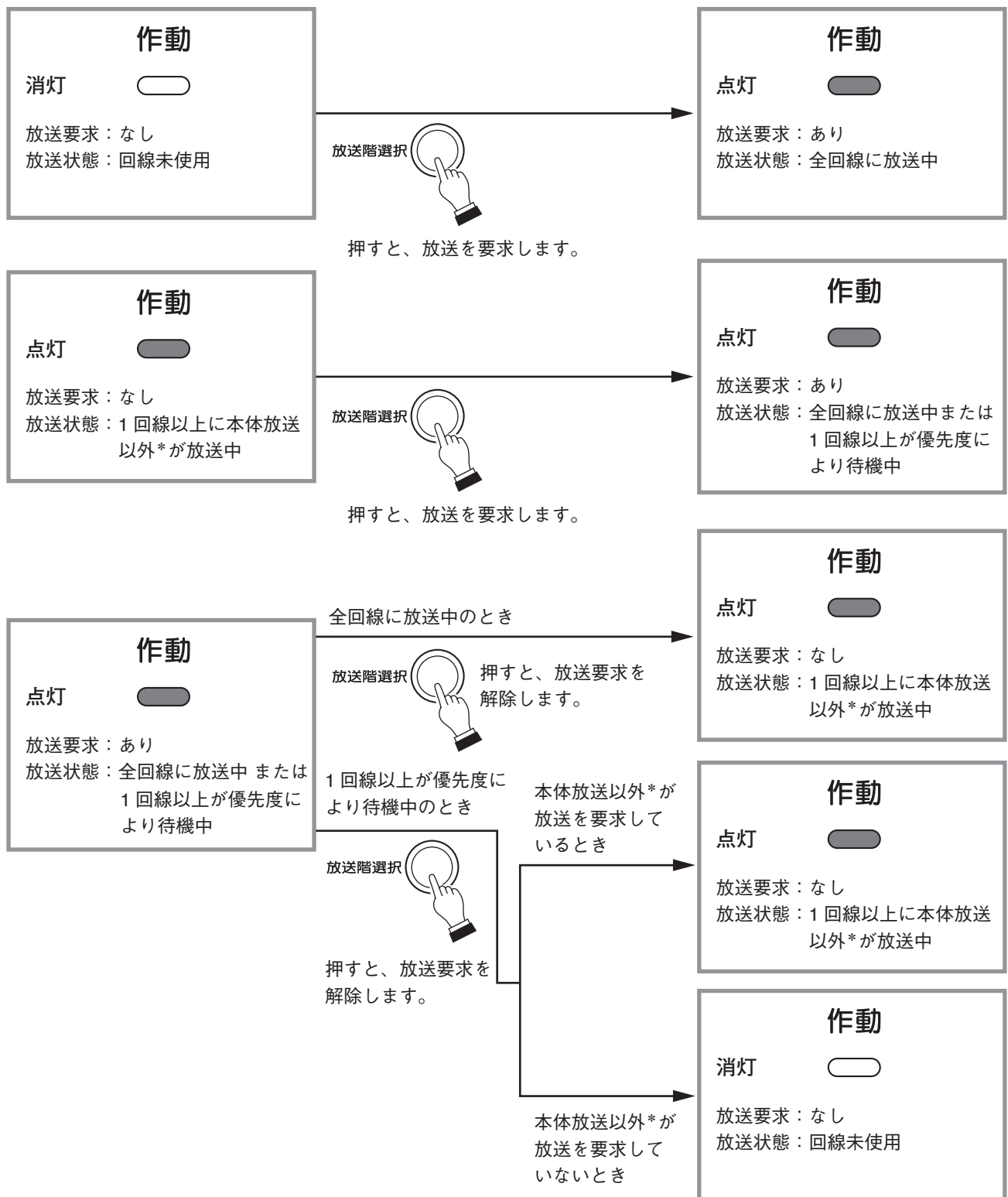
作動表示灯の各状態において放送階選択スイッチを押したときの動作は、次のようになります。



* 緊急放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送、接点式 RM 放送、電話ページング放送、タイマー放送、外部マイク放送 (BGM 放送は含まれません。)

● 作動表示灯設定が「回線動作中」の場合

作動表示灯の各状態において放送階選択スイッチを押したときの動作は、次のようになります。

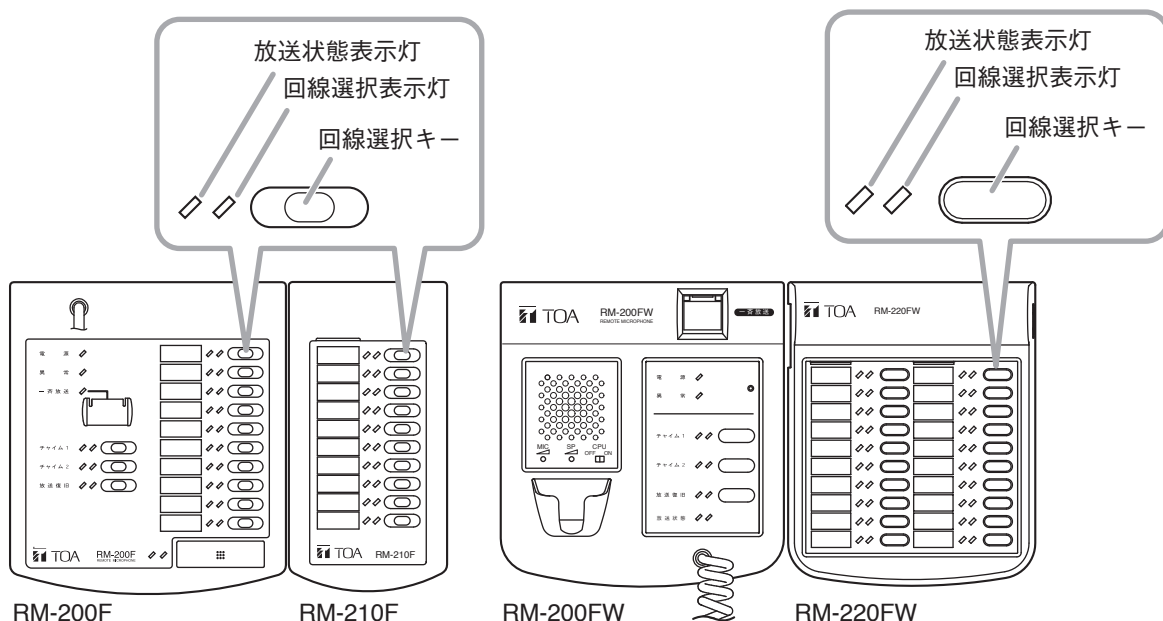


* 緊急放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送、接点式 RM 放送、電話ページング放送、タイマー放送、外部マイク放送 (BGM 放送は含まれません。)

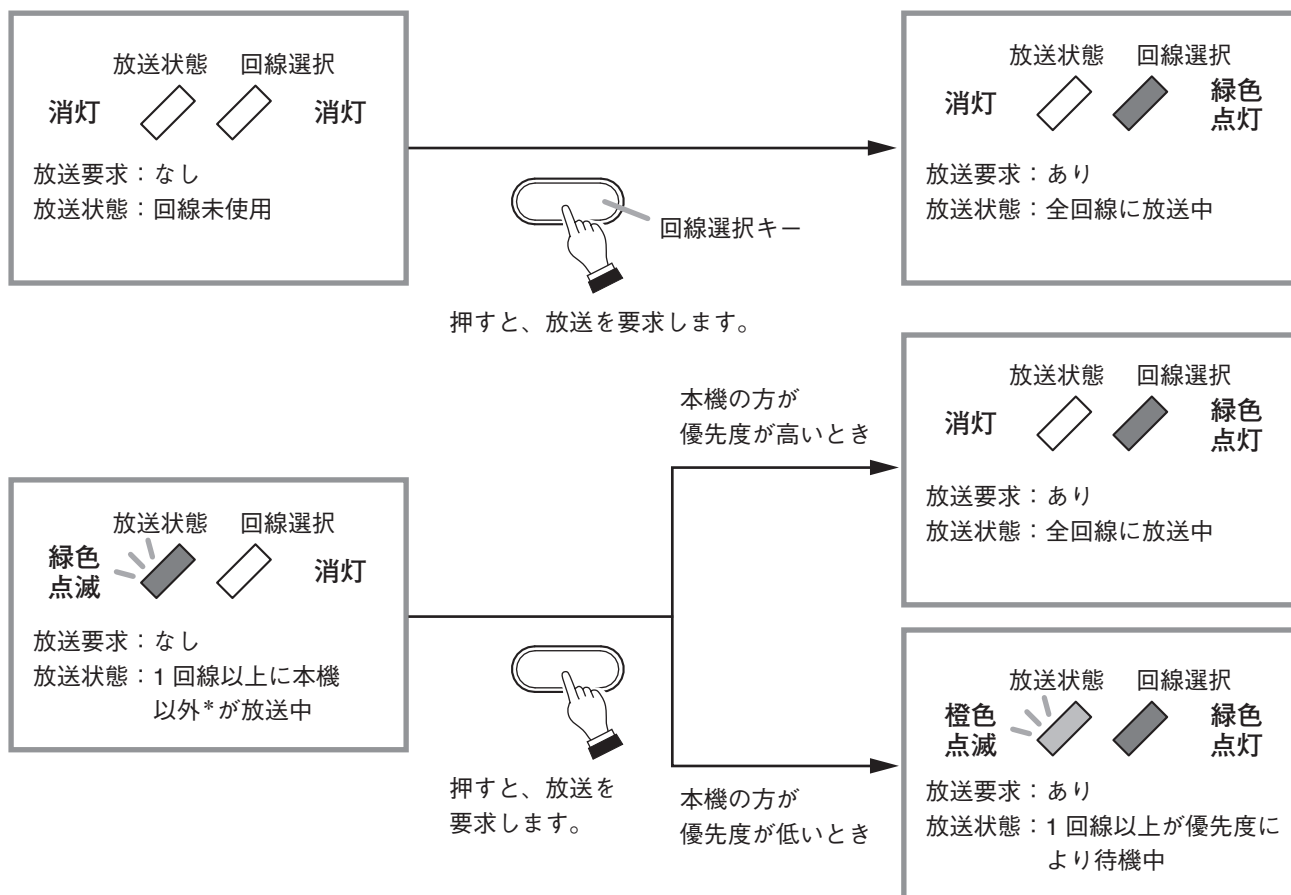
■ 業務用リモコンの放送状態の表示

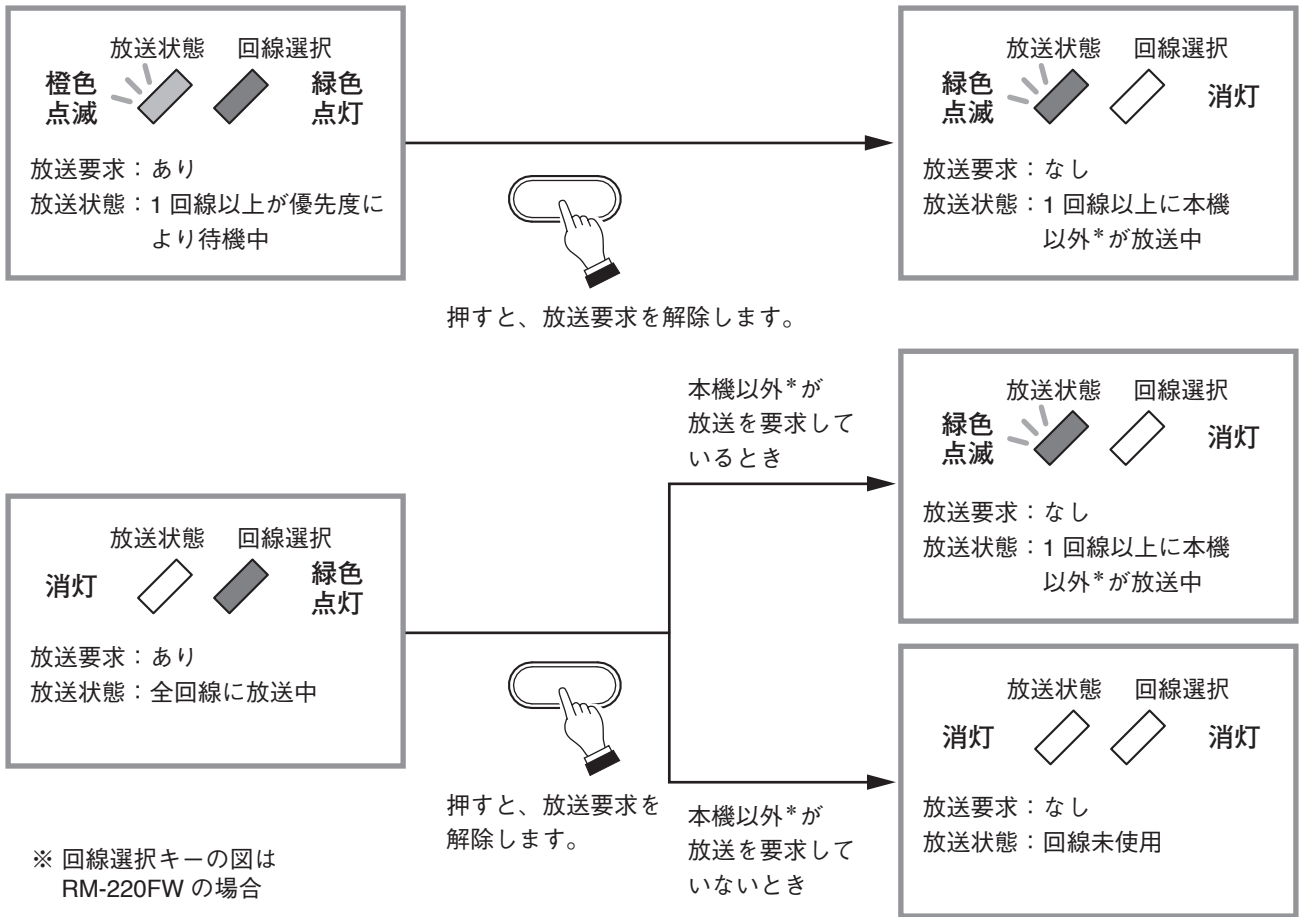
● 回線選択キーに登録された回線の放送状態の表示

RM-200F/210F/200FW/220FW の回線選択キーの放送状態表示灯および回線選択表示灯の状態、登録されている回線の放送状態が分かります。



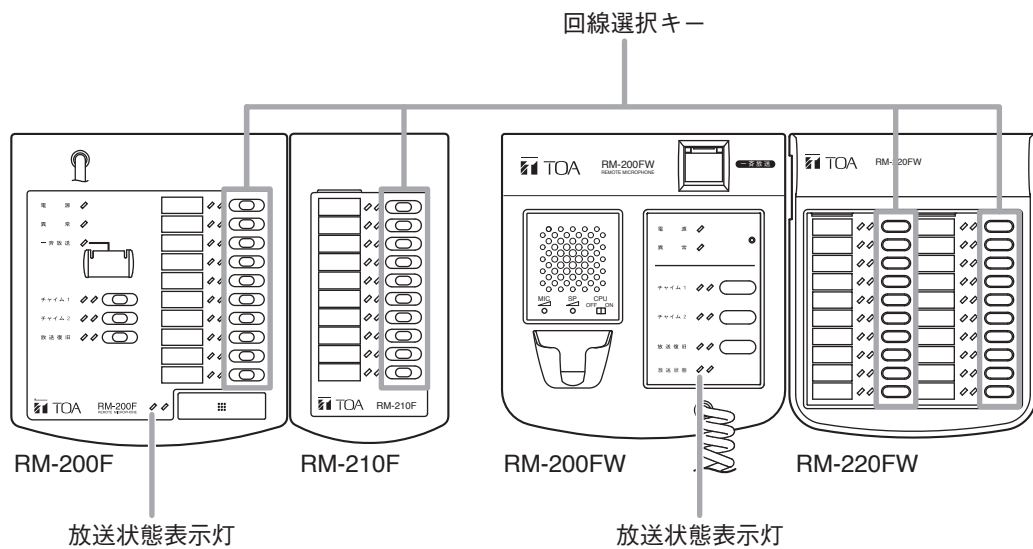
上図に示す放送状態表示灯および回線選択表示灯の各状態において、回線選択キーを押したときの動作は次のようになります。



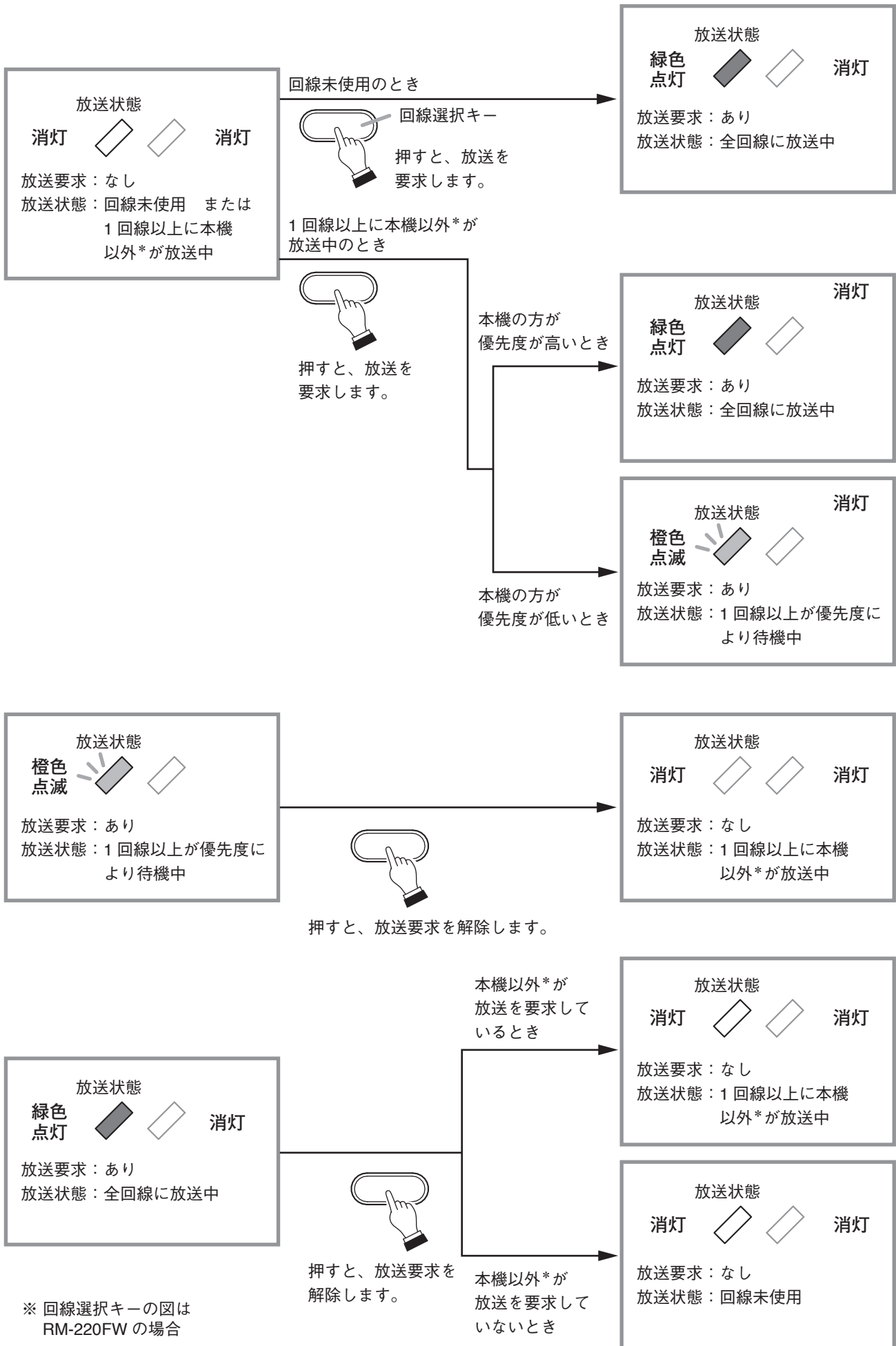


● 本機で選択した回線の放送状態の表示

RM-200F/200FW の放送状態表示灯の状態で、本機の放送状態が分かります。



上図に示す放送状態表示灯の各状態において、回線選択キーを押したときの動作は次のようになります。



※ 回線選択キーの図は
RM-220FW の場合

* BGM 放送は含まれません。

■ 通常放送モードと業務緊急モード

スピーカー回線へ放送を出力するモードは、通常放送モードと業務緊急モードの2種類があります。

通常放送モード（業務緊急なし）：出力回線のN線に信号が出力されます。

アッテネーターによる音量調節ができます。

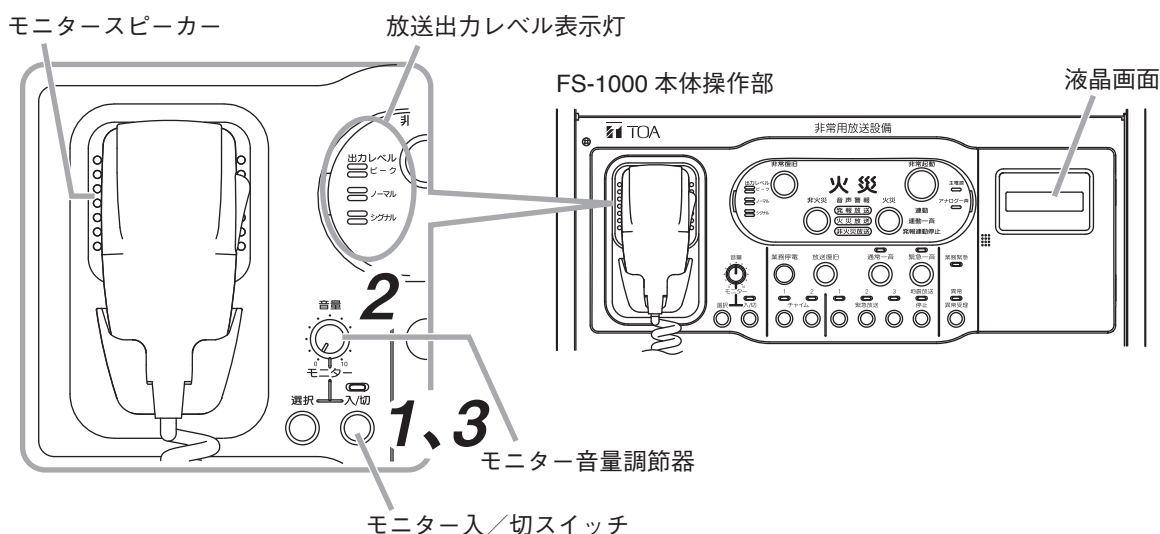
業務緊急モード（業務緊急あり）：出力回線のN線、R線ともに信号が出力されます。

アッテネーターの設定に関係なく、最大音量で放送が行われます。

各放送階選択スイッチは、システム設定時に「通常放送モード」または「業務緊急モード」のどちらかに設定されています。

■ 放送モニター機能

本体操作部のモニター入／切スイッチを操作して、現在流れている放送をモニターすることができます。



1 モニター入／切スイッチを押す。

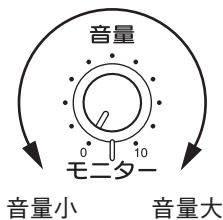
モニター表示灯が点灯し、放送モニター機能がオンになります。

放送出力レベル表示灯に出力レベルが表示されます。ピークレベルが点灯しない範囲で使用してください。

2 モニター音量調節器で音量を調節する。

ご注意

- 非常放送時および緊急地震放送時は、音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。
- ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。

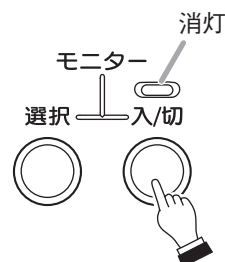


3 モニター入／切スイッチを押す。

モニター表示灯が消灯し、放送モニター機能がオフになります。

ご注意

非常放送時、緊急地震放送時はモニターがオフになっていても自動的にモニター音声流れます。



業務停電放送

業務停電放送とは

業務停電放送とは、常用電源が停電のときに行う業務放送のことです。
業務停電放送をするには、業務用電源ユニット FS-1000GU が必要です。

業務停電放送のしかた

停電時に業務放送を起動する方法は次の5通りがあります。

- ① FS-1000 本体の業務停電放送起動スイッチによる起動
 - ② FS-1000 本体の緊急放送スイッチによる起動
 - ③ 非常用リモコンの業務停電放送起動スイッチによる起動
 - ④ 非常用リモコンの緊急放送スイッチによる起動
 - ⑤ 外部機器*からの制御入力による起動
- * タイマー、電話ページング、接点式リモコン、外部マイクなど

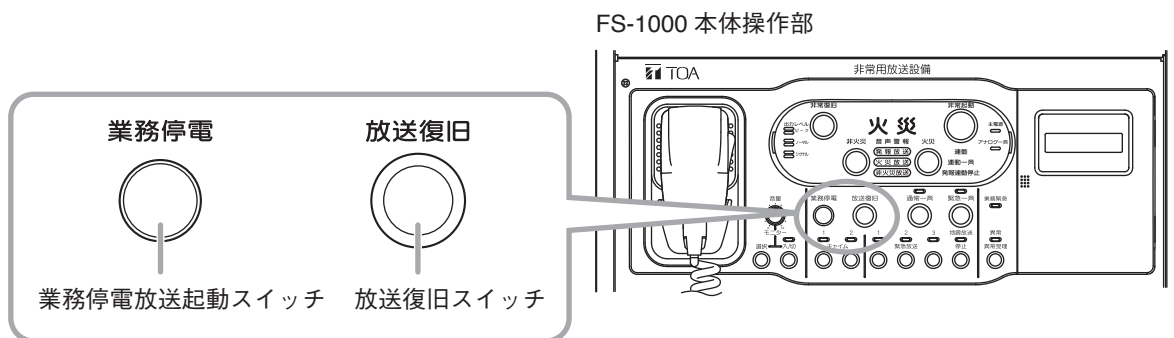
ご注意

業務停電放送を行うにはあらかじめ設定が必要です。設定のしかたは、別冊の設置説明書「業務停電放送を行うときの接続と設定」をお読みください。

メモ

業務放送中に常用電源が停電したときは、自動的に業務停電放送状態に切り換わり、放送が継続されます。
業務停電放送中に常用電源の電源供給が再開されたときにも、自動的に電源が切り換わり、放送が継続されます。

業務停電放送起動スイッチによる起動



1 FS-1000 本体または非常用リモコンの業務停電放送起動スイッチを押す。
システムが停電待機状態から立ち上がります。

業務停電



2 通常の業務放送と同様の操作で放送する。

ご注意

業務停電放送起動スイッチを押してから、しばらく放送の操作がないときは、自動的に停電待機状態に戻ります。

放送復旧



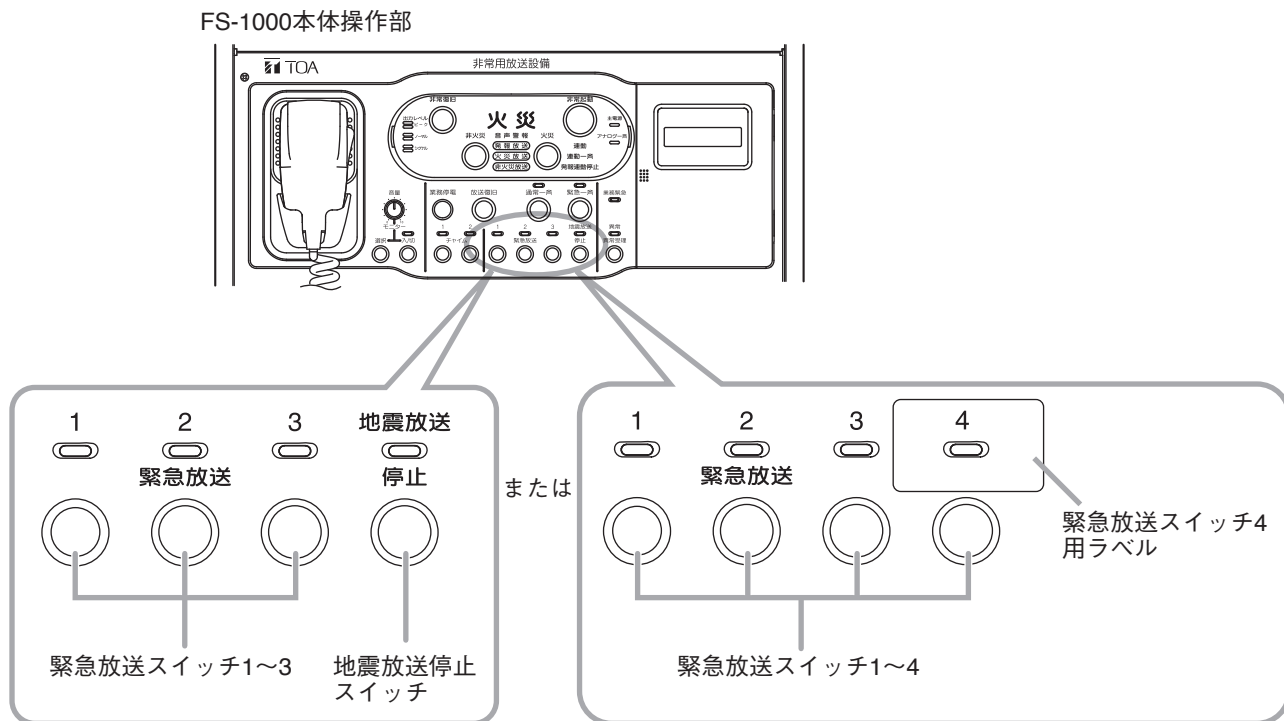
3 すべての放送が終了したら放送復旧スイッチを押す。
システムが停電待機状態に戻ります。

● 緊急放送スイッチによる起動

業務停電放送が行えるように設定されているときは、停電時も緊急放送が行えます。

FS-1000 本体または非常用リモコンの緊急放送スイッチを押すと、あらかじめ登録したメッセージを、設定した放送階へ放送することができます。

放送が終了すると、システムは自動的に停電待機状態に戻ります。



※ この操作を行うには緊急放送スイッチの設定が必要です。(別冊のシステム設定説明書「緊急放送スイッチの設定」)

※ 地震放送停止スイッチとして設定されているスイッチは、業務停電放送には使用できません。

※ 業務停電放送として制御入力から緊急放送を行う場合は、業務停電放送を起動可能な制御入力に機能を割り当てる必要があります。(下記「外部機器からの制御入力による起動」)

● 外部機器からの制御入力による起動

業務停電放送が行えるように設定されているときは、以下の端子をメイクすることで停電時に業務放送を起動することができます。

- ・電話ページング接点入力端子
- ・タイマー接点入力端子
- ・外部マイク接点入力端子
- ・接点式 RM 接続端子の「チャイム」*1

端子がブレイクされると放送が終了し、待機状態に戻ります。*2

*1 接点式リモコンを使用する場合

チャイム接点をメイクすると FS-1000 が起動します。チャイム接点をメイクしてから約 10 秒以内に回線を選択してください。放送終了時は、回線選択を解除すると、自動的に待機状態に戻ります。

*2 放送終了時チャイムを設定しているときは、チャイムが鳴り終わってから待機状態に戻ります。

緊急地震放送

緊急地震速報受信端末と連動して、設定した階に自動で緊急地震放送をすることができます。

停電時も非常電源での放送が可能です。

緊急地震放送は FS-1000 システムで最優先の放送であり、この放送を行っている間は非常放送や業務放送は行えません。

緊急地震放送をするための設定については、別冊のシステム設定説明書「緊急放送スイッチの設定」をお読みください。

緊急地震放送の流れ

1 緊急地震速報受信端末が緊急地震速報を受信。

FS-1000 本体の緊急地震放送接点入力端子がメイクされます。

2 チャイム音が鳴り、緊急地震放送が流れる。

音声メッセージ：「地震です。落ち着いて身を守ってください。」（男声）

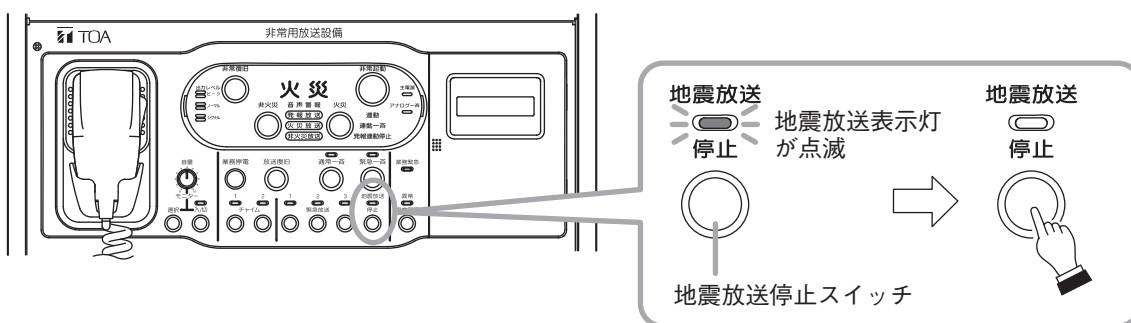
放送階：あらかじめ設定した階すべて（別冊のシステム設定説明書「制御入力による放送の回線／グループ番号の設定」）

地震放送表示灯が点滅します。

メ モ

緊急地震放送を停止したいときは、FS-1000 本体または非常用リモコンの地震放送停止スイッチを押してください。

FS-1000 本体操作部



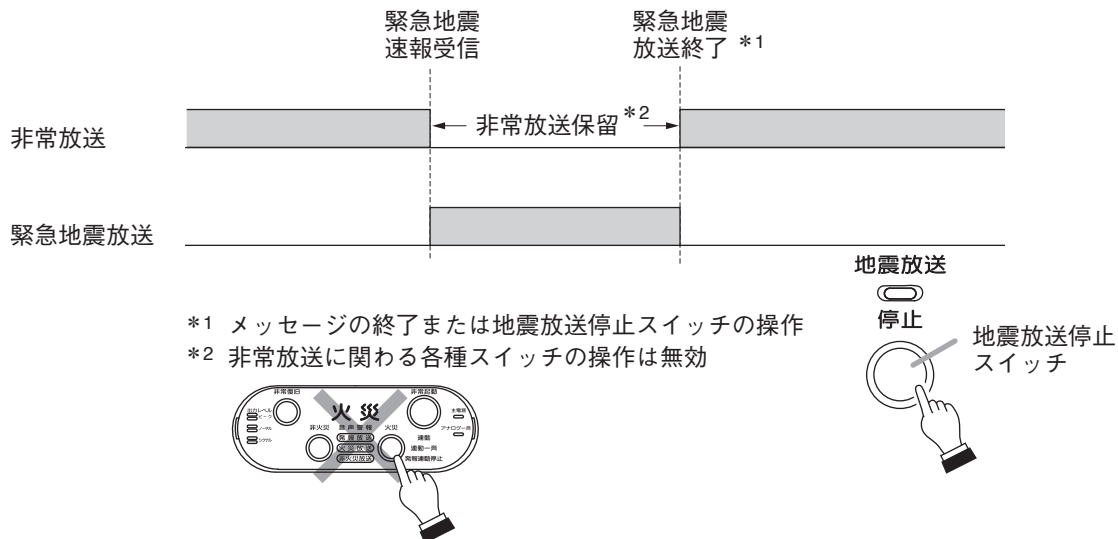
3 放送を終了。

音声メッセージの再生が終了するか、地震放送停止スイッチを押すと、緊急地震放送が終了します。緊急地震放送によって中断・保留となっていた放送があれば再開します。

■ 緊急地震放送時の非常放送の動作

緊急地震放送は非常放送よりも優先して放送されます。緊急地震放送の放送時間は約 15 秒です。非常放送中に緊急地震速報を受信したとき、または緊急地震放送中に非常放送起動入力があったときの動作は以下のとおりです。

● 非常放送中に緊急地震速報を受信したとき



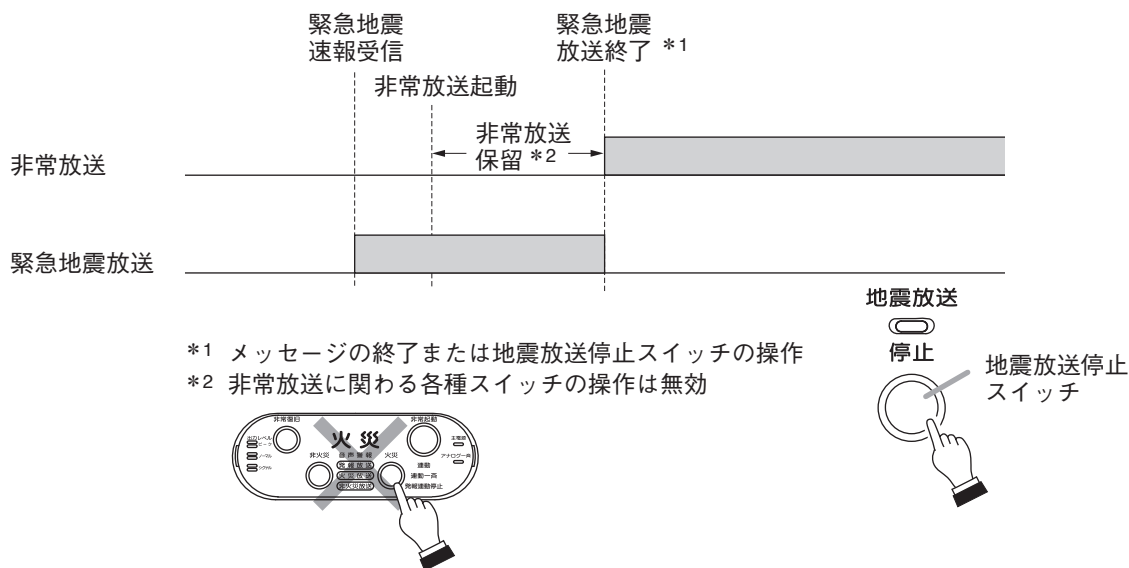
非常放送中に緊急地震速報を受信した場合は、非常放送が中断され、緊急地震放送に切り換わります。非常放送中断中に、非常放送に関わる各種スイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作をしても無効となります。ただし、火災確認信号または階別信号を受信したときは、放送待機状態となり、関連する表示灯は点灯します。

緊急地震放送が終了すると、自動で非常放送状態に戻ります。

非常放送を優先して行いたいときは、地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了する必要があります。

マイク放送中に緊急地震速報を受信をしたときは、トークスイッチのオン／オフ状態に関わらずオフしたものと扱われます。

● 緊急地震放送中に非常放送起動入力があったとき



緊急地震放送中に非常放送が起動した場合、緊急地震放送が優先され、非常放送は保留されます。この間、非常放送に関わる各種スイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作をしても無効となります。ただし、非常起動スイッチについては、放送待機状態となり、火災表示灯は点灯します。

緊急地震放送が終了すると、保留していた非常放送が開始されます。

非常放送を優先して行いたいときは、地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了させます。

日常点検

重要

万一のときに機器が正常に動作するように、点検を必ず実施してください。
異常が発生したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

ご注意

蓄電池の寿命は4年です。使用状態に関わらず、これを過ぎると停電中の放送に問題を起こす恐れがあります。
点検時のエラー発生によらず、販売店または保守契約店へ連絡してください。
蓄電池の交換およびリサイクルについては「ニカド電池の交換について」(P. 68)、「ニカド電池のリサイクルについて」(P. 5)をお読みください。

■ 自動点検

FS-1000 システムは自動点検を行います。
自動点検は、定期点検、常時監視の2通りの方法で行われます。

● 定期点検

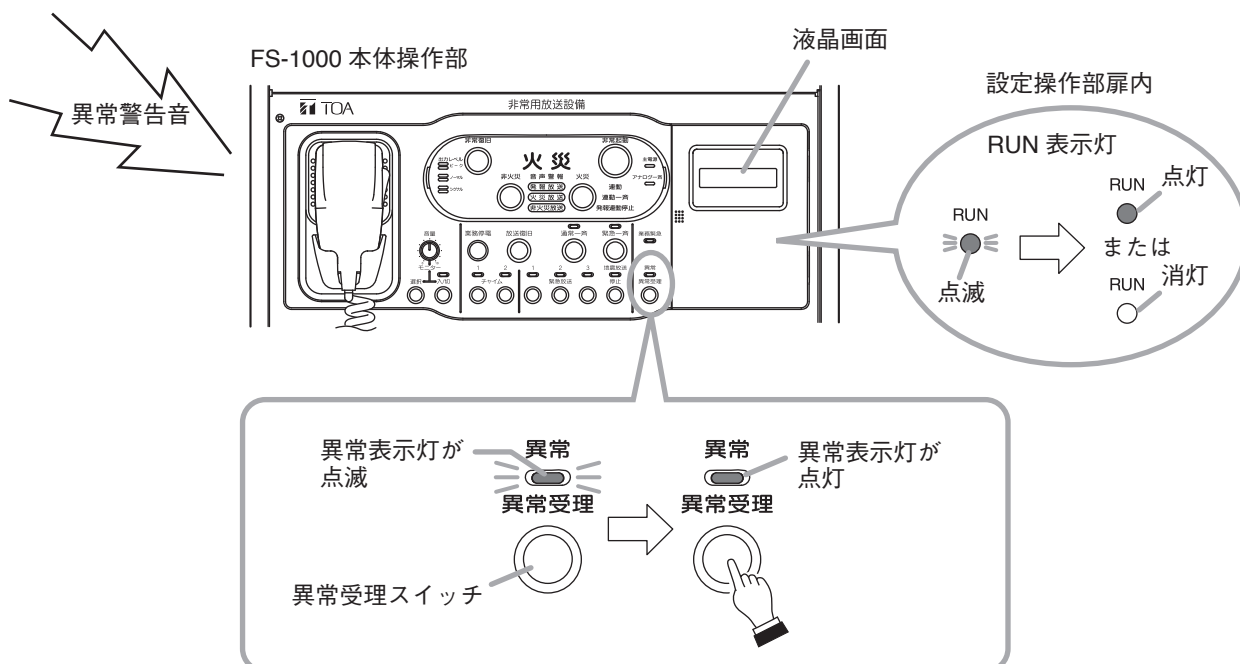
1日1回、あらかじめ設定した時刻に行われます。(別冊のシステム設定説明書「自己診断」)
ただし、定期点検を設定した時刻に放送中の場合は、放送終了後に定期点検が実施されます。

● 常時監視

スピーカー回線の短絡などは、常に異常検出を行っています。
※ スピーカー回線の短絡は、放送時のみ検出します。

● 異常を検出したとき

異常を検出したときは、FS-1000 本体または非常用リモコンの異常表示灯が点滅し、異常警告音が鳴ります。
CPUに異常があったときは、RUN 表示灯が点灯または消灯し続けます。
スピーカー回線に短絡などの異常が発生したときは、異常のある回線のみを切り離します。
異常警告音を停止させるには、異常受理スイッチを押します。
異常受理スイッチを押すと、異常表示灯の点滅が停止し、液晶画面に異常の内容が表示されます。(次ページ)



キ ョウムハウソウチュウ
BGM



イジ ョウハッセイ
カクニン → イジ ョウジ ユリ



<イジ ョウ> 1 / 14
キキナイフ イジ ョウ



<イジ ョウ> 2 / 14
セツゾク イジ ョウ



<イジ ョウ> 14 / 14
DSP イジ ョウ



キ ョウムハウソウチュウ
BGM

機器の動作中に異常が検出されたとき、液晶画面に異常の内容が表示されます。
(左図は BGM 放送中の表示例です。)

異常
異常受理



異常表示が複数ページにわたるときは、異常受理スイッチを押して画面を切り換えます。

異常
異常受理



異常
異常受理



最後の画面で異常受理スイッチを押すと、異常表示画面が閉じます。

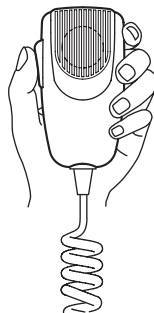
● 異常表示中に放送したいとき

CPU 異常があった場合、アナログ一斉放送切換スイッチを ON 側にすることで、マイクによる一斉放送ができます。

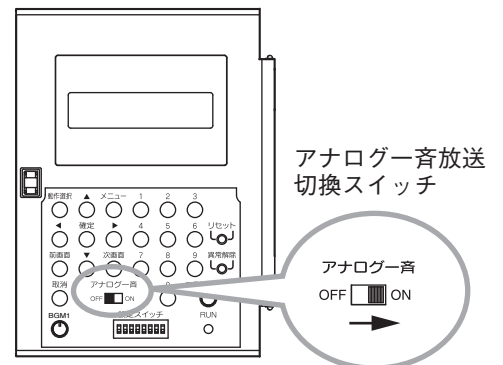
【ご注意】

パワーアンプの故障やスピーカー回線の短絡など、異常によっては放送がされないエリアがあります。また、マイク異常のときは、マイク放送はできません。

非常時には他の手段による情報伝達が必要となります。



FS-1000本体設定操作部扉内



■ 手動点検

本機を操作して手動で点検をすることができます。
電源の点検、自己診断機能を使った点検が行えます。

● 電源の点検のしかた

FS-1000 本体の表示灯および点検スイッチを使って、電源を点検をすることができます。

1 主電源電圧を確認する。
主電源表示灯が点灯していることを確認します。

2 主回路電源電圧を確認する。
主回路／非常電源表示灯が点灯していることを確認します。
※ どのスイッチも押さないでください。

3 非常電源の出力電圧を確認する。
蓄電池点検スイッチまたは非常電源電圧点検スイッチを押して、主回路／非常電源表示灯が点灯していることを確認します。
(点検のしかたの詳細は 次ページ)

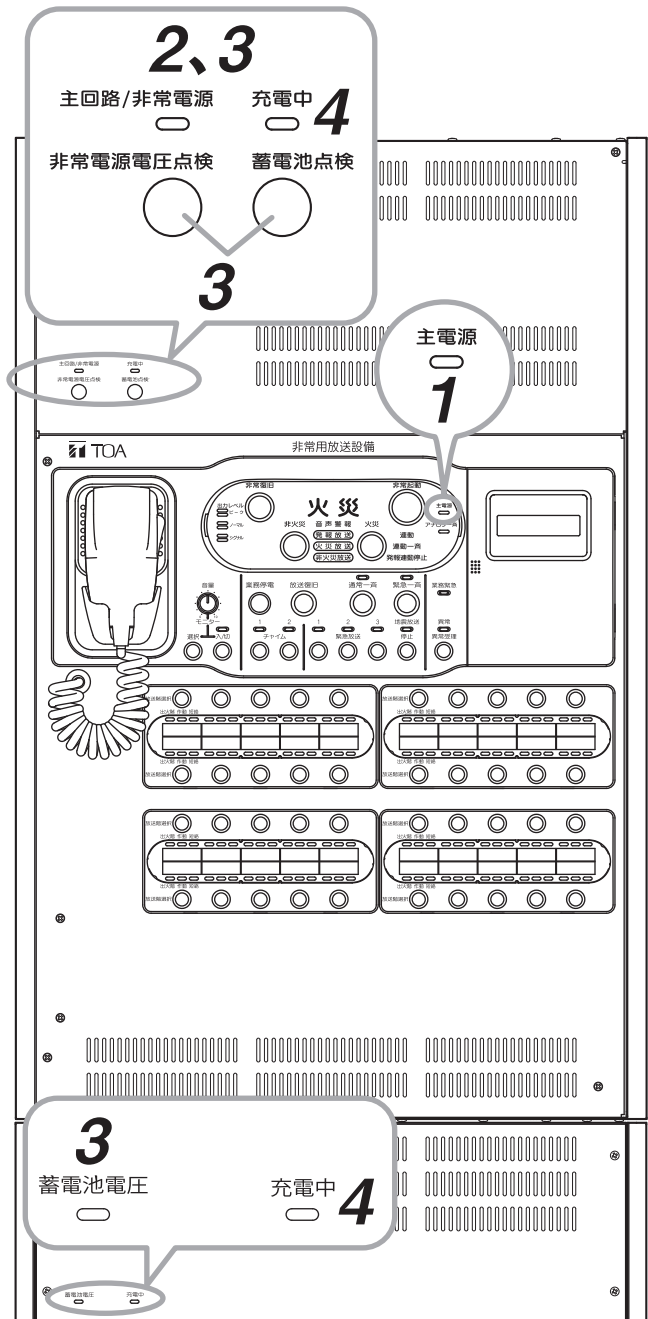
[FS-1000GU を使用している場合]
FS-1000GU の蓄電池電圧表示灯も点灯していることを確認します。

■ ご注意

蓄電池点検スイッチによる蓄電池の電圧点検は、1 回あたり 10 秒以内、1 日 2 回までとしてください。これより多く蓄電池点検スイッチを押すと、蓄電池が消耗し、非常時など、動作に蓄電池が必要なときに動作しなくなる可能性があります。

4 充電がされていることを確認する。
充電中表示灯が点灯し、蓄電池に充電が行われていることを確認します。

[FS-1000GU を使用している場合]
FS-1000GU の充電中表示灯も点灯していることを確認します。



[蓄電池点検スイッチによる点検]

- 蓄電池点検スイッチを押したときは、FS-1000 本体および FS-1000GU に搭載されている蓄電池を放電させ実際の使用に近い状態で蓄電池の点検を行うことができます。点検中の蓄電池の出力電圧の状態は、右表のように表示されます。このとき、FS-1000 本体内蔵の蓄電池の出力電圧の状態は主回路／非常電源表示灯に、FS-1000GU 内蔵の蓄電池の出力電圧の状態は、FS-1000GU の蓄電池電圧表示灯に表示されます。
- 24 時間ごとの蓄電池の自動点検もこの方法で行われます。
- この方法による点検は放電により蓄電池を消耗させるため、頻繁に行うと停電時の非常放送および FS-1000GU を使用している場合の業務停電放送が行えなくなることがあります。また、停電中は蓄電池による放送の開始に備えて蓄電池の消耗を防ぐために、蓄電池点検スイッチを押しても点検は行われません。

表示灯の状態	蓄電池の出力電圧の状態
点灯	正常
点滅	電圧が低下（正常動作は可能）
消灯	異常

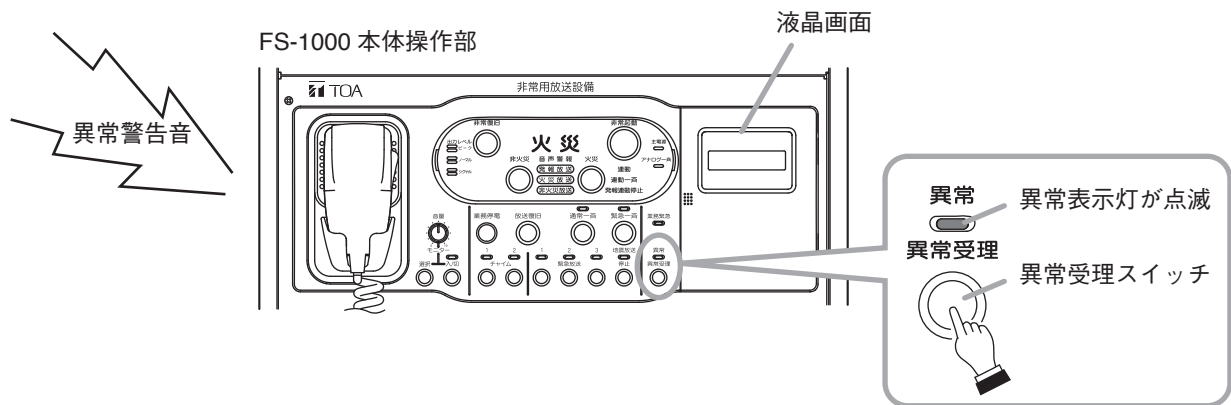
[非常電源電圧点検スイッチによる点検]

- 非常電源電圧点検スイッチを押したときは、蓄電池の出力電圧を点検することができます。点検中の蓄電池の出力電圧の状態は、右表のように表示されます。このとき、FS-1000 本体内蔵の蓄電池の出力電圧の状態は主回路／非常電源表示灯に、FS-1000GU 内蔵の蓄電池の出力電圧の状態は、FS-1000GU の蓄電池電圧表示灯に表示されます。
- 蓄電池は放電を開始したときに出力電圧が急激に低下することもあるため、蓄電池を放電させないこの方法による点検結果は参考値です。

表示灯の状態	蓄電池の出力電圧の状態
点灯	正常
点滅	電圧が低下（正常動作は可能）
消灯	異常

[異常があったとき]

- 点検の結果異常があったときは、異常表示灯が点滅し、異常警告音が鳴って異常の内容を液晶画面に表示します。



- 異常警告音を停止させるには、異常受理スイッチを押します。
- 異常受理スイッチを押すと、液晶画面に異常の内容が表示されます。
- 異常表示が複数ページにわたるときは、異常受理スイッチを押してページを切り換えます。
- 最後のページでまで異常受理スイッチを押すと、異常表示画面が閉じます。

● 自己診断機能を使った点検

液晶画面でメニューを選択して点検します。
点検のしかたは、別冊のシステム設定説明書「自己診断」をお読みください。

■ 異常表示の一覧

異常検出時の表示	異常	異常の内容	点検時期
<イジ ョウ> 1 / 14 キキナイフ イジ ョウ	機器内部異常	FS-1000 本体内部に異常があります。	常時監視
<イジ ョウ> 2 / 14 セツゾク イジ ョウ	接続異常	FS-1000 本体内部のユニット間の接続に異常があります。	常時監視
<イジ ョウ> 3 / 14 デンゲン イジ ョウ	電源異常	FS-1000 本体内部の電源に異常があります。	常時監視
<イジ ョウ> 4 / 14 オント イジ ョウ	温度異常	デジタルパワーアンプユニット内部の温度に異常があります。	常時監視
<イジ ョウ> 5 / 14 ツウシン イジ ョウ	通信異常	FS-1000 本体内部のユニット間の通信に異常があります。	常時監視
<イジ ョウ> 6 / 14 カイセン タンラク イジ ョウ	回線短絡異常	接続したスピーカー回線が過負荷状態となっています。	常時監視
<イジ ョウ> 7 / 14 ヒジ ョウ キトウ イジ ョウ	非常起動異常	FS-1000 本体内部の停電起動ラインに異常があります。	常時監視
<イジ ョウ> 8 / 14 テイデン キトウ イジ ョウ	停電起動ライン異常	FS-1000 本体内部の停電起動ラインに異常があります。	定期点検
<イジ ョウ> 9 / 14 SPD イジ ョウ	SPD 異常	FS-1000 本体または非常用リモコンのサージアブソーバーに異常があります。	定期点検
<イジ ョウ> 10 / 14 セツゾク コウセイ カクニン	接続構成確認異常	設定した FS-1000 システムの機器構成と機器間の接続に不一致が発生しています。	定期点検
<イジ ョウ> 11 / 14 タイキチュウ デンゲン	待機中電源異常	FS-1000 本体内部の待機中電源ラインに異常があります。	定期点検
<イジ ョウ> 12 / 14 バッテリー イジ ョウ	バッテリー異常	FS-1000 本体または業務用電源ユニットの蓄電池に異常があります。	定期点検
<イジ ョウ> 13 / 14 アンプ イジ ョウ	アンプ異常	デジタルパワーアンプユニット内部に異常があります。	定期点検
<イジ ョウ> 14 / 14 DSP イジ ョウ	DSP 異常	FS-1000 本体の DSP が再生する音源データに異常があります	定期点検

※ 液晶表示がなく、設定操作部扉内の RUN 表示灯が点灯または消灯し続けている場合は、異常です。

ニカド電池の交換について

FS-1000 本体および業務用電源ユニット FS-1000GU のニカド電池は定期的に交換してください。

⚠ 注意

- ニカド電池を、ショート・分解・加熱・火の中に入れるなどしないでください。
- 取り出したニカド電池は、ショート防止のために、端子に絶縁テープを貼るなどの対策を行ってください。
- ニカド電池を交換するときは、下記のとおり、各機種に指定されたニカド電池をご使用ください。

FS-1109PU * : NDC-2418
FS-1118PU * : NDC-2435
FS-1127PU *、FS-1140PU *、FS-1000GU : NDC-2460
* FS-1000 本体内蔵のパワーアンプ



ニカド電池のリサイクルにご協力ください

使用済みのニカド電池は、捨てないで、お買い上げの販売店または当社営業所へ返却してください。

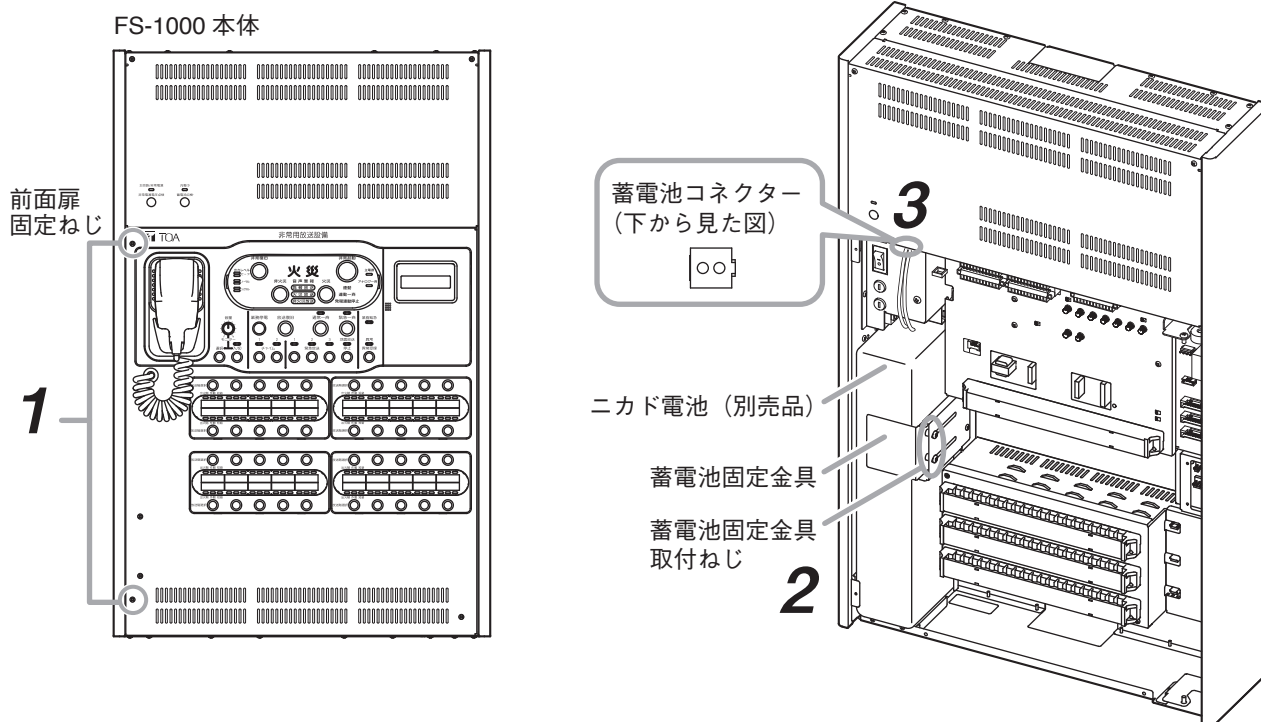
ご注意

- ニカド電池の寿命は標準で約4年です。これを過ぎると停電中の放送に問題を起こす恐れがあります。点検時のエラー発生の有無に関わらず、4年ごとにニカド電池を交換してください。また、設置環境によっては、これより短期間で寿命となる場合もあります。点検時にエラーが発生した場合は、速やかにニカド電池を交換してください。
- ニカド電池の交換時に電源を遮断した場合は、必ず別冊の設置説明書に記載の「電源投入」の手順に従って電源を入れてください。

[FS-1000 本体のニカド電池の交換のしかた]

1 前面扉固定ねじ (2カ所) をゆるめ、前面扉を開ける。

2 蓄電池固定金具取付ねじ (2カ所) を外し、蓄電池固定金具を取り外す。

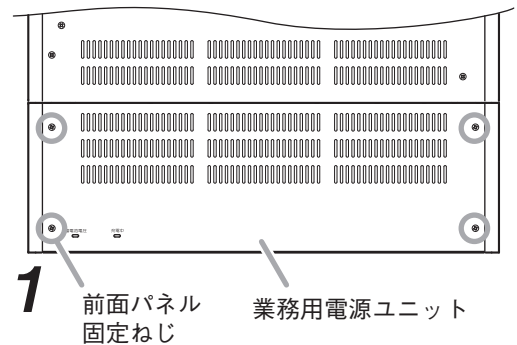


- 3 ニカド電池のコネクターを抜く。
- 4 蓄電池収納部からニカド電池を抜き取る。
- 5 指定の新しいニカド電池を挿入する。

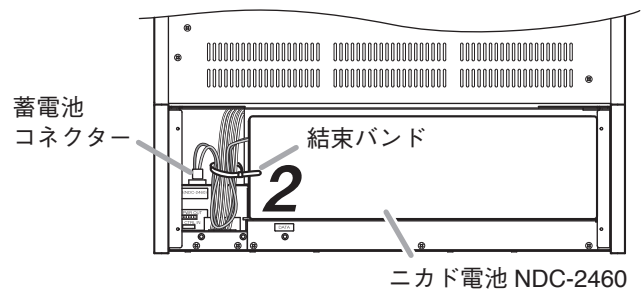
- 6 ニカド電池のコネクターを接続する。
- 7 蓄電池固定金具を元どおりに取り付ける。
- 8 前面扉を元どおりに取り付ける。

[業務用電源ユニットのニカド電池の交換のしかた]

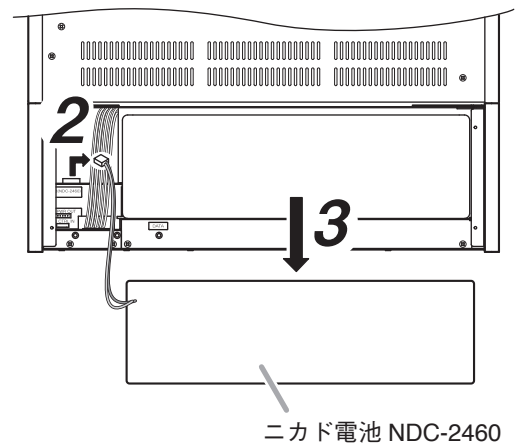
- 1 前面パネル固定ねじ（4カ所）をゆるめ、前面パネルを取り外す。



- 2 接続ケーブルを束ねている結束バンドを外し、ニカド電池のコネクターを抜く。



- 3 蓄電池収納部からニカド電池を抜き取る。
- 4 指定の新しいニカド電池を挿入する。
- 5 ニカド電池のコネクターを接続する。



- 6 デジタルパワーアンプユニットからのケーブルおよび蓄電池との接続ケーブルを元どおりにバインドする。
- 7 前面パネルを元どおりに取り付ける。

非常放送用語

用語	説明	
い	一斉移行タイマー	火災放送開始時または火災放送移行タイマーのタイムアップ時にスタートし、自動的に一斉火災放送を開始させるタイマーです。(P. 22)
か	火災確認信号	非常用放送設備に火災放送を行わせる信号です。火災確認時に自火報から信号が送られます。
	火災放送	火災が発生したことを館内に知らせる放送です。(P. 31)
	火災放送移行タイマー	発報放送開始時または火災音信号鳴動開始時にスタートし、自動的に火災放送を開始させるタイマーです。(P. 22)
	火災モード	手動起動、非常電話・発信機が起動したときに、感知器発報放送なしに、すぐ火災放送をするモードです。システム設定時に発報モードか火災モードかを選びます。
	感知器	熱や煙などを感知して信号を送る装置です。感知器が作動すると、受信機を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。
	感知器発報放送	感知器などが作動したときに、火災の発生を確認中であることを知らせる放送です。(P. 31)
	じ	自動火災報知設備
受信機		感知器や発信機からの信号を受信して、火災の発生を防火管理者に知らせる装置です。受信機を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。(P. 23)
は	発信機 (押しボタン)	火災が発生したときに、火災を知らせる起動装置の1つです。ボタンを押すと、受信機を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。(P. 26)
	発報モード	手動起動、非常電話・発信機が起動したときに、まず感知器発報放送がされ、その後に火災放送をするモードです。システム設定時に発報モードか火災モードかを選びます。
	発報連動停止モード	自火報感知器が起動したときに、感知器発報放送がされないモードです。本機の操作者には現場の確認を指示する音声ガイドメッセージをモニタースピーカーから知らせます。このモードで使用するには所轄の消防署の承認が必要です。システム設定時に発報連動モードか発報連動停止モードかを選びます。
	発報連動モード	自火報感知器が起動したときに、館内に感知器発報放送をするモードです。システム設定時に発報連動モードか発報連動停止モードかを選びます。
ひ	非火災報放送	現場を確認後、火災の発生がなかったことを館内に知らせる放送です。(P. 31)
	非常電源	常用電源が停電したときでも非常放送や緊急地震放送を行うための電源です。本システムにニカド電池が内蔵されています。ニカド電池は4年で交換してください。(P. 68)
	非常電話	火災が発生したときに、火災を知らせる起動装置の1つです。非常電話機(子機)を取り上げることで操作部(親機)を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。(P. 26)
れ	連動一斉モード	自火報感知器または非常電話・発信機が起動したときに、すべての階に非常放送をするモードです。システム設定時に連動モードか連動一斉モードかを選択します。
	連動モード	自火報感知器または非常電話・発信機が起動したときに、出火階(起動のあった階)とその直上階に非常放送をするモードです。システム設定時に連動モードか連動一斉モードかを選択します。

TOA お客様相談センター	フリーダイヤル (固定電話専用) 0120-108-117	商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。
商品の内容や組み合わせ、操作方法についてのお問い合わせにお応えします。	ナビダイヤル 0570-064-475 (有料)	
受付時間 9:00～17:00 (土日、祝日除く)	FAX 0570-017-108 (有料) ※ PHS、IP 電話からはつながりません。	

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <https://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-02-00149-05